

42960

教科書文庫

4
210
41-1939
20000 81618

Kodak Gray Scale



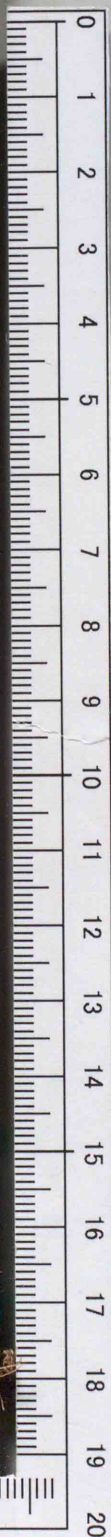
© Kodak, 2007. TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007. TM: Kodak



文學博士渡邊世祐著

新制中學國史 上級用 下卷

東京 會社 六盟館

教科書文庫
41-1939
20000



資料室

教科書文庫

4

210

41-1939

2000081618

日九月一十年四十和昭

科史歷校學中

濟定檢省部文

文學博士 渡邊世祐著

新制 中學國史

上級用
下卷

東京會社 六盟館

広島大学図書

2000081618



42

210

BB14



緒言

本書は昭和十二年三月改正の文部省新教授要目に準據し、中學校國史教科書上級用として、編纂せるものである。編纂に當り左の諸點に特に留意した。

- 一、學生をして特に國體觀念を理解し、尊王精神を基調とする舉國一致の國民的自覺を一層鞏固にし、新時代に即する公民的見識の涵養をなさしめることに最も注意を拂つた。
- 二、初級用と關聯し、更に東洋史西洋史の既得の知識を綜合して、國史の觀點を明瞭にし、政治社會文化の全般に互り最も重大な問題につき、歴史的意義を十分徹底せしむるに努めた。これにより我が國體の精華、國民性並びに國民文化の特色等を明確にし、全體としての國民生活の理解によつて、國家的自覺を得せしめんことを心がけた。

昭和十二年九月

渡邊世祐

新制
中學
國史
上級用
下卷

目次

第一章 封建制度	一
第一節 封建制度の由來	一
第二節 江戸幕府の體制と政策	六
第三節 時代の推移と幕府の政策維持	一六
第四節 江戸時代の藩治	二五
第二章 邦人の海外發展と西洋文化の傳來	三三
第三章 經濟の進展	五五
第四章 文教の發達	六七
第五章 勤王思想の勃興と明治維新	八七
第一節 尊王思想の發達	八七
第二節 王政復古の思想と江戸幕府滅亡	一〇一

第三節 明治維新……………一三〇

第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達……………一四〇

第七章 現代に於ける經濟文化の進展……………一五三

第一節 明治初年に於ける國民生活の變動……………一五四

第二節 國民的自覺と國運の發達……………一五五

第三節 國威の發展と文化興隆……………一七九

第四節 大正時代……………二〇〇

第八章 國民の覺悟……………二二〇

目次終

新制 中學 國史 上級用 下卷

文學博士 渡邊世祐 著

第一章 封建制度

第一節 封建制度の由來

源賴朝は武家政治を形成し、家人を諸國の守護、莊園の地頭として、その土地・人民を治めしめた。そして守護は國內の軍事警察を掌り、地頭は莊園の行政に當り、年貢を徵收して、本家領家寺院等に納めたから、執務の分界が明らかにされてゐた。この分界は屢犯されたが、幕府の盛な間は守られた。されど室町時代となり、幕府の威令行はれざるに至り、分界は全く崩れ、勢力ある武家が莊園を横領するに至つて、莊園制度は崩解して領地となり、大名を形成した。大名は自己

知行制度の由來

鎌倉時代の守護・地頭の横領

室町時代に於ける莊園の横領

戦國時代の不安の形勢と封建制度

封建制度が武家の發生と關係し、その由來する所の遠くを注意し、従つてこれが我が國民生活、或は政治上、或は經濟上極めて深く影響を與へた點について理解せよ。

織田信長・豊臣秀吉の統一と封建制度の形成

朱印地知行地

徳川家康と封建制度の完成

知行制度

の領地内の土地・人民を私有して自立したが、同時に自衛のために、常に武装し、多くの部下を扶持して、主従關係を結んで戦功を勵ました。かくて大名の土地・人民を私有し、支配することが、封建制度發達の基をなした。



織田信長朱印・豊臣秀吉朱印・徳川家康朱印

織田信長・豊臣秀吉の天下統一によつて、封建制度は、著しくその體制が整つた。信長は部下に對して朱印狀を與へて、その領地内に於ける權利を認めた。これを朱印地とも呼び、知行地とも稱し、その組織を朱印制度、または知行制度といふ。ここに於て、莊園制度は全く崩壊せられた。そして秀吉も、また信長の制を完成するに努めたから、知行制度は發達した。

秀吉の薨去後、徳川家康は江戸に幕府を開き、信長・秀吉を通じて發達して來た知行制度を、そのまま踏

江戸時代の大名といふもの、由來について考へよ。

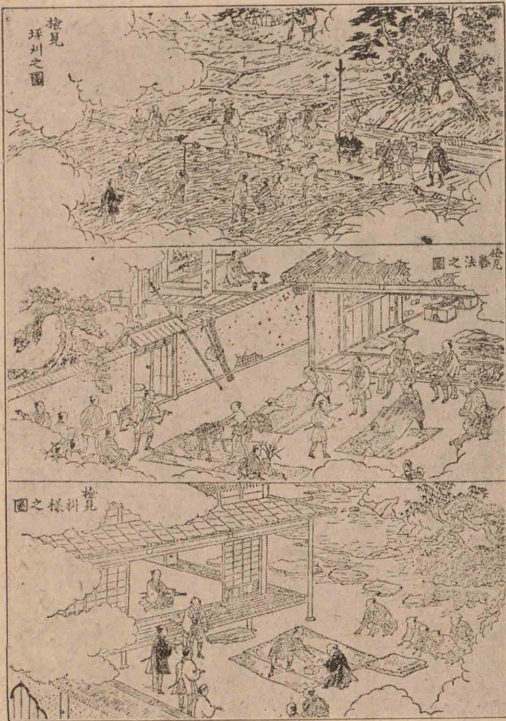
家康と封建制度

田制税制の整理統一

中世以後の田制紊亂と檢地の要

襲し、大名をそれぞれの地に封じ、領内の土地・人民を私有して、政治を行はしめた。されば江戸時代に入つて、封建制度は、完全に形成せられることとなつた。

大名の所領は、石高をもつて定められた。我が國では、大化改新後



檢見 檢之法 檢之林

田籍・田圖があつて、土地の狀況を記載したが、早く無くなり、中世以後は、中央集權の政治が衰へたため、田制の統一を失ひ、税制も紊れた。されば信長は勢力を擴めるに従

つて、正確な土地臺帳を作らうとし、檢地をしたが、未だ廣く行はれな

文祿の檢地
石盛
石高

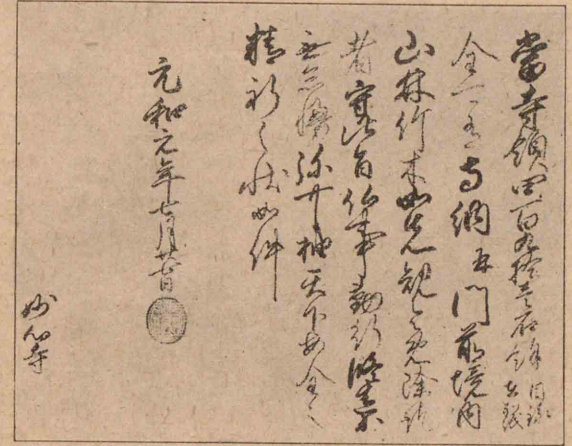
石高制の便
利

封建制度の
經濟的基礎

かつた。秀吉もまた檢地をなし、これによつて公平なる課税をせんとし、全國を通じて檢地を行はしめた。そして土地の段別、等級を定め、石盛コケモリをなして石高を定め、檢地帳を作らしめ、税額を決定せしめた。これを水帳とも呼び、世に文祿檢地または太閤檢地タイコウケンチといふ。

もと我が國の土地は、鎌倉時代から、普通には貫高によつて、その面積を表はしたが、信長・秀吉以後は、専ら石高をもつて廣狹を表はすに至り、非常に便利で、また確實となつた。

封建制度は、土地を基礎としたのであるから、江戸時代になつても、依然土地が經濟の最重要要素であつて、諸大名の生活の財源は、多くこれに據つた。



徳川家康の宛行宛状

封建社會の特色について述べてよ。そして封建制度の發達を必要とした社會的、事情と、またこれによる國民生活上の弊害とを述べ、制度がその時代に於いて最も意義深きもので、時代が進歩するに従つて必要を減じざる一例として考へよ。

農業經濟と
封建制度

知行内の農民

封建社會

武士中心の社會
階級制度

大名に従屬する武士は、大名から知行として土地を預り、その家臣は、またこれが分與を受け、上下何れもこれによつて生活した。されば封建制度は、經濟的には農業經濟に立脚し、土地が經濟上重要資源として成立したものである。そして大名が領地より獲る年貢は、境遇と地方とによつて相違してはゐるが、概ねこれを耕す農民の所得と略、同額であつた。

封建社會では、武士を中心として組織立てられ、特權が與へられた。將軍・大名・旗本の如き、何れも廣義の武士であつたが、これ等武士の下に立つて、農・工・商の庶民は、何れも家業に従事し、階級制度は嚴重であつた。その他別に、政治上何等の實權を有しないが、朝廷に仕へた公家と、寺院の僧侶とは、何れも特殊の關係に立ち、社會の上位を占めてゐた。

かくの如く、不平等の社會の出來たのも、兵農の分離した結果であ

兵農併行

不安の世相
と武力尊重
郷士

兵農分離と
武士庶民の
分限

江戸幕府の
基礎成る
江戸幕府

る。もと武士は田舎に起り、初は農作に従ひ、自衛のために傍ら武藝を練つたが、地方の混乱相づくに及んで、武藝を専らにするに至つた。そして鎌倉時代となつてから後、多數の農民は、農業の暇に武器を手にして、自から守る風を有した。されば戦國時代に、一向宗や法華宗の僧侶と共に、農民は郷士として、一揆や徒黨を結んで、戦闘に従つたのであつた。秀吉は天下を統一するや、太平を致さんとして、刀狩を行ひ、寺院や農民の武器を徴收して、それ等のものの武力の行使を禁じ、社會上、政治上の治安の維持をはかつた。ここに至つて、兵農は全く分離し、社會上、武士と庶民との分限が明らかになつた。

第二節 江戸幕府の體制と政策

徳川家康は、慶長八年には征夷大將軍に任ぜられ、幕府を江戸に開き、新に武家政治を興した。そして家康は、將軍職をその子秀忠に譲り、駿府に居り、大御所と稱された。されど大事は、悉く家康により、畫

政權を獲得する創業に比し、國家政治の體制を定める守成の業のまた困難なる所以を考へよ。
政治上、幕府と大名とは如何なる關係にあつたか。
江戸幕府の政治機構について理解せよ。便宜表解して見よ。

徳川秀忠

家光

江戸幕府の
職制

大老
老中

若年寄

大目付・目付

三奉行

策された。秀忠は謹厚にして、よく守成の功を收めた。その子家光は、豪邁にして、名臣の輔佐と相俟つて、よく諸大名を統制し、家康以來の制度を整へ、幕府の政治の基礎を固くした。

幕府の職制は、將軍の下に、大老、老中、若年寄の三役があつた。大老と老中とは將軍を輔け、幕政を統べ、特に朝廷並びに大名に關することを掌つた。大老は一人にして、常置の制でなく、老中は數人あり、月番制によつて政務を専行せしめた。これ等を、初は年寄と呼び、後には關老といつた。若年寄は數人あつて、老中の政務を輔け、また専ら旗本諸士に關する事務をとり、これも月番の制によつて政務を専任した。そしてこれ等三役の合同會議する所を、御用部屋といつた。また大目付は老中に屬して、大名や諸役人の監察に當り、目付は若年寄に屬して、旗本を監察した。

老中の下に、寺社、勘定、町奉行の三があつた。寺社奉行は、寺社及び

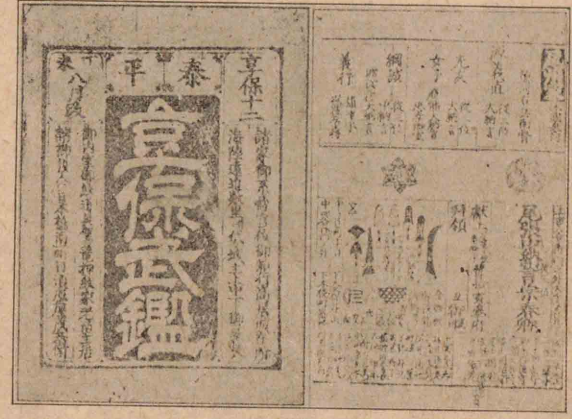
寺社奉行
勘定奉行
町奉行

地方職制

郡代
官代

所司代
城代
奉行

幕府政治體
制の特色



享保武鑑及及び表紙

した。それで京都には所司代、大坂駿府には城代があり、奈良、伏見、山田、長崎、浦賀、堺、新潟、佐渡、日光等の要地には、奉行を置いて庶政を見せしめた。
されば幕府は、中央政府であると共に、將軍一家の經營の府であつ

今日の三權分立の思想から幕府の政治機構を批判せよ。政治機構上の缺陷は何によつて補つたか。そして幕府の存続維持に對して武力に基づく獨裁專制力が唯一絕對に必要なものであつたことに注意せよ。

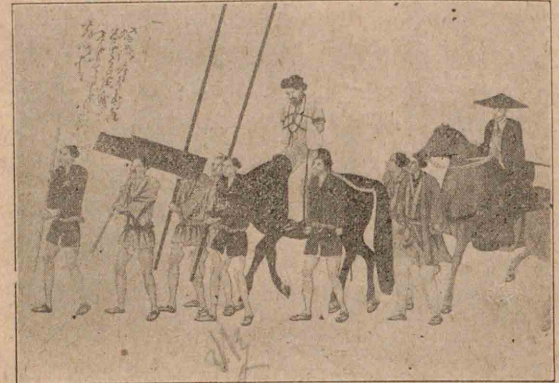
幕府

行政と司法の別

司法制度

評定所

大名に對する政策
懷柔親和の策



罪人引廻しの圖

てこれ等、體制上の不合理や不便は、幕府の權威をもつて、專制的に行つたから、政治全體の統制は實によくとれた。
大名に對する統制は、幕府の最も苦心したところであるが、豊臣氏の滅亡以前は、懷柔親和を旨とした。その後は漸く制御の策をとる

江戸幕府の
繼續に對す
る政策を各
方面から考
察せよ。そ
して封建の
體制をとり
ながら中央
集權的效果
をあげ得た
る所以につ
いて理解せ
よ。

諸大名の配
置

に至つた。常に變時を假定して大名の配置に心を用ひ、江戸を中心とする關東八州、京都を中心とする上方八箇國、並びに江戸と京都との間には、譜代大名を配置した。外様大名は、多く奥羽・中國・四國・九州などの、遠隔の地に封じた。

親藩・天領
の布置

またその間樞要の地點には、御三家並びに親藩・天領を交へた。かくて大小親疎の諸大名をして、互に相牽制せしめ、中央の檢察監視の便を得せしめることとした。

權力の平衡

また大名の權力の平衡に意を用ひ、譜代大名は概ね、知行地は少くとも、幕府の政權に與らしめ、外様大名は、これに關與せしめなかつた。そして知行地の大小と、政權の多少との權衡をよく保たしめた。

武家諸法度

家康は、更に元和元年に、武家諸法度を發布したが、その主とするところは、大名の武力に對する制限と、その徒黨結托・叛逆に對する防遏であつた。これによつて大名が、幕府の治安を害するが如き異圖を



武家諸法度
一 文武了馬、通事可相嗜幸
一 尤文武吉、法也不可不備矣、馬是武
家、要紀也、早、兵、爲、凶器、不得已而用、故不
忘、執、何、不、勵、快、殊、幸
一 可制群飲、後遊幸
令條、可裁、嚴、別、殊、重、耽、好、色、業、情、更、是、三、圖
一 墓也

樂傳及の自筆の武家諸法度

法度の改
訂

抑へ、且、その政治上の心得、並びに秩序維持に努めしめた。家康以後、將軍の代る毎に、武家諸法度は多少改訂を施されたが、その精神に關しては異なつてはゐなかつた。

法度の勵
行

かくて幕府は、武家諸法度を勵行して、大名の犯すものあれば、親藩・譜代・外様の別なく、領地を沒收し、大名を威服せしめた。これによつて幕府の直轄地を増加するにも効果があつた。

參勤交代の
制度

また幕府は、大名に、妻子を江戸に置かしめると共に、參勤交代の制を守らしめた。この制度は、大名の領國の位置によつて、交代の時期や、在國・在府の期間は一定しなかつたが、家光の時にその制度を確立

參勤交代
の結果

經濟上の課
役

公家に対す
る政策

禁中並びに
公家諸法度



大名道中圖 (筆重廣)

した。これより幕府は、全國に散在する大名を江戸に引付け、形式は封建制をとりつつ、實際に於て中央集權を確立した。また在府、及び道中往來のため、大名の蒙つた經濟上の打撃は、實に甚だしかつた。尙幕府は、大名に臨時に經濟上の賦役を課し、土木工事や、臨時のことに當らしめたので、大名の財政は相當に苦しく、常に幕府に抑へられてゐた。

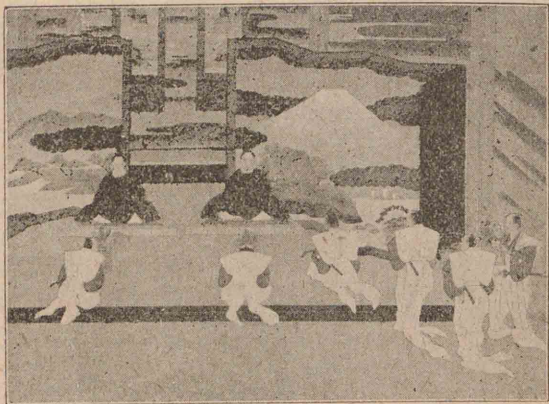
家康は幕府を江戸に開いたから、朝廷に對して特に考慮を要した。幕府は朝廷の御料を増し、公家の領地は漸次増加し、また臨時の奉仕につとめ、表面尊崇の態度を持した。されど禁中並びに公家諸法度

表面に尊崇
して政權を
掌握

對朝政策と
王政復古の
運動

寺院に對す
る政策
寺院諸法度

社會階級制
度
武士



幕府中年行事勅使饗宴

を定めて、その勵行には思ひ切つて厳しくし、政權を完全に、その掌中に置かんことを期した。かかる對朝政策に對し、御歴代御不遜を持せられ、公家の不平があり、他日王政復古の運動を導くに至つた。寺院の統制については、幕府は寺院諸法度を發布して、諸宗の本山、本寺に頒つた。諸宗によつて、多少その趣は相違すれども、僧侶の勤行^{ゴキヤウ}位階に關する規定や、僧侶の俗權に關係することなどを禁じ、徳行を勵まして、社會の教化に當らしめんとした。幕府は武家政治の體制に基づき、社會上武士に特權を與へ、庶民を抑へしめんとした。廣義には、將軍以下諸士に至るまで、皆武士であ

江戸幕府の
朝廷に對す
る政策が、
幕府にとつ
て極めて重
大性を有し
た點を理解
せよ。

將軍の地位

嚴格なる階級制度

指導階級

庶民に對する分限嚴守と治安維持



江戸時代武家服装

男子上着用

子女の盛装

び諸藩の武士は何れも世祿を給せられ、文武の兩道を兼修し、國民全體の指導階級としての地位を占めた。かくて幕府は、農工商の庶民に對しては、總べて服従を要求し、よくその分に安んじ、實業に従ひ、社會の秩序を維持せしめるに意を用ひ

農民の自治

五人組制度

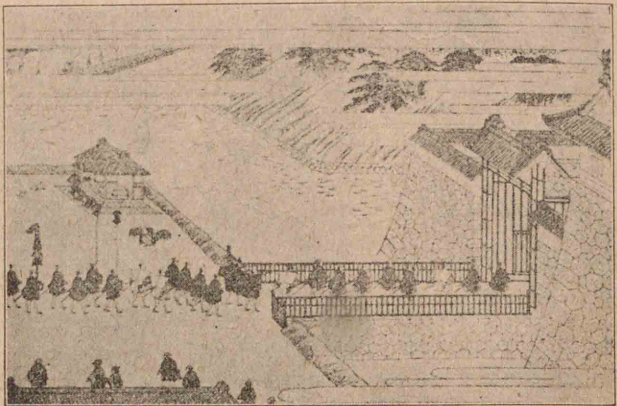
組頭

莊屋

大莊屋

町人の自治
五人組制度

江戸時代に於ける農民の自治の發達の状況を理解し、また自治機關と幕府との關係を表現して、よ



武家の家登城

奉行の管理をうけた。

町人は、農民より卑しめられ、直接生産に従はない商人は、更に職人よりも下位に立たしめられた。併し境遇は、多く農民と異なる所な

た。そして五人組制度を設け、近隣五家で組合をつくり、互に扶助せしめると共に、悪事犯罪を相警ましめ、共同に責任を分たしめた。五人組には組頭があり、名主、即ち莊屋に管せられた。莊屋は概ね一村を管し、上の命を下に傳へ、年貢をも取立て、村民とは極めて密接の關係を持した。莊屋は、また大莊屋といつて、多くの村を統轄するものによつて管せられ、大莊屋は多く苗字・帶刀を許されて、代官

家主地主

名主
町年寄

く、五人組制度が行はれ、家主地主がこれを取締り、その上に名主があつて、一町または數町に關して法令を傳達し、訴訟や仲裁のことに關係した。名主の上には町年寄があつて、町奉行の命を奉じ、種々の政務を處理した。江戸に於ける町内自治は最も整ひ、市政の圓滿な運用をなさしめた。後に明治時代、地方自治の制をとるや、この制による所が多かつた。

幕府政策の
効果

中央集權的
の効果

幕府政策の
根本

されば幕府はただ政治の大綱を握つて、諸藩の政治は全くその大名に任せた。そのために封建制度が、地方分權に傾かんとするの弊を避けんがために種々の對策を講じた。かくて幕府は、封建制度をとりながら中央集權政治の効果を收めて、よく治安を維持し、永く太平を持続した。

第三節 時代の推移と幕府の政策維持

幕府政治の基礎は、概ね家康から家光の頃までに整うた。その後

封建制による中央集權組織の固定形式化

政策維持
戰國殺伐の
風人

慶安の變

封建時代に於ける仇討に對し、この立場からまた政治的立場からいかに考へられてゐたか。

江戸幕府が浪人を恐れた理由について考へよ。



荒木又右衛門助刀始末書

歴代の將軍は、創立當初の政策と精神とを維持して、幕政の紀綱を張ることに努めた。江戸時代の初期は、尙戰國殺伐の餘風が漲り、辻斬仇討果し合ひな

どこのことが行はれた。武士にして、知行所職を有しない浪人の數も、極めて多く、大坂の役も鳥原の亂も、浪人の働が多く、常に政治上現状打破をこひねがひ、治安を紊すことが多かつた。偶、慶安四年に、由井正雪や丸橋忠彌の事件が起るに及んで、幕府の浪人に對する取締は、愈、厳しくなつた。その方法として、幕府は諸大名の改易、廢絶等を、成るべく少くし、五人組制度の利用を勵行した。

また戰國時代の名殘として、旗本から出た

旗本奴
町奴
男伊達

奉上思想の精神を幕府が教育上の根本とした理由を考へよ。
我が國民道徳の根柢であること、並びに西洋の平等思想の精神と比較して、一は上下に對する道徳、一は左右に對する道徳としての特色を對照し、社會的・公共的發達の上に於ては彼に學ぶべき點あるを覺り、思想上の採長補短のことも考へよ。

幕府の社會秩序の維持
民心の教化
學問の奨励

朱子學派による忠孝



伊達達衆

旗本奴、町人から出た町奴などがあつて、男伊達と稱し、強きを挫き弱きを助くるを念とした。これがために、却つて社會の秩序を紊したから、幕府は取締を嚴にし、將軍綱吉の頃には尠くなつた。

かくて幕府は、常に政治上・社會上の秩序を定め、これを保つことを念とし、一方不安の原因を除くと共に、他方民心の教化につとめた。そこで文武兩道の修業を、武士の理想として、學問の修養を必須のものたらしめ、武士の氣風を銑練した。特に學問については、最も穩健な朱子學を支持し、その思想によつて忠孝の徳を養ひ、主従の義を明らかにして、封建制度の根本を、鞏固にすることに努めた。そして上下を通じ、教育の普及するに努め、君臣・主従・父子・兄弟・夫婦・朋友の間の

奉上精神の教育

御定書百箇條

幕府の司法政策の精神

時代推移に對する幕府の政策維持

時代の推移と幕府の紀綱の弛廢

元祿時代

道徳を守り、下のものが上に奉ずるの精神を本とした。幕府はこの精神をもつて上下を一貫し、封建制度の組織を安定せしめんとした。また幕府は、刑律の上にこの精神を加味し、將軍吉宗は、從來の慣例と治安の實際を綜合し、御定書百箇條を制定せしめた。そして刑の量定について、倫常に戻るもの、治安を害するものを最重罪に擬し、幕府に對する謀計、主殺親殺關所破等は、最も嚴刑に處した。

江戸時代初期は、尙武にして質實剛健な、武士的精神が旺であつたが、太平打續くに從ひ、漸く弛廢して來た。特に大坂を中心とする、上方の經濟的發達が江戸に進展するにつれて、柔弱な文化の影響を受け、元祿時代より以後、一般に生活は著しく向上した。そして奢侈文弱の風に染み、幕府の政治紀綱は漸く弛むに至つた。

元祿時代に於ける、紀綱頽廢の後を受けて、將軍家宣の時に、政治の局に當つた新井白石は、學者にして政治上の見識に富み、家宣の信任

新井白石の
政治改革

徳川吉宗の
改革

緊縮政策

武道奨励と
士風鼓舞

國民精神の
向上

人材登用

徳川吉宗の改革につき全般的に觀察し、且、その改革中に幾多の現代的意義多き點に注意せよ。



元禄時代の風俗

を得て、改革する所が多かつた。併しその改革は、概ね儒學の精神に出て、禮義を尊び、儀式を重んずるの餘り、武家政治の根本に觸れなかつた。

將軍吉宗は、賢明にして、學問を好み、業を勵み、また人と爲り規律を重んじ、質素、儉約の風を尊んだ。そして元禄以來の弊風を矯めると共に、範を家康の政治にとり、武道を盛に奨励して、質實剛健な士風を起すに努めた。そし

て儒者の室鳩巢を登用して、六諭衍義大意を著はさしめ、國民に人倫道德の正しきを示し、精神の向上を圖つた。且、足高の制によつて人材登用の途を立て、目安箱を設けて、役人の政治に對する民情を察し、

政治の一新を期した。

かくて幕府の法律、制度も整ひ、大岡忠相の如きは、登用せられて江戸町奉行となり、民政を整へ、裁判を公平にした。また吉宗は、慈善公共の事業に心を用ひ、牢獄の改良、囚人の衛生に意を用ひた。更に醫藥の法を講じ、小石川の藥園に養生所を開き、貧民に施藥し、社會事業を行つた。吉宗は荒地を開墾し、産業を發展せしめ、よく實學を奨励して、時代の要求に合はせしめんとした。そして各地に甘藷の栽培をなし、砂糖製造を研究せしめ、或は馬種の改良、染色法の研究をなさしめた。また學術進歩のため、洋書輸入の禁を解いて、天文醫學等の研究に便を與へた。

民政の刷新
慈善事業
社會事業
産業政策と
實學奨励



江戸の防組

享保の治
幕府の中興

これ等は何れも、政策維持の上に適切なることであつた。かくて吉宗の改革は、よくその實を挙げ、幕府の紀綱は再び張り、且よく天下の人心を歸服せしめた。世にこれを享保の治と稱し、吉宗を幕府中興の英主と仰いだ。

吉宗薨後の
幕政頹廢

田沼意次

改革の必要

松平定信の
政治改革

協力一致

吉宗の薨去後、將軍家重家治の二代の間、田沼意次の執政によつて、政治は紊れ幕政は再び頹廢した。次の將軍家齊の頃には時勢の力は如何ともなし難く、士風も頹廢し、幕府より諸藩武士に至るまで、財政の窮乏は實に甚だしかつた。また社會には、奢侈淫逸の風が滔々として漲り、中央、地方上下をあげて、大改革を要する時世であつた。されば家齊は、一族の松平定信をあげて、幕政の改革を委ねた。定信は吉宗の孫で、至誠にして果斷、身命を堵して改革の事に當り、萬事享保の治に倣はんとした。そこで、人材を登用して幕府の要路に立たしめ、協力一致して政治の改革に當つた。

身を思ふいとまたある身なりせば思ふことなき身とやいはまし身をすつる心とへは君の爲國の守をおもふ餘りぞ
(松平定信)

松平定信の政策につき太田南畝の「世の中に蚊ほどのさきものはなしぶんぶ(文武)と云つて夜も寝られず」との狂歌に對し、當時の輿論についていかに想像することか
か。

緊縮政策

節儉令の勵行

備荒貯蓄

士風の鼓舞

寛政異學の禁



松平定信の自畫像

その改革は、幕府以下大名の政費を節約し、上一般の生活費を縮めて、非常な緊縮政策をとらしめ、收支の均衡を得せしめんとした。そして普く質素勤儉の令を下し、自から率先して節儉の範を垂れ、諸司に命じて、節儉のこゝとを勵行せしめた。それから饑饉に備へて、米穀の貯藏を奨励し、旗本、家人の負債を廢棄せしめた。また一般に、文武の道を奨励して士風を鼓舞し、頹廢した世風の矯正をはかつた。また教育の普及を圖り、江戸湯島の聖堂を擴張して、教化の効果を高めた。當時儒學各派の間に、論争が激しかつたので、定信は國民の思想統一、治安維持のため、穩健な朱子學を支持し、他派は異學として排した。これを寛政異學の禁

寛政の治と時代の潮流

幕府の衰運
文化文政の紀綱の弛廢



(示を影面の熟爛の化文江戸大の代時政文・化文)裳衣の伎舞歌

謂文化文政の時代となつた。先きの緊縮政策の反動で、世をあけて奢侈淫逸の風旺となり、幕府紀綱の弛廢は、如何ともなし難かつた。かくて幕政の頹廢と、屢起つた經濟界の變動と、各地に起る饑饉の

と稱し、學問の進歩には、妨げがあつたとの非難はあるが、幕府の政策維持のためには、必要のことであつた。かくて定信の改革によつて、幕府の紀綱は再び張り、これを寛政の治と稱へられる。併しその政治は、餘り嚴しい消極政策であつたために、世は不景氣となり、家齊を始め不平の聲が漸く高くなり、定信は職を辭した。

定信の退いた後は、政治は俄に弛み、所

各地方の不安
大鹽の亂

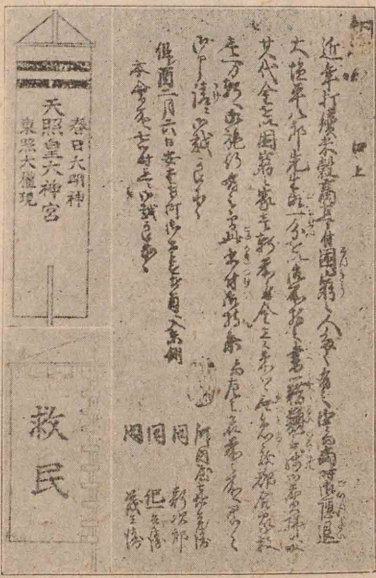
水野忠邦の天保の改革

幕府政策の維持困難の事情

ため、地方の疲弊甚だしく、不平の聲は上下に満ち、百姓一揆の暴動もあつた。この頃に起つた大鹽平八郎の亂こそ、眞に幕府衰亡の警鐘に當るものであつた。

將軍家慶の時、水野忠邦が老中となつて、幕政の改革に當つたが、その政策は餘りに過激に失し、却つて一般の反感を招き、効果を收められなかつた。かくて幕府は、時代の推移に對して、その政策維持の實力を失ふに至り、その基礎が漸く危くなるに及んだ。この頃、既に尊王論は漸く旺になり、また開國の意見を主張するものも出て、更に町人の擡頭によつて、社會組織變動の機運を生じた。

第四節 江戸時代の藩治

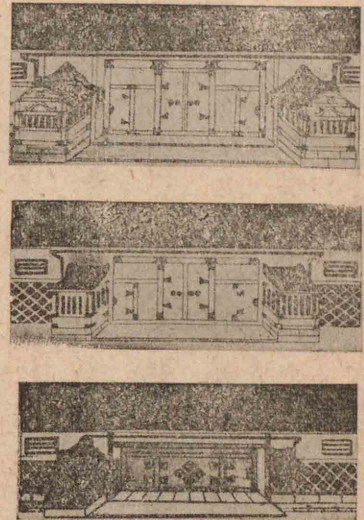


旗たし用使のそと文徽の米施郎八平鹽大

江戸時代に於ける幕府の紀綱の弛廢について、概観せよ。便宜各將軍の時代に於ける圖解的に表示して見よ。

諸大名の社會的地位

諸大名を中心とする武士の結成



上圖 十萬石以上 門表上
中圖 五萬石以上 門表上
下圖 五萬石以下 門表上

江戸時代の武士は、將軍に直屬した旗本・家人の外は、何れも大名を中心に、一つの集團を作つて、各地方に分散してゐた。従つて大名は、何れも將軍から知行地を預けられ、更にこれを分割して、部下の武士を扶持し、知行地の農民・町人を治めて、一つの社會的結合をつくつた。この結合を藩といひ、これが封建政治の基礎をなした。

藩治の基礎

大名の専制 幕府の強壓と中央集權 政治

大名の藩内に於ける政治は、專制的に行はれ、幕府も干渉せぬのが原則であつた。されど幕府が、武家諸法度によつて嚴壓を加へ、參勤交代の強制・轉封・並びに臨時に經濟上の賦役、及び諸役を課したため、常に幕府のために抑へられた。されば大名は僅かに一箇の地方官

藩とは何か、その政治的また社會的の意義を考へよ。同時に版籍奉還・廢藩置縣の政治的に見て大切なる意義を考へよ。

藩の相互關係

自主獨立と自給自足の主義

諸大名の賢愚と藩政との關係

藩政に對する藩民の救濟手段

藩治政策の概観

經濟政策 重農政策

封建政治に於ける大名と郡縣政治に於ける地方官とが相違するところを明らかにせよ。且江戸幕府の諸大名に對してとれる政策は、ローマがイタリヤ半島を征服した點を比較して見よ。

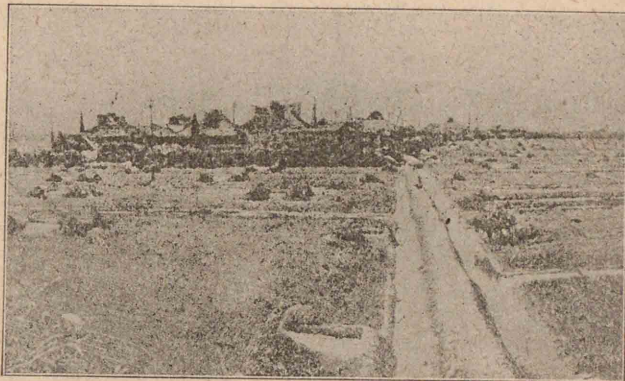
の如き觀を呈した。

初め幕府は、諸大名との關係を密にし、大名相互の交通連絡の緊密なるを抑へた。ここに於てか、親藩・譜代並びに外様の區別なく、諸大名は何れも有事の際、自力をもつて自家を衛り、また經濟的にもそれぞれの地理的境遇に基づいて、自給自足の道を立てねばならなかつた。そしてすべて藩士の良否並びに藩民の幸不幸は主として藩主にかかつてゐた。偶藩政が紊亂して、農民が暴動一揆の如き直接行動をとり、または幕府に直訴して、その干涉の發動を訴願するが如き場合には、幕府は治安を紊すものとして嚴罰するの制をとつた。

かくて、藩政上、最も留意せられたのは、その經濟と教化とであつた。何れの藩にあつても、それぞれの事情に應じて、殖産・興業に力を用ひた。そして各藩は共に土地經濟に立つてゐたから、重農政策をとつて新田を開墾し、灌漑を便にし、農民の保護と、農業方法の改善とに、意

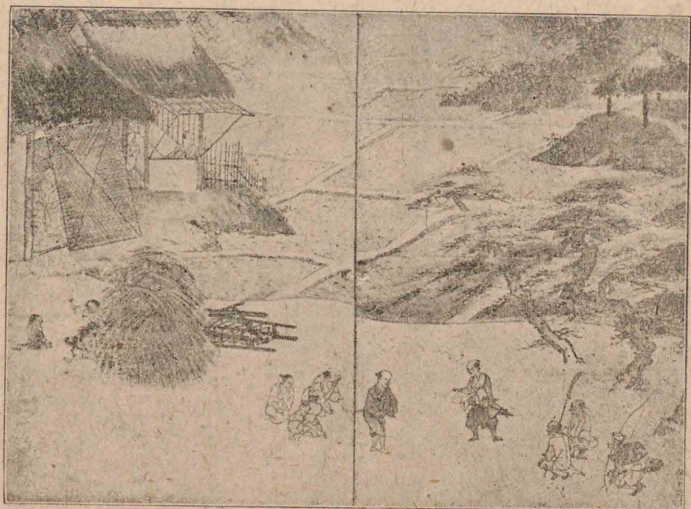
下總佐倉の
木内宗五郎
の話などは
江戸時代の
一つの政治
的現象とし
て考察せよ。

工業殖産
の奨励



淺野家開作赤磯鹽田

を用ひるは當然であつた。またその土地に
に適した工業を興し、林業の奨励、鑛山の開
發、鹽田の開作、漁業の發達など天然資
源の開發に留意して、各種の産業を盛



農田收穫後の(春稼秋牆圖屏風一部)

ならしめようとした。
武士は、經濟を輕視する風があつ
たが、太平が続いて人口は増殖し、生

活が向上して來たので、經濟的必要に迫られた。そこで諸藩は、商業
の保護奨励をなして、藩内産出の物資を賣出し、ひたすら利益を收め
ることを念とした。

また藩政として、教化は最も重んぜられ、江戸時代の中頃から、各藩
競うて藩校を起した。その學制は概ね昌平黌に倣ひ、朱子學をもつ
て藩士子弟の教育をなし、また領内の私塾や、寺子屋などを保護して、
農民、町人の教化にも意を用ひた。されば諸大名の力により、經濟上
並びに精神上から、我が國民文化は、それぞれ地方的に著しく進歩し
た。

諸藩は獨立した地位を有したが、幕府統制の下にあつたから、その
紀綱の弛張、政治方針などは、直ちに藩政に影響を與へた。江戸時代
の初期には、幕府の威令がよく行はれ、非凡な藩主が多かつた。中に
も會津の保科正之、土佐の山内忠豊、備前の池田光政、加賀の前田綱紀

重商政策

教化政策

藩校

私塾と寺
子屋保護

幕政の改革
と藩政の振
興

幕政と藩政
との關係

藩政上重商
政策を執る
に至れる事
情を考へよ。

江戸時代初期の名藩主



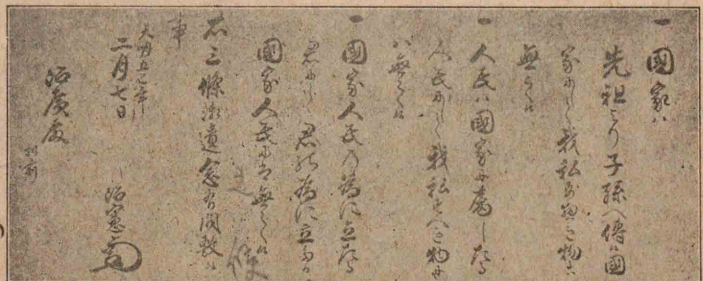
上杉治憲

等は、賢明の譽が高く、深く民治に心を留めた。

ついで將軍吉宗や、松平定信の政治

革新は、諸藩にも大なる影響を及ぼし、諸藩でも、幕府と同様に、多く經濟上藩政の建て直しを行つた。定信の白河藩に於ける治績は勿論、その他、小田原藩主大久保忠貞、福岡藩主黒田齊清、佐賀藩主鍋島治茂、萩藩主毛利重就等の如き、何れも著はれた。特に熊本藩主細川重賢、米澤藩主上杉治憲は、最も名聲を博した。

かくて藩治振興の結果、諸藩は民心の教化に貢献し、地方産業の開



上杉治憲撰國詞 (藏家爵伯杉上)

江戸時代後期の名藩主

藩治振興の結果

西洋封建制度との比較

封建制度發達上の類似

封建政治上に於ける異同

封建社會上に於ける異同

發されたものが多かつた。これ等に依つて、我が産業は、中央、地方を通じて一般に興隆し、地理的に適切なるものが、地方に發達して、影響を現在に及ぼしてゐる。

我が國の封建制度は江戸幕府によつて完成したが、これを西洋中の封建制度と比較すると自から異同がある。封建制度が武士の興起と關係し、その發達の社會的、政治的原因については同一である。されど彼我國情を異にするがために、次の諸點に著しい相違がある。政治上、知行制度の形式は稍、同じで、地方分權の政治の形體がとられてゐるが、西洋では諸侯の勢力が強大であつて、國王の政治上の統制力がなかつたのに反し、幕府は能く諸大名を控制統御して中央集權の政治を行つた。且、西洋の諸侯が動もすれば自家經營のみに力を用ひて人民の境遇を省みなかつたのに比し、我が國に於ける諸大名の藩治、民政上の功績は著大なるものがある。また社會上、階級制度、主

從關係並びに世襲制度が行はれて、社會生活が固定し、形式化される所に共通點がある。併し我が國では、西洋と異なり父系が重んぜられるため、階級制度も著しく彼より緩和されて居り、且、主從關係にしても、西洋に於ては個人主義に基づいて權利義務の觀念が強く現れ、我が國に於て主從關係に見る如き、没我奉仕の精神的特質は見られない。また藩に於ける藩主を中心とする藩士・藩民の一體となれる社會的結合に於て、地方文化の開發、國民思想の涵養されたが如きは西洋には見られない。特に幕府の權力に統制されてゐながらも、尙精神的に皇室尊崇の精神が、全武士階級を支配してゐた事實に至つては、全く國體に基づく我が封建制度の特殊な點である。

第二章 邦人の海外發展と西洋文化の傳來

我が國民の海外發展の思想の由來

元寇の後我が國民の海外發展の氣運は次第に高まり、鎌倉時代末

歐人の來航と海外發展の思想

歐人の來航

ポルトガル・イスパニヤ人の航海

地理上發見の動機並びに當時の形勢について想ひ起せ。

期より吉野時代にかけて、大陸沿岸に進出し盛に通商貿易に従ふものが増した。これ等の中には、先方で正當な通商が拒まれ、その矜オウリが傷つけられるや、武力に訴へるが如きものも出た。然るに偶、當時支那は元末明初の頃で、沿岸各地に海賊が蜂起し、到る所侵掠を逞オウリくしたが、それ等の暴行は悉く我が國人の所爲なるが如く誤り傳へられた。高麗はこれがために滅亡し、新に起つた朝鮮も、明と共にこれが鎮壓の對策に悩み、終に我が室町幕府に請ひ、勘合貿易の制により海賊の取締に力めた。ついで戰國時代となり、歐人の來航するに至るや、その刺戟を受け、海外發展の氣運は一層促進された。

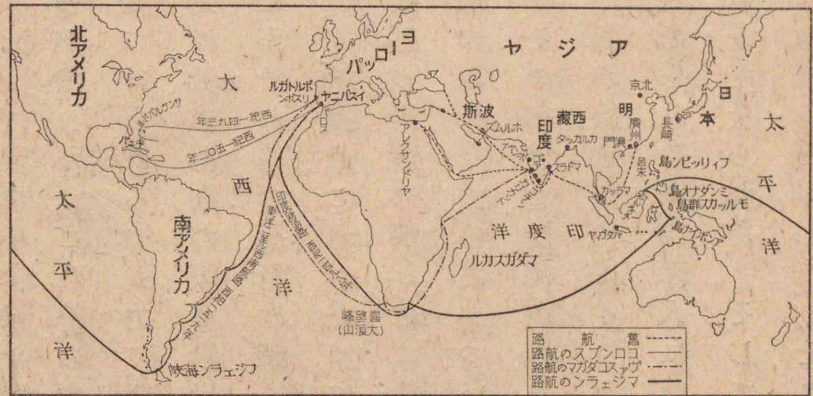
我が鎌倉時代に、イタリヤ人マルコ・ポーロ著の『東方見聞録』が出

Marco Polo

版せられるや、西洋人に愛讀されてその好奇心を刺戟し、東洋遠征の念をそそられた。そしてポルトガル・イスパニヤの二國は、最も熱心に航海を奨励した。そこで我が戰國時代のはじめに、イタリヤ、ジェノ

Genoa

アメリカ大陸發見
ポルトガル人の東洋貿易
ポルトガル人の種子島漂着



歐人來航圖

アの人コロンブスは、イスパニヤ政府の保護をうけて、アメリカ大陸を發見し、ついでポルトガル人ヴァスコ・ダ・ガマは、アメリカの南端を回航して、インドに達する新航路を發見した。かくてポルトガル人は、ゴアを根據として東洋貿易に従つたが、さらに進んで、支那のマカオをとり、ここに根據を置いて、東洋貿易に従事した。その商船が、後奈良天皇の天文十二年に、たま／＼大隅種子島に漂着し、島主種子島時堯に、小銃と火藥の製法とを傳へた。それからポルトガル船は、しばしば我が國に來航し、薩摩の鹿兒島や、豊後

ヨーロッパに於ける耶穌會設立當時の宗教改革とその反動との兩勢力の對抗、並びに耶穌會宗團の精神について思ひ起せ。

南蠻人
キリスト教の傳來

ヨーロッパ舊教の反動運動
フランシスコザヴィエル

キリスト教の弘通

の府内等にて貿易をした。またイスパニヤ人も、早くメキシコを根據地として、太平洋に發展し、マニラに根據を置き、天正十二年我が平戸に來て、貿易を營み、ポルトガル人と共に、平戸、堺などで貿易を營んだ。我が國人は、これ等を總べて南蠻人といひ、その船を南蠻船といつた。

これより先、ヨーロッパでは、宗教改革が行はれて、ローマ法王の勢力は衰へたが、新教に對する反動として、多くの教團が起り、法王の勢力を恢復せんとして、諸方に舊教の布教・宣傳をした。その中の、耶穌會長老の一人である、フランシスコ・ザヴィエルは、インド並びに南洋方面に布教してゐたが、やがて天文十八年に我が國に來航し、鹿兒島に着いて布教した。それから平戸に至り、更に博多、山口等を経て京都に上り、歸路再び山口を経て豊後府内に赴いて布教した。その後イスパニヤから、キリスト教の宣教師が、續いて來邦して布教に従ひ、織田信

キリスト教が僅かの間に非常な勢力を至つた事に至つた事各方面から考へよ。またこれに佛敎の傳來し我が國當時に對する關係に對する見

海外貿易の發展とキリスト敎の海外貿易發展の理由

大名のヨーロッパに對する態度

織田信長の上洛



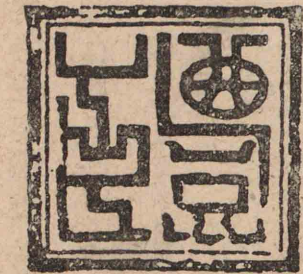
九州大名遣使節畫像

の間に活躍したが、元龜年間に長崎港は、貿易港として開かれ、盛になつた。かく貿易が盛になるにつれて、キリスト敎も急速に擴まつた。信長が上洛するや、宣教師を保護し、京都に南蠻寺を建立せしめ、布教

長や豊臣秀吉によつて、天下統一の機運に向ふや、益々その敎を擴めた。かくの如く、西洋の商船の來朝に刺戟せられて、我が諸大名は、盛に海外貿易に活動するに至つた。その貿易の利益が多かつたので、諸大名は何れも陽にキリスト敎を保護し、陰にポルトガル船の來航を迎へて、西洋の新知識を輸入した。九州の大友・大村・有馬等の諸氏は、何れもこ

九州大名の遣使節

豊臣秀吉の海外發展の雄圖 秀吉の雄圖



豊臣秀吉外交文書所用印

に便宜を與へた。また大友・大村・有馬等の諸氏は、宣教師にすすめられ、使節をローマ法王に送ることになり、伊東義賢ヨシカキ・千々和チヂワ・清左衛門が使者に選ばれた。この二人は何れも少年であつたが、宣教師に隨つて、天正十年長崎を發し、印度ゴアを経てアフリカを迂回して、ポルトガルのリスボンに着き、更に盛大なローマ入城式が行はれて、法王グレゴリー十三世に謁した。歸途一行は、イスパニヤ・ポルトガルを経て往路を辿り、八年の後に長崎に歸著した。これ我が國人の、ヨーロッパ國土を踏んだ最初である。

秀吉は、天下を統一してから、更に海外發展の雄圖を抱き、文祿慶長の役を起すに至つた。更にポルトガルのインド總督の來降を命じ、イスパニヤのフィリピン太守に服従を諭し、文祿二年には、高山國タカサカにも、書を送つて服屬を説いた。

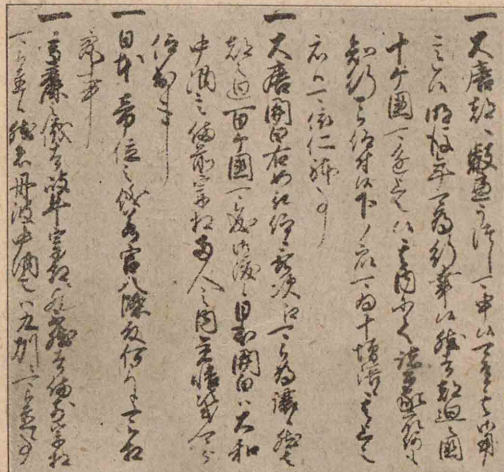
豊臣秀吉の海外發展の雄圖について、吉愛用の扇面に起して思ひ起せ。

秀吉の雄圖と海外發展の思想

キリスト教に對する我が國策

キリスト教の思想

キリスト教の思想と我が國民生活との背反



豊臣秀吉の朱印狀

當時我が國民は、最も勇敢であつて冒險の氣象に富み、海外發展の意氣は頗る旺であつた。併し秀吉の薨去によつて、これ等すべての雄圖は空しくなつたが、國民の海外發展の意氣は促された。

キリスト教はもと平等の思想に立ち、個人主義世界主義に基づき、超國家國民的の特質を有してゐる。特に耶蘇會の教義、並びに活動に至つては、ローマ法王を中心として、世界統一の思想が特に強く、且、政治的には、イスパニヤの帝國主義植民政策による、政治的背景を有してゐた。さればキリスト教の布教、並びに弘通に關しては、我が國體に基づく國民生活、及び戰國時代の統一により、漸次盛となつた國家意識

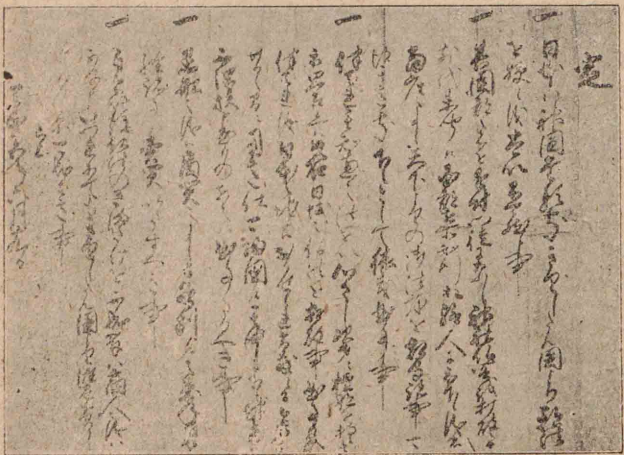
とは相容れざるものがあつた。

信長の政策

秀吉の禁教政策

キリスト教の弊害

織田信長と秀吉のキリスト教に對する政策を比較せよ。且、耶蘇會の活動に關して、いかに想像をすることが出来るか。



豊臣秀吉のキリスト教禁制書文

信長はキリスト教を保護し、これが弘通に大きな影響を與へた。また秀吉も、信長の方針に従つてゐたが、キリスト教が漸く勢を得るに及んで、偶、天正十五年、九州征伐の際、キリスト教の信者が、社寺を破壊し、神佛の禮拜を妨げるなど、我が善良の風俗を紊し、且、その教旨が我が政治及び社會の秩序を紊す虞があつたので、布教を禁じた。されども、將に盛ならんとした貿易は、禁ぜざる旨を明らかにした。

かく秀吉がキリスト教を禁じたに拘はらず、益、國內に擴まつた。偶、慶

キリスト
教の歴史

オランダ・
イギリスと
の通商

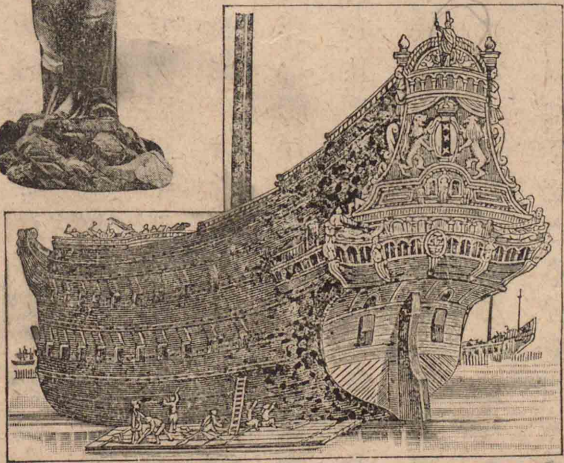
オランダ國
の擡頭

オランダ船
漂着

長元年に、イスパニヤの船が土佐の海岸に漂着し、その乗組員の言により、布教が政略的の意味を有するを疑ひ、秀吉は耶蘇會及び他派の宣教師等を捕へて、長崎で處刑した。かかる弾壓を蒙つても、キリスト教の布教は、餘り衰へなかつた。

ヨーロッパでは、イスパニヤの屬國であつたオランダが獨立し、その後オランダは、天正九年紀元三三四年イスパニヤ、ポルトガルと海上權を争ひ、東洋貿易に志し、東印度會社を起して、次第にポルトガルの勢力を驅逐して來た。

偶、慶長五年、オランダの船リーフデー號が漂着したとき、徳川家康は海外貿易を望んでゐたから、船を堺



像の者尊款貨と船のダンラオ (のもたれらせ附に軸の船商で像のスムスラエは實)

ヤン・ヨーステン
ウィリヤム・
アダムス

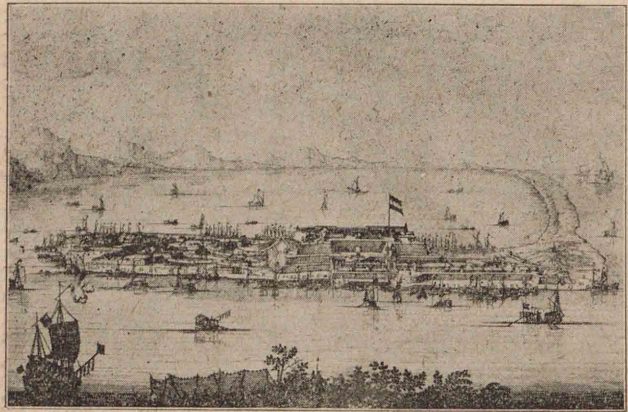
オランダと
の通商

イギリスと
の通商

に廻させ、後更に浦賀に招いた。そしてその乗組員オランダ人ヤンヨーステンと、イギリス人ウィリヤム・アダムスとを江戸に召し、厚く扶持し、邸宅を與へ、海外の事情を聞き、西洋式の帆船を造らしめなどした。

その後、オランダは國書を呈して通商を求めたが、家康は平戸に商館を置き、自由貿易すべき許可を與へた。その後オランダは、ジャバ島にバタヴィヤ府を開き、全くポルトガル・イスパニヤを壓し、臺灣をも占領し、永く我が國に來り、鎖國の後までも貿易を繼續した。

イギリスは、オランダよりも早く、東印度會社を起して、東洋の經營に従つてゐ



街市アヂンラーゼ岸海西灣臺

たが、オランダについて、使を遣はし、國書を呈し、通商を求めたので、家康はその請を許し、平戸に商館を建てしめた。されどイギリス人は、オランダ人と、東方貿易に競争して失敗し、元和七年遂に平戸の商館を閉鎖した。

(和元二二八年)

メキシコとの交通

支倉常長の遣歐使節

我が國民の南洋方面の發展

江戸時代初めに於ける我が國民の海外發展の意氣の旺なりし實情をあげてその狀を思へ、そして更にそれ等が十分の成功を期待し得なかつた理由につき考察せよ。

家康は、アダムス等から既に海外の事情を知り、進んでメキシコ(濃毘數般)と貿易を開かうとの志を有してゐた。そこで慶長十五年に我が國にゐたイスパニヤの宣教師に、京都の商人田中勝助を従はしめて、遣はして交渉に當らせたが、その意を達しなかつた。

(和元二二七年)

また伊達政宗は、海外の事情を知らんとして、その家臣支倉常長を、イスパニヤとローマとに遣はした。そして我が國とメキシコとの通商を議せしめたが、その交渉の目的はまた達し得なかつた。

さきに秀吉は、我が國民の海外渡航の船に、貿易許可の朱印狀を與へたが、家康、秀忠もまたこれをついで、我が商人をして、南洋貿易をな

御朱印船の活動した大體の地理的範圍につき述べて、その地方は今何處の領地となつてゐるか。

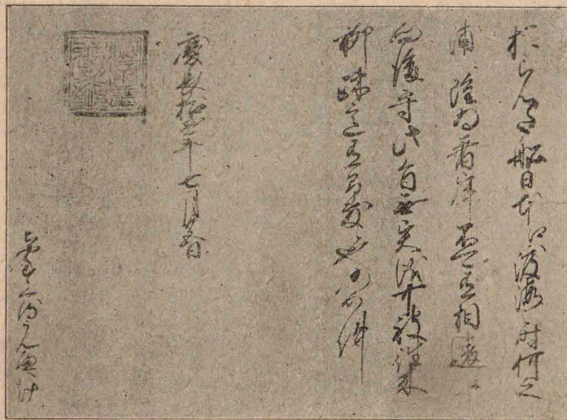
幕府の海外貿易の獎勵

御朱印船

我が國人の海外發展

貿易上の活動

南洋の植民地
國威の發揚

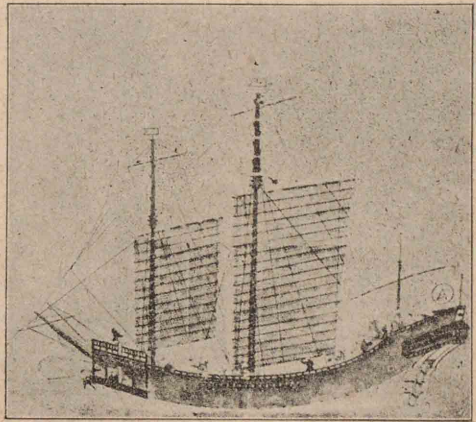


オランダ船渡航朱印狀 (オランダ館書文館蔵)

さしめ、澳門、安南、シヤム、交趾、ルソン、ジャバ、ボルネオ、ゴア等と通商を開き、熱心に貿易を獎勵した。そしてこれ等に渡航する船舶には、朱印狀が與へられたので、これを御朱印船といふ。京都の角倉了以、大坂の末吉孫左衛門、堺の納屋助左衛門、長崎の末次平藏などは、有名な貿易商であつて、その船も、角倉船、末吉船、末次船などの名をもつて呼ばれた。

朱印狀は、我が商人のみに限らないで、外國船にも與へて來航を許した。かくて貿易の盛になるにつれ、東京、交趾、シヤム、ルソン等には、我が國人の建てた植民地が出來、日本町さへ設けられた。中にも山田長政、濱田彌兵衛などは、海外に名を轟かせた。また肥前

我が南洋方面發展の態度



船木荒

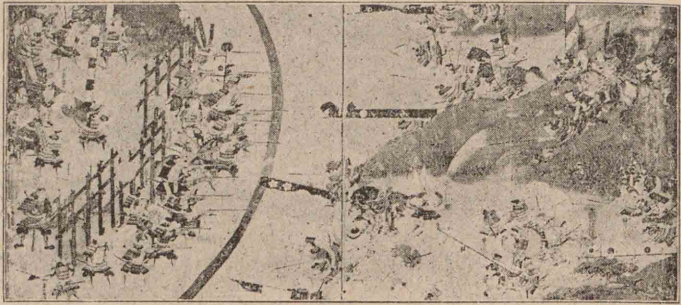
島原城主、松倉重政の如きは、ルソンを征討しようとして企てた程であつて、我が國人の海外發展の思想は、上下に横溢してゐた。

されども當時南洋方面に於ける我が國人の活動は主として個人的の事業で、我が國家の統制ある支持を得てゐなかつた。これがためポルトガル、イスパニヤ諸國の發展が、國家の鞏固な植民政策を基礎とし、また耶蘇會宣傳の強い信仰的基礎の上に立つて、統制のある活動をなしてゐたのと異なるものがあつた。従つて我が國民發展の成果に至つては、國家的には價値の少いものであつた。西洋人の渡來によつて、西洋文化の傳へられたものが多く、我が國

發展の成果

西洋文化の傳來とその影響

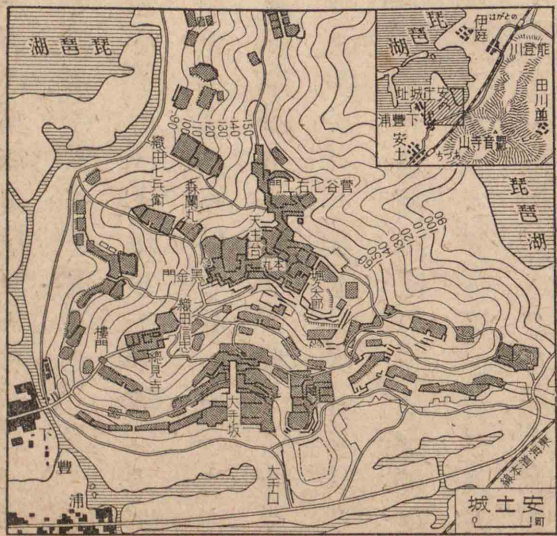
鐵砲・大砲の傳來とその政治的影響



鐵砲隊の活躍 (長篠一風部)

の進歩發達に資する所が偉大で、社會上政治上の影響は極めて重大であつた。

鐵砲の傳來は續いて大砲等の武器の輸入となり、我が戰鬪法、築城術及び造艦術の上に一大變革を齎らし、戰國時代の統一を促した効果は大きかつた。信長の築いた安土城、及び大坂灣の海戦に用ひた鐵裝戰艦は、築城及び造艦に新しい紀元を劃した。そして



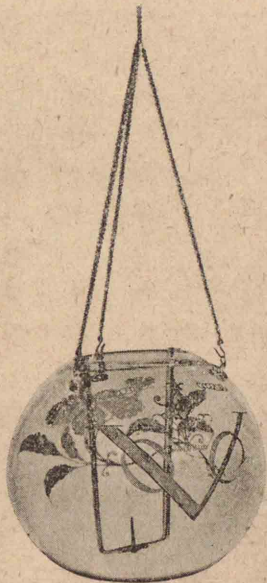
西洋人との貿易とその結果

輸入品

輸出品

西歐諸國の重商政策と正貨の流失

鐵砲が信長に最も有効に用ひられたのは、長篠戰役であるが、これにより、個人的の戰鬪が、漸次集團化して戰術の革新を促した。ヨーロッパ人との貿易も、漸次盛となつた。されどその輸入品は、何れも不生産的な食料・衣類・調度の如き、奢侈品の類であつた。また我が國からの輸出品は、刀劍・漆器・屏風・金銅の如きものであつて、輸入品は何れも高價にして、輸出品をもつて償ふべくもなかつた。かく



籠燈釣ンマヤギ
はVOC。るあが立燭鐵(に中)
(標商の社會度印東ダシラオ)

て歐洲諸國の、重商主義に基づく貿易策と、我が國人の貿易上の關心との結果、夥しい正貨が海外に流失したことは、實に國家經濟の上から憂慮すべき問題であつた。後年、鎖國後のことなれば、かかる形勢は既に減じてゐた時でさへ、新井白石は對外貿易の國家經濟

キリスト教の弘通と西洋文化

學堂
會林

宣教と文化
政策

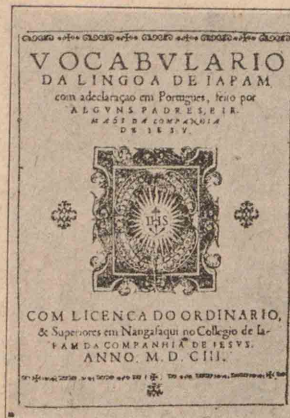
西洋學術

上寒心にたへないで、長崎新令を制して、貿易政策を改めた程であつた。

キリスト教が布教せられてから、その教會堂は諸國に設けられ、近江の安土、豊後の府内及び臼杵^{ウスキ}などには、その學林があつて、神學を初



天草平家物語



日葡辭彙

として他の學術も傳へられた。特に天草有馬、長崎などでは、西洋からもち來つた活字により、ラテン語・ラテンの對譯、日本語・ポルトガル對譯などの辭書も出版せられ、日本語をローマ字で綴つたイソップ物語や、平家物語もあつた。また我が國の活字で、簡単なキリスト教の教義書や、辭書類も刊行せられた。また物理化學などに關し西洋科學の知識が傳來し

ヨーロッパ風の風俗

生活の向上

キリスト教禁教鎖國政策

家康のキリスト教に對する政策

オランダとイスパニヤとの對抗

た。

またキリスト教の信者の間には、その教名を用ひたり、印章にロトマ字を現すなどのことが行はれ、ヨーロッパ風の風俗が漸く流行した。そしてポルトガル・イスパニヤ人によつて輸入された物品の名稱が、原語のままに國語化したものも多い。かくてこれ等の事情によつて、戰國時代末期、安土・桃山時代に於て我が文化の發達、生活向上に對して西洋文明の影響がかなり認められる。

家康は秀吉と同じく、キリスト教の布教は好まなかつたが、貿易獎勵のため寛大に取扱つたから、耶蘇會以外の舊教も漸く布教され、天主教の勢は、また盛になつた。オランダ人は、イスパニヤ・ポルトガル人を我が國から驅逐しようとして、頻りに彼等が、布教によつて、領土を侵略せんとする野心があると、幕府に告げた。これに加へて教派の内訌があり、且、信徒中には、邦人にして尙往々に國家内外の別を忘

徳川家康のキリスト教禁制

貿易と布教

れて熱中するものが出たので、家康は、我が國の、社會上及び政治上の治安を保つために、遂に慶長十七年(紀元一六四二年)にキリスト教禁制の令を發し、その弊を除かうとした。そして宣教師、並びに邦人の信者を捉へて、海外に追放した。また我が多數の信徒の中で、改宗の命を奉ぜぬものは酷刑に處した。これから、イスパニヤ・ポルトガルの船の來朝は、少くなつた。



白磁觀音像

かくの如く、家康はキリスト教を嚴禁したが、貿易の獎勵は依然行はれてゐたから、宣教師は商人を装うて、秘かに入國する者が絶えず、禁制の目的は、容易に達し得られなかつた。そこで秀忠は先づ明船の外は、貿易場を長崎・平戸の二港に限り、貿易を縮小すると共に、一面キリスト教の宣

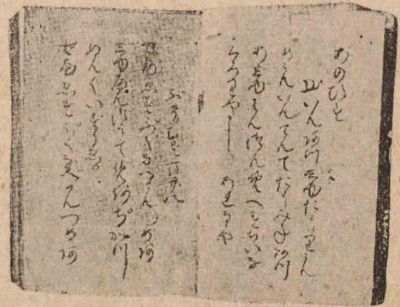
徳川家光の
禁教並びに
嚴歴

島原の亂が
政治上から
見て重要な
意義につ
いて述べ
よ。

禁教政策の
徹底

鎖國

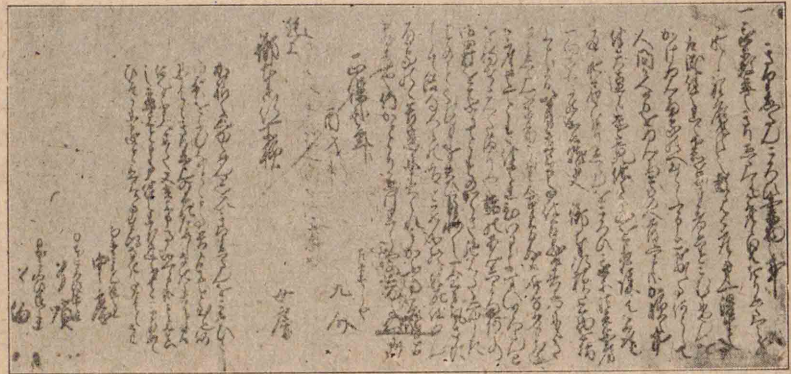
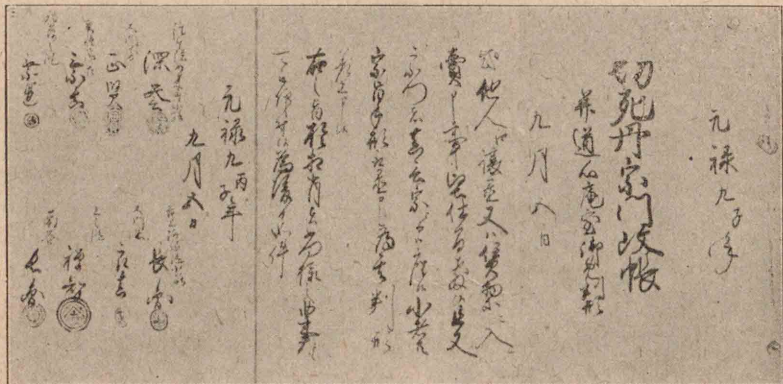
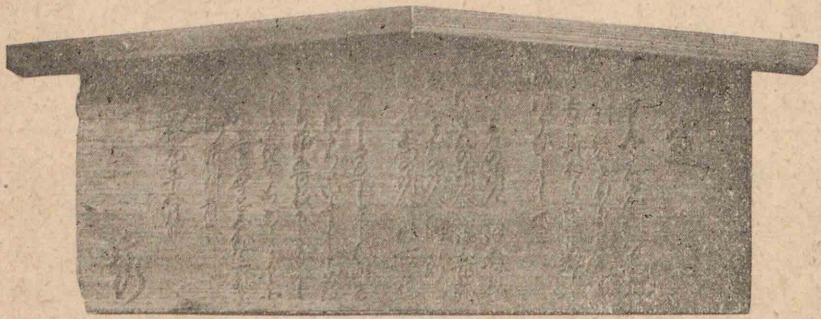
教師の探索に便ならしめた。その後家光の時、更にポルトガル人を、長崎に出島を築いて、ここを限つて居留せしめ、ついで寛永十年には、御朱印船の外は國人の海外渡航を禁じた。更に十三年五月には、我が船舶の海外渡航を禁じ、これ(元三三六)を犯すもの、及び長く外國に居住せる國民の、歸朝するものは死刑に處することとして、愈、キリスト教の禁制は嚴重になつた。



かなの聖書

かくて幕府は、殆ど貿易を犠牲にしても、國內のキリスト教徒撲滅の決意をなし、全力を注いだ。が、信仰は依然行はれた。

特に島原の亂後、幕府の禁令は愈、嚴重を加へ、長崎出島のポルトガル人を放逐し、その船舶の來航を禁じた。更に十六年には外國船の來航、邦人の海外渡航を嚴禁し、犯すものは嚴罰に處することとし、全

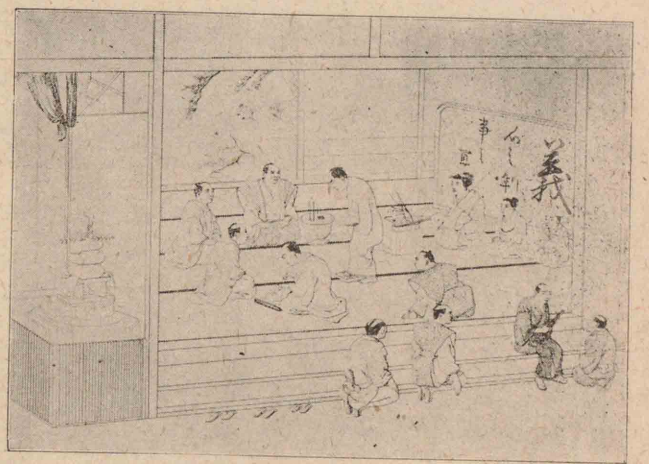


キリシタン關係遺物

上 圖 上
中 圖 宗 門 改 帳
下 圖 キリシタン關係遺物

キリスト教禁制が、幕府の維持存続上重大意義を有する所以に於て考察せよ。且、我が國に於けるキリスト教彈壓が主として政治的立場からなされたもので宗教的對抗からなされたものでなく、宗教が常に政治によつて統制されて來た我が國特殊の國情と西洋諸國と比較對照せよ。

宗門改



踏繪執行のま

僧侶の權勢と佛教沈滯
踏繪
鎖國政策の得失

たから、權力が漸く加はり、却つて安逸に耽り、佛教界を沈滯せしむる結果となつた。かくて幕府は、キリスト教禁令の目的を達したが、西洋諸國と交渉

く鎖國することとなつた。但しオランダ人だけはキリスト教とは關係がなく、且、島原の亂に幕府を助けたので、例外として貿易を許した。

また幕府は毎年國民の宗門改を行つて、寺院にその信徒の宗旨を立證せしめ、キリスト教の信徒多き地方では、永く踏繪を行はしめた。これがため、國民はすべて佛教徒となり、檀那寺を定めたので、僧侶はその戸籍まで扱つ

鎖國につき種々の方面から考察して鎖國したことが一概に無謀無定であつたと考へる弊を去らねばならぬ。

鎖國の利益
國內生活の安定
國民文化の發達
鎖國の弊害
海外發展の阻止
世界事情に疎し
鎖國時代の外國貿易の出島
外國貿易の制限

を絶つたため、我が國をして、世界の國際紛争から孤立せしめた。これによつて國內の太平を保ち、封建制度は完備し、正貨の流失を制し、國內産業の進歩、文教の發達を致し、我が國民固有の思想と文化との進歩を促した。

されど鎖國のために、我が國民の、海外發展の思想は全く抑へられ、南支那から南洋へかけての、植民事業は放棄された。そして國民は、海外の形勢に關しては、僅かに長崎に入港した、オランダ船の齋すものを傳へ聞いて、その事情を知るに過ぎなかつたから、全く世界の進運に遠ざかるに至つた。

鎖國後幕府は、支那人及びオランダ人との貿易を、長崎に於て行はしめ、オランダ人を長崎出島に移し、その商船の來航も、毎年一回だけに制限した。また支那人を唐人屋敷に移し、その商船の來航は、毎年三回を限つて入港を許した。かくて貿易は非常な制限をうけたが、

長崎新令

尙年々正貨の流出すること夥しく、ために幕府の財政は窮乏した。それがために將軍家繼の時、新井白石の建議により、清人は船三十隻、銀六千貫、オランダ人は船二隻、銀三千貫に貿易額を限つた。その後貿易額の増減はあつたが、概ね減額されて行つた。

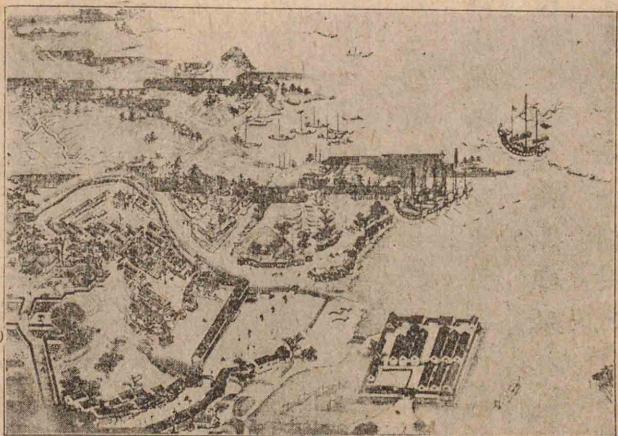
西洋人の日本に關する知識

耶穌會宣教師の報告



トルボーン

また戰國時代の頃から、安土・桃山時代にかけ、我が國にゐた耶穌會の宣教師の報告や、慶長・元和頃のイギリス人の書翰によつて、我が國情はヨーロッパに紹介されたが、鎖國



岸海浦大にび館唐るけ描の舉應山圓

ケンペル・ツンベルグ・シーボルト等の著書

西洋科學の教授

後は、僅かに、オランダ人のみによつて傳へられるに過ぎなかつた。オランダの使節に隨うて來た、ケンペル・ツンベルグ・シーボルトなどいふ學者が、江戸に參府し、或は長く長崎に留つて、我が國情・國民性・文化などを視察し、紀行文・地誌等を出版して、ヨーロッパ人に紹介した。そして彼等は直接に、我が學者に、醫學・植物學等の西洋の科學研究の指導をしたので、その文化の上に、大きな影響を與へた。

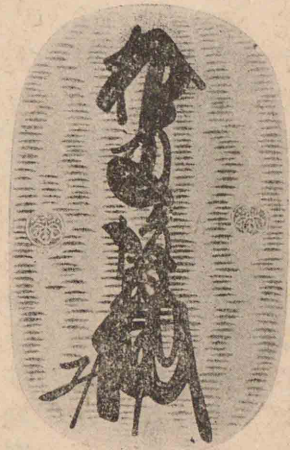
第三章 經濟の進展

安土・桃山時代の豪華絢爛な思潮の後をうけて、徳川家康は自から質素儉約を旨とし、勤儉の範を士民に示した。そしてまた、ひたすら國家財政に意を用ひ、朝鮮・支那並びに西洋諸國と通商貿易を營んで利益を獲、更に佐渡・越後・但馬・石見等の諸鑛山から、盛に金・銀・銅を採掘して貨幣を鑄た。

江戸幕府の財政・經濟政策

徳川家康の經濟政策

幣制の統一



大判



小判



福藩 福銀會所

江戸時代造幣の權は主として幕府が握り、金座・銀座・錢座の制を立て、後藤光次をして鑄造のことに當らしめ、勘定奉行の所管の下に置いた。そして家康は慶長金貨(大判金・小判金・一步判金・銀貨(丁銀・豆板銀)・錢貨(慶長通寶)を造らしめ、幣制が幕府により統一せられた。かくて貨幣經濟が行はれ、陸上海上の交通、通信の發達、都市の發達等と相俟つて、經濟の發達を促すことが大であつた。

その後幕府は、歴代何れも産業を興して、國民の福利増進を圖ることを念としたので、財政の基礎は頗る

産業振興の形勢

農業の發達と農業學說

江戸時代の石高とその配當

農民の社會的地位

農業振興に對する政策

安定した。かくて諸藩にあつても財政を獨立し、幕府の政策に應じて、藩札を發行し、爲替手形が商人の間に行はれた。かくして江戸時代の經濟の進展は全國を通じて、實に目ざましいものがあつた。

封建の體制によつて、全國土地の石高約三千萬石の中、大名の領地は約二千三百萬石、公家並びに旗本諸士の采地が約三百萬石、幕府の所領は約四百萬石であつた。そして封建制度は土地經濟に立脚してゐるため、農業を以て經濟の本位とした。

土地制度にあつては、幕府並びに諸藩を通じて、土地の所有權は民衆に附與し、その稅率は地方により、藩の狀況に従ひ相違してはゐるが、概ね高く、農民の日常生活は極めて程度が低かつた。併しその社會上の地位は、生産者であるために、武士に次いで重んぜられた。そして田畠の永代賣は禁止されて、土地の兼併が防がれた。また困窮の小農については、救濟の途を考へ、その業務に勵むべき愛護の法が

農業學說
宮崎安貞
の農業全
書

佐藤信淵
の農業新
說

二宮尊德
の報徳社

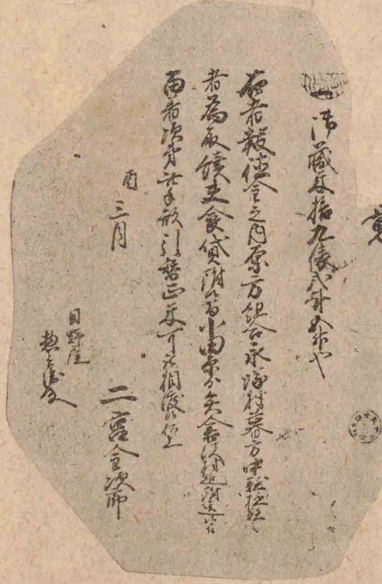


佐藤信淵

講ぜられた。更に一方山野荒蕪地の開墾と、農法の改善とに心を用ひ、産額の増大を圖つたから、農業は大いに進歩した。

安藝の人宮崎安貞は自から諸國の老農を訪ねて教を聞き、また實際農業生活の體驗を通じて農業全書を著し、穀菜の栽培植林より、生類養法などに至るまで細かに説いた。また佐藤信淵は農學の家に生れ、廣く各地の地質・風

土を研究し、更に蘭學を修めてその學說を加味して、農業の新說を唱へた。ついで二宮尊德も農を本とし、殖産理財に明るく、また農業に基づくその處世訓は、よく郷人を徳化し、報徳社



二宮尊德筆蹟

を起して相互の扶助を説き、民治に益した。

交通の發達整備は、中央集權の制度を立てるに必要であつたから、家康以來海陸の交通に力を盡くした。

京都は、永い間政治の中心であつたから、これを中心とした陸上水上交通は、早くから發達した。

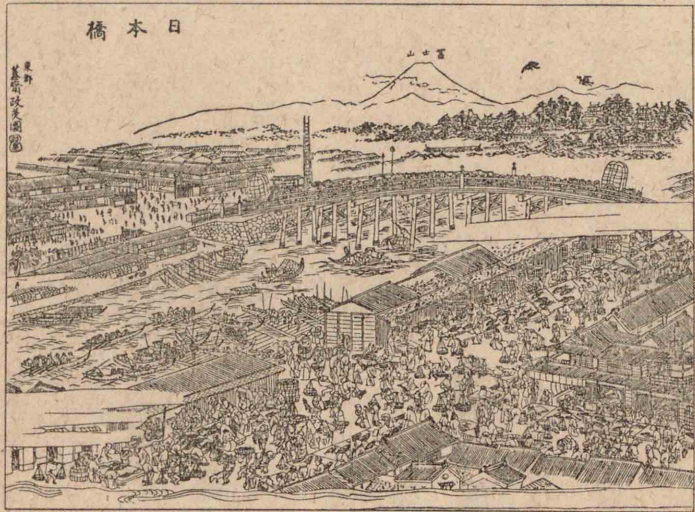
江戸に幕府が開かれ、政治の中心となつてから、陸上水上交通の體系が立てられる必要が起つた。されば江戸日本橋を起點として、東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道の、五街道が設けられた。

交通の發達

●陸上交通
中央集權と
交通路

江戸中心の
交通路網

五街道と街
路施設

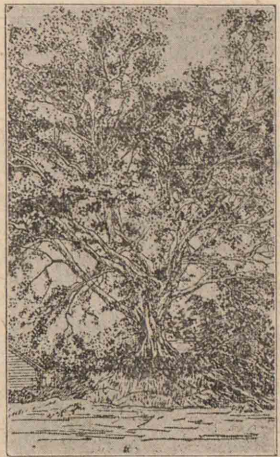


日本橋

江戸幕府が交通の發達に對していかなる政策をとつたか。

陸上交通網の整備

政治的・軍略的立場と交通路



塚里一の川野瀧京東

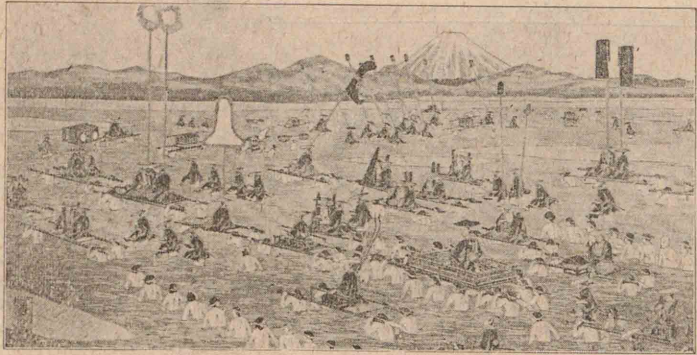
幕府はこれ等の街道につき、道幅を廣め、兩側に並木を植ゑ、また江戸日本橋を起點として、一里塚を築き榎を植ゑて、道程を知るに便ならしめた。また

數里毎に宿驛を設け、人夫・驛馬傳馬を備へ、大名宿舎たる本陣を始め、旅宿の備をなして、公用の往來、並びに私人の旅行の用に供せしめた。かくてこれ等の交通施設は、參勤交代の制度に伴ひ、益備はり、五街道を幹線として、北國路・中國路・長崎路・伊勢路・水戸街道など、諸地方の側街道も發達し、陸上交通網の整備は著しかつた。

交通の發達と共に幕府は、軍事上並びに警察上の政策から故に河川によつては橋を架けず、徒渉、または船橋によらしめ、また要所に關所を設けて旅人を檢した。渡船では東海道の熱田・桑名間の七里

水上交通

河川開鑿



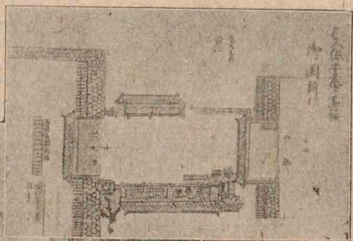
渡臺鞏の川井大

の渡と、大井川鞏臺渡關所では東海道の箱根、中山道の福島碓氷峠は最も有名で、

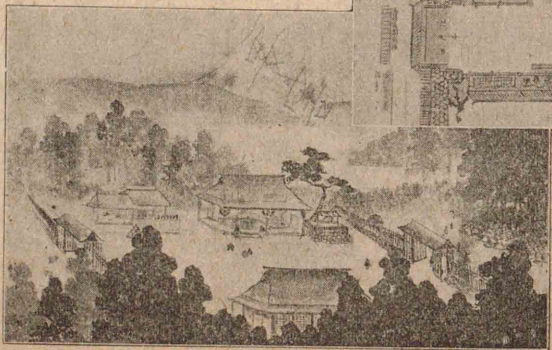
これ等のため、交通は甚だしく妨害された。

水運について

は、慶長の頃、角倉了以が、幕命によつて、従來船の通らなかつた、保津川・高瀬川・富士川・天龍川を開いて舟運を通じた。また將軍家綱の頃、河村瑞賢は命を受けて大坂に安治川を開鑿して、淀川の舟運を便にした。



箱根關所及びその平面圖



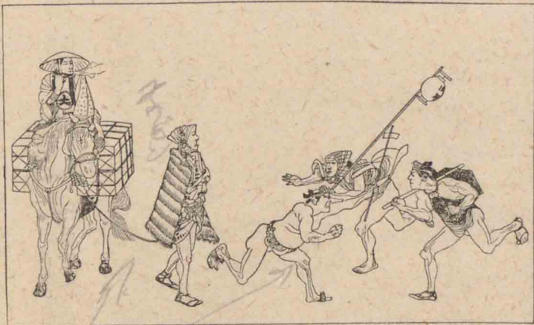
江戸時代の水上交通の發達して來た事情について理解せよ。また江戸の大都市として發展するに當つて海上交通の促進せられた事情を考へ

海上交通

江戸・大坂間の交通

大船の建造が禁ぜられ、外國貿易も鎖されたが、國內商業の發達につれて、沿岸航路は著しく發達した。古來瀬戸内海、九州地方の航路は、よく發達してゐたが、江戸時代に入つて、江戸・大坂間の海運が開かれ、また瑞賢の苦心の結果、江戸と陸奥、出羽と下關間の二航路が開かれた。かくて江戸・大坂を中心として、全國の沿海航路は、全く連絡せられた。

江戸發展に伴ふ運輸交通の發達



江戸時代於ける幕府公用の飛脚・大名急用
飛脚の各種各様の俗風を示す。

江戸は政治の中心として、漸次發展し、人口の増加に伴ひ、物資の消費著しく加はり、これが補給のために、江戸・大坂間の海運は盛となつた。これ等兩地の商人等は、互に問屋組合を作つて、菱垣廻船ヒキケツクワイセンを通じて物資の輸送に當り、また樽廻船ヒキケツクワイセンの問屋も出來て、攝津灘地方の酒類の輸送

國民經濟の成立

通信機關

飛脚

爲替

都市の發達

都市の發達

三都の廣大

江戸時代に於ける都市の經濟上、有する意義について理解せよ。



江戸時代の旅行俗風

に當り、取引が盛となつた。更に奥羽地方との航路が開けるに及んで、その米穀の運輸も行はれ、眞に陸上交通の發達と相俟つて、地方經濟は進んで、國民經濟を成立せしめるに至つた。

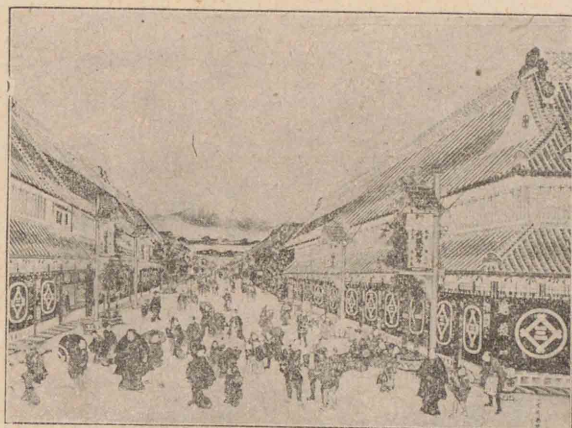
通信機關として、飛脚ヒキケツクは早くからあつたが、江戸時代になつて飛脚制度も整つた。そして、江戸・大坂・京都の三都を中心に各地に發達し、幕府の公用、大名用の外、私用の町飛脚も廣く行はれた。それから爲替によつて、金子送達の法も講ぜられてゐた。

太平で、交通の發達と商業の進歩によつて、全國に都市が興つた。これ等の中、京都は古來の公家都市であり、大坂は全國の

小賣商の發達
行商

市場の全國
的擴大

工業の發達
と時代の風
潮



江戸日本橋越後屋

權を握るが如き、形勢を生じた。また一方小賣商も漸く發達し、江戸の越後屋は、早くから有名な店舗であつた。また當時行商も盛であつて、近江商人や、越中富山の賣藥行商の如きは、有名であつた。また更に、交通通信の機關が備はるに從つて、物資の集散は活潑となり、江戸・大坂を中心として、全國の産物が集中するに至り、市場が全國的に擴大された。かかる形勢と、諸藩に於ける産業獎勵と相俟つて、各地の工業も益進歩した。そして陶器では、京都の仁清、乾山、燒清水、肥前の伊萬里、燒加賀の九谷、燒などの如き、精巧のものを出した。また調度としては、優美な金工、蒔繪、漆器、染織では、京都の西陣織を始め、羽二重、縮緬、友禪、染、鹿

土地經濟か
ら貨幣經濟
への推移

町人の發達
と武士の頽
廢

儒學の發達
とその影響

子絞などの製作は、何れも著はれた。かくて一般に、社會生活の程度が高まり、奢侈華美に赴く時代の風尚に從つて、實用を超えた高價なものも現れた。かくの如く、商工業の發達に伴うて、土地經濟から貨幣經濟にするに從ひ、これに従事した商工業者、即ち町人が、社會上に著しく勢力を得て來た。ために元祿以後に於ける、町人の發達は實に目ざましく、經濟上の變動のため、生活の困難となつた武士は、町人のために漸次壓倒されて行く形勢が現れた。

第四章 文教の發達

儒學の興隆は、徳川家康を始め、歴代將軍の獎勵にもよるが、また時代の風潮でもあつた。朝廷にても、後水尾、後光明、兩天皇をはじめ奉り、後西、靈元、兩天皇も、儒學の御教養深くあらせられた。幕府でも將

江戸時代に
經濟上町人
が漸次據頭
して遂に武
士を壓倒す
るに至つた
事情につい
て理解せよ。

江戸時代に於ける儒學發達につき諸學派の勃興と共に我が獨創的儒學の發達したることに對して國民的自覺を有せよ。また儒學が國風化するに至つて始めて國民生活上の影響が大となることに注意し、儒學の國風化の結果尊王論發達の重大原因となつたことに思ひ及べ。

古學

た。その後大鹽仲齋平八も著はれ、その學統を受くるものも尠くなかつた。

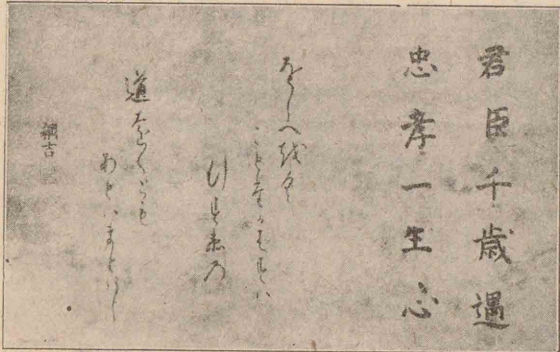
また綱吉の頃、京都に伊藤仁齋が出て、その子東涯と共に名聲世に高く、その説く所は、朱子の説は、佛敎、道敎の思想を混じてゐるから、古

に復つて儒學の本義を極めねばならぬといふにあつた。これをば古學派と稱した。

君臣千歲遇
忠孝一生心

また江戸に出た荻生徂徠の如きも、朱子學派の性理學を駁し、聖人の道を究めるには古書に通じ、古文辭を明らかにせざるべからずと主張し、古文辭學を唱へて、また名聲を揚げた。

これ等の儒學は、決して單に支那傳統の學説を墨守せるものでなく、儒學に對して



(藏家爵公川徳) 蹟筆吉綱川徳

古文辭學

儒學の國風化

古學・古文辭學の立場

儒學と神道

儒學と國史研究

支那崇拜の學者

儒學の國風化

荻生徂徠や山崎直方は、支那を崇拜した。安時代の學者と違つて、現實の支那を崇拜したのではなから、徂徠の赤穂義士の處分についての見識なるを



山鹿素行

それぞれ獨創の見を立てたものである。仁齋の古學、徂徠の古文辭學よりは、更に進んで、我が神道と儒學を、連關せしめる説を立てるものが出た。闇齋はさきに吉田神道を參酌して、我が國民精神に基づいて、垂加流神道を説き、その門流によつて、日本魂の説が述べられ、大義名分が説かれた。また儒學者の國民的自覺の結果、國史研究が興つた。光圀の大日本史、栗山潜鋒の保建大記、新井白石の讀史餘論、山鹿素行の武家事紀、淺見綱齋の靖獻遺言等は、何れも有名である。これ等は多くは漢文で書かれ、支那の史料を扱つても、その學説、思想は新にして、論ずる所は、我が國民精神を發揮せる、獨創的のものであつた。されど一方には、徂徠や直方の如く、支那崇拜の學者もあつた。かくて儒敎の隆盛を致したことは、尊王思想の源泉となつたと共に、武士道精神を完成せし

江戸時代儒學の發達が我が國民の精神生活上に及ぼせる影響について考察せよ。

武士道精神の完成

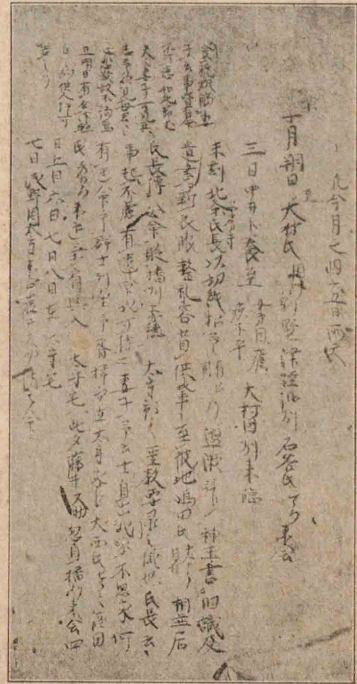
武士道の觀念的自覺

忠孝一致の思想

武士道精神と町人

めて、國民思想上に貢獻する所が多かつた。主從關係の如きも、從來は實際の恩惠・恩義によるものであつたが、漸次觀念的のものとなり、主從は三世とか、忠臣は二君に仕へずなど、いふ思想が確立するに至つた。また大義名分の思想についても、本來我が國民は、固有の道德として、大義名分の道を重んじ、早くより武士道の根本をなした。それが儒教思想の感化を受けて、大いに銑鍊せられ、忠孝一致、若しくは一本の思想は、一層觀念的に自覺せられ、武士道に對して、倫理的の基礎が與へられるに至つた。

武士道の精神は、單に武士の間にも限られず、廣く庶民に多くの



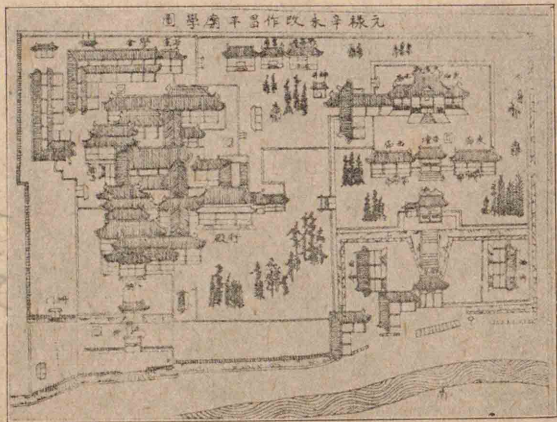
山鹿素行日記 (藏氏已高鹿山縣崎長)

教育機關

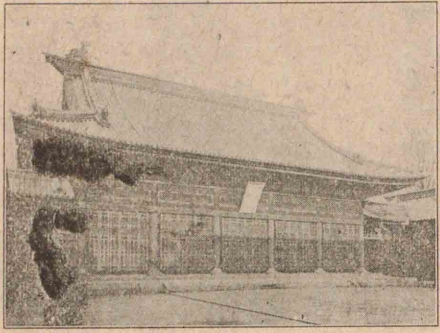
影響を與へて來た。されば町人の間にも、手代と主人との關係は、武士の主從關係と類し、利害を超越して義理が重んぜられ、また商人間に約束が重んぜられて來た。

儒學の隆盛に伴うて、教育の機關も漸く普及した。幕府は綱吉の時、林鳳岡の私塾を忍

岡から湯島に移し、聖堂を建立して、これを幕府の直轄となした。その後家齊の頃、林述齋の議を容れて、聖堂の規模をひろげ、昌平坂學問所と稱し、昌平校(學)ともいつて、幕府督勵の



昌平學問所



昌平校

藩學



林 述 齋

下に、旗本諸士をして朱子學を學ばしめた。この頃諸藩に於ても、藩學を起して、子弟の教育に、意を用ひる風が興り、名古屋の明倫堂、水戸の彰考館、會津の日新館、仙臺の養賢堂、米澤の興讓館、萩の明倫館、佐賀の弘道館、熊本の時習館、鹿兒島の造士館等は、何れも多くの人材を養成して、最も有名である。

岡山閑谷校と藩民教育

江戸時代の教育機關について系統よ。だてて見よ。

私塾

寺子屋

併し幕府や各藩の教育は、武士の教育を主としたのであつて、庶民には殆ど及ばなかつた。ただ岡山藩の池田光政が、閑谷校シツクニを創めてから、諸藩に刺戟を與へて、藩民教育を促したことは、著しいことである。然るに庶民は次第に擡頭し、生活が向上して來たので、庶民の教育が興つて來た。その教化の程度の高いものには、民間學者の私塾があり、また程度の低いものとしては、寺子屋、手習師匠は、到る所の寒

手習師匠

心學

通俗文學と社會教化

文藝の發達

漢文・漢詩

和歌



寺子屋の圖

村にも出來、初步の讀書習字を教へた。また吉宗の頃に、石田梅巖は心學を創め、道德を平易に説明して、非常な効果をあげた。また勸善懲惡を本位として行はれた淨瑠璃演劇、小説なども、社會教育、民衆教化に與つて大いに効果があつた。儒學の普及につれ、漢文漢詩も廣く行はれ、祇園南海、服部南郭などが出て、後には頼山陽、齋藤拙堂、梁川星巖などは、何れも著名であつた。これ等は文字の修飾と、道德的内容に多く拘束せられた嫌はあつたが、それ等の詩文の思想的感化は、また大きかつた。國學の發達に伴うて、和歌は、綱吉の頃北村季吟、契沖などが、先づ著はれたが、眞淵は萬葉集を研究し、その古調を唱へて歌壇に清新の氣

眞淵の萬葉古調
加藤千蔭村田春海
新古今調

を齎らした。その門から加藤千蔭村田春海などが出て、新古今の歌調を唱へて、江戸に門戸を張つた。これに對して、香川景樹等は京都にあつて著はれた。これ等は主として實感を重んじ、自然の描寫に巧であつた。併し和歌は、傳統的の文學であつて貴族的の特色が多かつた。

平民文藝の發達

連歌と俳諧



瀧澤馬琴

和歌の貴族的色彩あるに反して、平民文學として、俳諧戯曲・小説等の發達は、實に目ざましく、時代の特色とも考へられた。室町時代から連歌が行はれて來たが、山崎宗鑑や荒木田守武などは、連歌から發句を創め、俳諧の新作法を立てた。江戸時代に入つて、松永貞徳・西山宗因等によつて、俳諧は益、流行した。然るに綱吉

瀧澤馬琴の八犬傳を始め、江戸時代の小説・戯曲等では、義理と人情との對立に於て、人情に對しては十分の同情はするが、併し義理の重きを主張した。勸善懲惡や武士精神の作興などに對しても通俗文學の教育的の効果のあつた一面を解せよ。

芭蕉と俳風の一變

狂歌・狂句
太田蜀山人

川柳
柄井川柳

戯曲
近松門左衛門

竹田出雲
近松半二
鶴屋南北

小説

の頃に、松尾芭蕉が出づるに及んで、從來の俳風を一變して正風體を唱へ、その風が天下を風靡した。その門人、榎本其角・服部嵐雪等は何れも著はれ、また將軍家治の頃、與謝蕪村・小林一茶などが出て、各、独自の風を立てた。そして俳諧は、その心境の優雅なると、入門し易いため、遂に普く民間に行はれた。

また俳諧と共に、狂歌・狂句が興つた。狂歌は、家治の頃に、太田蜀山人・石川雅望等の巨匠が輩出し、専ら滑稽諧謔を弄した。狂句は綱吉の頃から漸く行はれたが、また家治の頃、柄井川柳が出て、所謂川柳を創め、奇抜の外に、時代を諷刺する意を寓し、特異の風を立てた。

淨瑠璃と操りの發達に従つて、戯曲が進歩した。綱吉の頃、近松門左衛門が出て、最も名聲を博し、時代物・世話物を通じ、多くの名篇を残した。この他竹田出雲・近松半二等出て、少し後れて鶴屋南北など、何れも戯曲家として有名であつた。また小説は、從來の架空の御伽噺

平民文藝の發達と時代の世相、人の心の推移との關係について理解せよ。そして平民文學に共通な大衆的な特色について、またそこに時代を映してゐる點について考察せよ。

井原西鶴
山東京傳
瀧澤馬琴
式亭三馬
十返舎一
九

特色



山東京傳

を描ける、假名草紙から全く變化し、人情の機微を穿ち、民衆の社會生活の世相を描いた。元祿の頃には、井原西鶴が出て、後には山東京傳、瀧澤馬琴、式亭三馬、十返舎一などが、著はれて、廣く流行した。そしてこれ等の小説は、概ね通俗的であつて、日常生活の實際に、即するものが少くなかつた。その風俗人情を表はすものも當つては、時代思想の影響を受けることが多く、卑猥に墮するものもあつた。

蘭學の發達とその影響

蘭學は吉宗が洋書輸入の禁を弛め、更に青木昆陽を長崎に遣つて、オランダ語の研究をさせてから興つた。その門人には、前野良澤が出て、長崎で蘭學を學び、後に杉田玄白等と苦心慘愴して、オランダ語

蘭學研究に關して、その當初適當な辭書・教科書なく、一語の譯出に數日を費したといふやうな、いかに學者が苦心慘愴したか、蘭學の開始に書かれたる蘭學の當世學生研究の清涼劑とならう。

解體新書

蘭學階梯

波留麻和解

蘭學研究の範圍擴大



芝蘭堂新元會圖

の人體解剖書を翻譯し、解體新書と名づけて出版した。また良澤の門人大槻玄澤は、更に長崎に學んでオランダ語の書を譯し、蘭學階梯として出版し、蘭學の入門書としたから、蘭學者が増加した。更にその後稻村三伯は、ハルマ蘭佛辭典の説明を和譯して、波留麻和解と名稱し、ここに始めて蘭和辭書が出来た。かくて蘭學の研究は、初は醫學の研究に限られてゐたが、漸次これによつて西洋の文化が研究されて、幕末から明治にか

A	U. S. Bach, Z. B.	初字	同上
	alaccjongen, Z. M.	同上	同上
	abcccling, Z. M.	同上	同上
	oaf, oafje	同上	同上
	oaf, Z. V.	同上	同上
	oaf, fch, en, ar, en, ll.	同上	同上
	oafje, oafje	同上	同上
	oafje, ach, och	同上	同上
	oayen, W. W.	同上	同上
	oak, Z. M.	同上	同上

波留麻和解の一頁

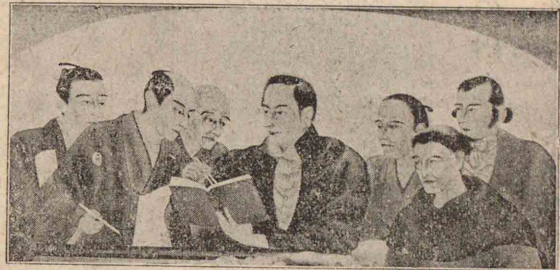
翻譯局

西洋理化學

蕃書調所

醫學の發達

物理・化學



分 府

けて、新時代をつくるため、貢獻した蘭學者が多かつた。即ち家齊の頃から、幕府では、大槻玄澤等の蘭學者を登用して、翻譯局を設け、イギリス、ロシアを始め、フランス等の諸國語を研究せしめ、外交に備へんとした。また蘭學の發達に伴うて、天文・曆學・植物學を始め、西洋の理化學も輸入せられ、蕃書調所が設けられて、人材を養成したので、その進歩が著しかつた。醫學は、從來の漢法醫が衰へて、蘭醫がこれに代り、西洋醫學が發達した。ドイツ人シーボルトは、滞在してある間に、醫學・博物學等を指導して、これ等の發達に大いに貢獻し、幕府でも西洋醫學所を設けた。またこれに刺戟せられて、日本流醫學も興つた。また西洋の物理・化學も傳はり、家治の頃には、平賀源内は早く電氣

砲術・兵學

鑄 砲

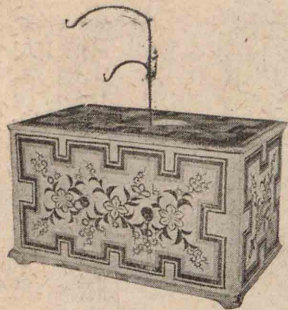
伊能忠敬の實測圖

美術工藝の發達

狩野派中興



りくらか



ルトキレエ

品 明 發 の そ と 内 源 賀 平

機械を作つて、時人を驚かした。また國防の必要から、西洋兵學の研究が興り、高島秋帆はオランダ人から砲術を學び、幕府に召されて、武藏の徳丸ヶ原で實演を行ひ、幕府の砲術指南となつた。その門人江川太郎左衛門は、伊豆の韮山に反射爐を築いて大砲を鑄造した。また伊能忠敬は、天文・數學の知識に富み、家齊の時に、日本全國の海岸を實測して、我が國最初の實測圖を作つた。江戸時代の美術では、繪畫が最も盛で、種種の流派が起つた。家光の頃、狩野探幽が出て、幕府の繪所となり、狩野派を中興し、ま

江戸時代に於ける東洋畫の研究は日本畫を本として東洋畫の粹を集め大成する基を立てたものなることよに注意せよ。

土佐・住吉派

日本固有の畫風の發達

西洋畫を輸入して新派を立て

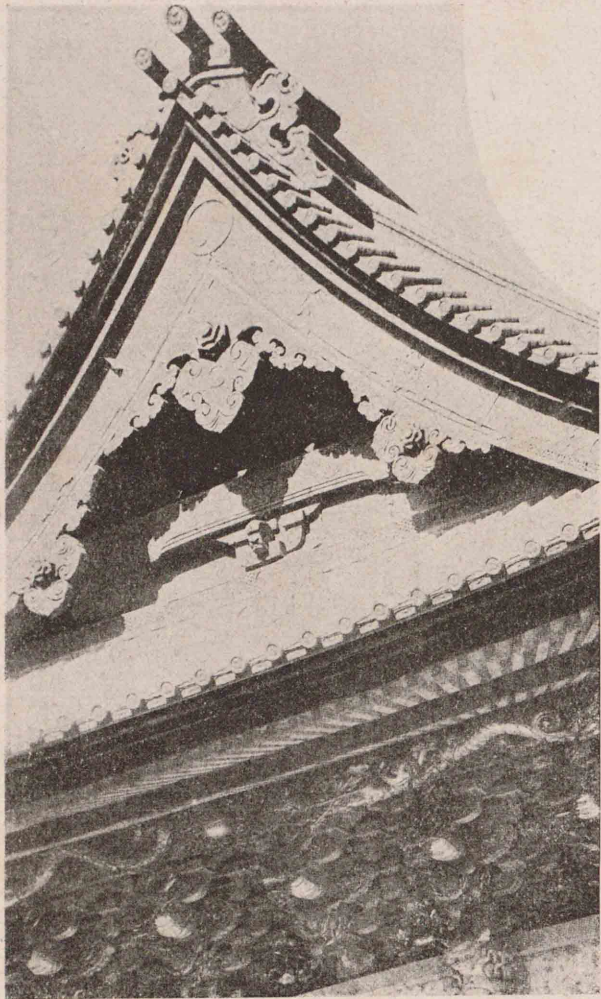
た大和繪の土佐住吉の二派も、禁裏幕府に仕へてその派を盛にした。然るにこれ等の諸派が、何れも傳統に拘はれてゐる時、尾形光琳や英一蝶等が出て、何れも一派を立て、新規軸を出した。ついで明清で全盛を極めた文人畫は、家治の頃、京都に池大雅、與謝蕪村が出て、名を揚げた。この頃、圓山應舉等が出て、また松村吳春が出るに及び、何れも一家をなし、宋明清の畫風から脱して、全く我が國特有の畫趣を發揮するに至つた。これ等の畫家は既に東洋畫の粹を學びつくし、我が独自の見地に立つて日本畫を大成したのである。



(筆蝶一英) リ 踊 盆

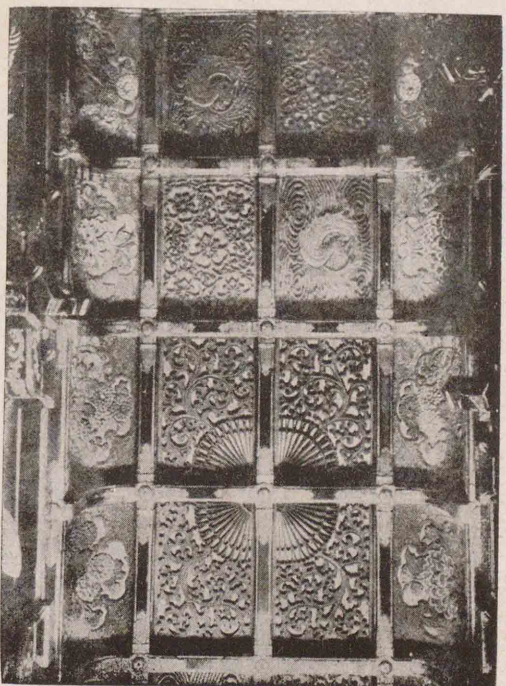
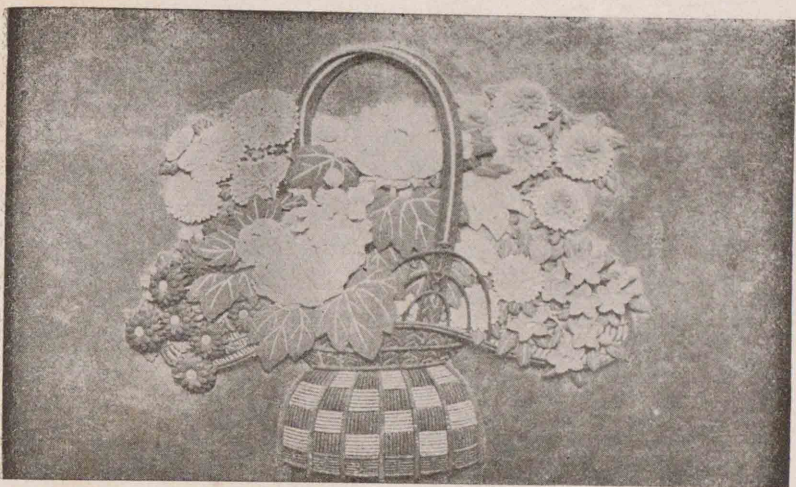
また當時蘭學の發達に伴ひ、西洋畫

(刻彫・築建) (一) 術藝の代時戸江



上圖 徳川秀忠廟台徳院本殿二重屋根
下圖 同須彌壇の彫刻





上圖 東照宮丸彫花籠
 下圖 東照宮内陣天井
 格縁は仕立蠟色に唐草の金時繪を施し、天井は地板に漆箔を貼しその上に唐木透し彫の一枚を嵌込む。

(畫繪) (二) 術藝の代時戸江



筆起光佐土 節一の語物勢伊

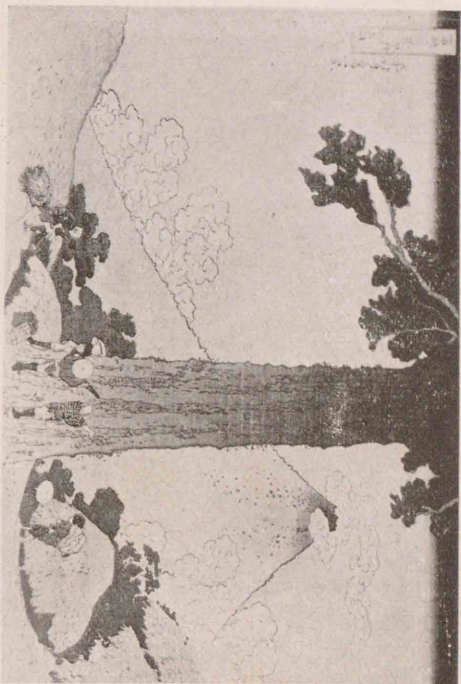


筆村燕口谷 溪涉人旅



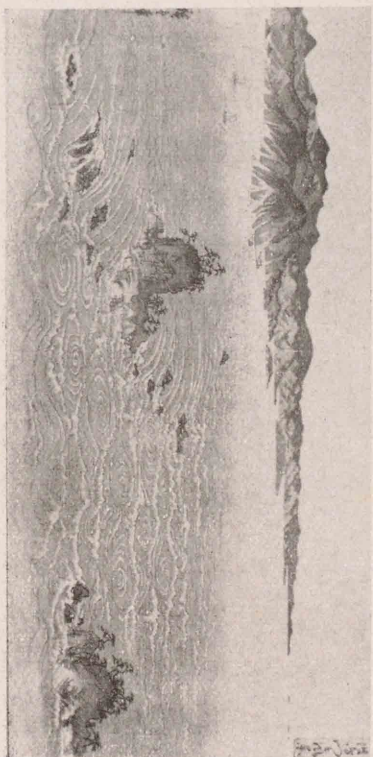
那智大池
那智大瀑布

筆雅大池 瀑磯智那



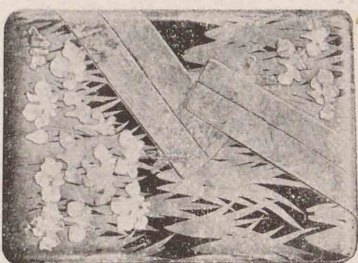
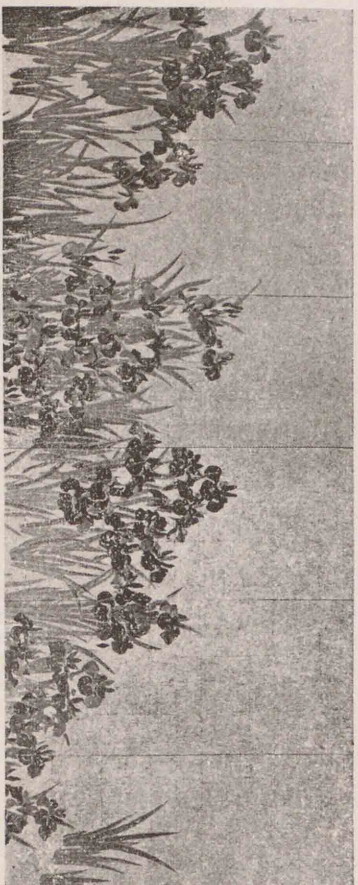
富嶽

葛飾北齋筆



阿波鳴門

安東隱重筆

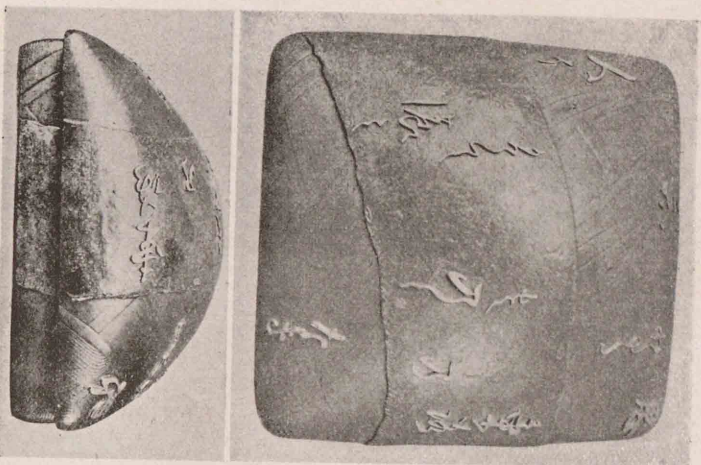


上圖(右) 八ッ橋観箱 (左) 燕子花屏風

尾形光琳筆

下圖 四季花鳥圖屏風(右) 秋(左)

酒井抱一筆



作悦光彌阿本 箱觀の橋舟



筆達宗村々野

風屏圖鶯鶯



筆輝友崎宮

鶯

鶯

江戸時代浮世繪の非常に發達した原因は何れにありと思ふか、各方面から考へて見よ。

浮世繪の發達

岩佐又兵衛

菱川師宣

鈴木春信

喜多川歌麿

葛飾北齋

安東廣重

司馬江漢



渡邊華山筆ポラクラステ

が輸入せられ、谷文晁は、從來の諸派に西洋畫を配して一家をなした。その門人渡邊華山は寫生に妙を極め、當時の畫壇は眞に百花繚亂の觀があつた。

桃山時代に端を發した風俗畫は、江戸時代に入り、家光の頃に、岩佐又兵衛が、土佐派から出て浮世繪を起し、綱吉の頃、菱川師宣が出てこれを大成した。その後、鳥井派、懷月堂派を生じ、更に家治の頃には、鈴木春信が出て版畫の隆盛を致した。尙文化文政の頃、喜多川歌麿、葛飾北齋、安東廣重などが、相ついで出て、何れも一家をなした。これ等の浮世繪版畫は、後に西洋に傳へられて、非常に珍重せられて印象派の基をなした。また西洋の銅版畫、油繪等の描き方も傳へられ、家治の頃、司馬江漢が始めてこれを試みた。

龍面製作に
つき工人が
いかに精魂
を盡くして
從事したか
岡本綺堂作
修善寺物語
に出て来る
夜叉王のそ
れがよく説
明してゐる
。かくの如
く同じ面
でも西洋に
於ける面と
異なる非
常に藝術的
の製作が多
く遺されて
ある。

工藝美術

鑄金

陶磁器

時繪

彫刻

活版

版畫



(蛇男面) (小面能)



(高砂裝束)

の野村仁清尾形乾山時繪の本阿彌光悦等が著はれた。この他染織刺繡等の工藝も、何れも精巧を極めるに至り、華麗より澁味を尙び、趣味が向上して來た。また能樂の流行につれ、能面の彫刻にも名工が出た。

また朝鮮出兵の後、活字が傳へられて、家康が古書を出版した際には、木銅などの活字を使用した。その後多く行はれなかつた。そして浮世繪の發達に伴うて、版畫の進歩は著しく、獨特の技能を表はし、錦繪繪草紙など精巧美麗を極めた。

また工藝美術として
は、鑄金の後
藤顯乘横谷
宗珉、陶磁器

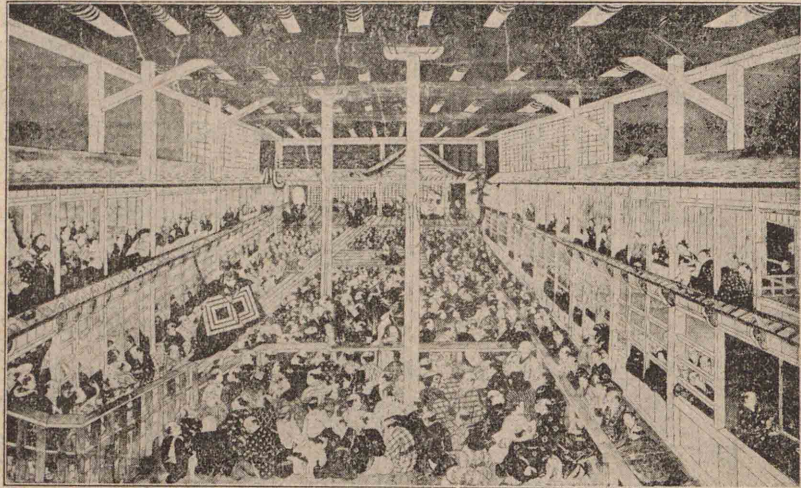
當時の娛樂と風俗

淨瑠璃と三味線

淨瑠璃、揉り・歌舞伎、それ等について、刺戟を比較し、歌舞伎の發達した事情を知れ。

義太夫節

常盤津 富本 清本 小唄・長唄



歌 舞 伎 劇 場

江戸時代に入つて、聲樂は、前時代から傳はつた淨瑠璃が流行し、これに伴うて、三味線が汎く用ひられるに至つた。もと京坂に端を發したが、家光の頃、江戸淨瑠璃が起り、ついで勇壯な金平節も行はれたが、大坂に竹本義太夫が出て、近松門左衛門の新作を語つて、義太夫節が大成せられた。その後江戸が繁華になるに隨つて、半太夫節、河東節などが起り、後になつて常盤津、富本、清本の諸節が起り、また小唄、長唄なども發達して、それぞれ異なる曲調に清艶を

歌舞伎の發達

坂田藤十郎
市川團十郎

文化中心の移動と文化向上

元祿時代の文化

文化文政時代の文化

江戸時代最も華やかであつた時代は元祿時代と文化文政時代であつたが、この二時代に上つた文化上の特色を比較對照せよ。且、後者の時代こそ所謂江戸ツ子的な名を賣つた大江戸の時代であり、また大江戸文化と稱へられる所以について理解せよ。

競ひ、今日行はれてゐる邦樂は、概ねこの時代に完成された。

桃山時代に起つた歌舞伎は、この時代に入つて、狂言や操りの脚色を綜合して、演劇の體系が整へられた。元祿の頃、京坂の坂田藤十郎、江戸の市川團十郎が東西に相對して、歌舞伎の發達に新紀元をつくり、劇場・舞臺・淨瑠璃の發達と共に、當時の人心の傾向に促されて、異常の發達を遂げた。ついて文化文政時代に至つて、歌舞伎は全盛に達し、眞に大江戸の人心・風俗の傾向を、最もよく反映した。

江戸の文化も初は粗野であつて、剛健の態があり、豪放の趣があつた。加ふるに諸國の人々が多く寄合つたがために、雜然として特異の氣風が起らなかつた。そして上方の文化は遙に優美であつたので、これに壓されてゐた。やがて元祿の頃となり華麗な文化を成したが、尙生硬で、外面的で、趣味も低く、上方文化には、及ばなかつた。

然るにその後、文化文政時代に至るや、江戸の文化は絶頂に達し、生

硬を脱して、全く爛熟し切つて、銑鍊され、深味を増した。そして華麗を去つて澁味とか、サビとかいふ高尙の趣味と、圓滑な輕妙に傾いて來た。この頃までに、文學・學問・美術・工藝等、各方面の大家巨匠が、何れも江戸に集つて、江戸は日本唯一の文化の大中心となり、また文化を理解し、鑑賞する風が普くなつた。これが大江戸文化と稱せられる所以である。

第五章 勤王思想の勃興と明治維新

第一節 尊王思想の發達

戰國時代の亂世に、武家の間に尊王思想が興り、織田信長・豊臣秀吉は、尊王の心をもつて、よく天下を統一した。そして幕府を開かずして、朝臣として朝廷に奉仕し、皇室を奉戴して、公武の融和の上に政治を行つた。併し徳川家康は、江戸にあつて、天下を統一し、範を鎌倉幕

江戸幕府の對朝政策

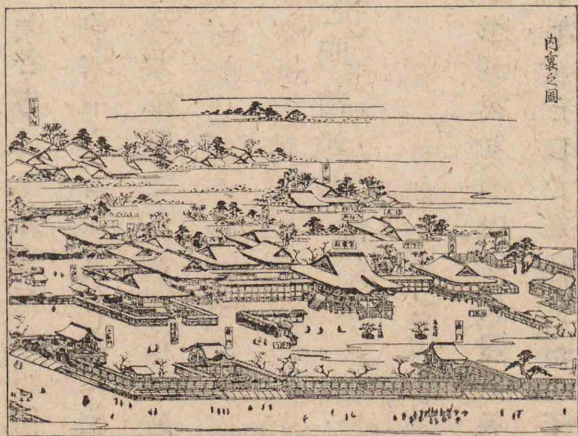
織田信長・豊臣秀吉の政治基調

徳川家康の政治基調

江戸幕府の
公家抑制
京都所司
代
武家傳奏

公家諸法
度

府にとり、純然たる武家政治を興して陰に朝廷を抑制した。京都には所司代を置いて、公家の動靜を監し、且、關西地方を制せしめた。そして朝幕間の連絡のため、朝廷に武家傳奏を置いて、關白と議し、公家の任免のことさへ干渉せしめて朝廷にその權力を張つた。また禁中並びに公家諸法度十七箇條を制し、畏れ多くも天皇の御學問、日常御生活までも規定し、公家の當官と武家の官位とを區分し、官位儀禮及び諸住持任命に至るまで制限し奉つた。



内裏

公武の不和

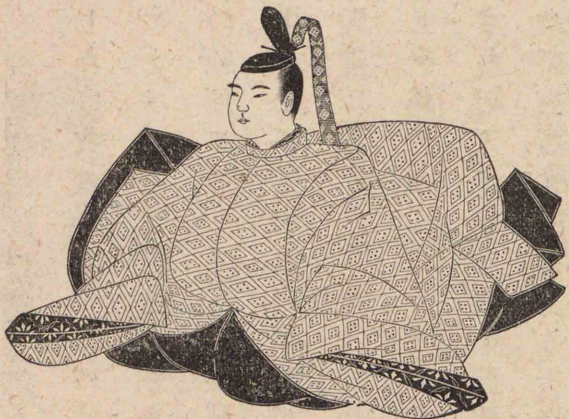
かくの如き幕府の檢束に對し、公家は痛く憤懣した。また公家は傳統的に武家を卑しめ、格式の上、及び形式からは遙に優つてゐたが、

江戸時代を
通じ公武間
に生ずる不
斷の暗流の
起る所以を
擧げて見
よ。

幕府初期の
公武の不安

幕府の尊王
とその影響

家康の尊王



後光明天皇

實力並びに、經濟上からは對抗しがたかつたので、公武の間に不安な暗流が絶えなかつた。ために幕府の初期、家康から將軍家光に至るまでの、幕府創業期に於ける公武關係が、特に不安であるのは避け得られなかつた。そして後水尾、後光明兩天皇の御代には、公武の關係が最も不安であつた。家康は、一面政治上から、朝廷を抑へたが、他面には、皇居及び仙洞御所を營み、供御の料を増し奉り、公家の領地を加へて尊王の志を示した。ついで歴代の將軍も、また皇室尊崇の誠を失はなかつたが、政治の實權は毎に確保してゐた。

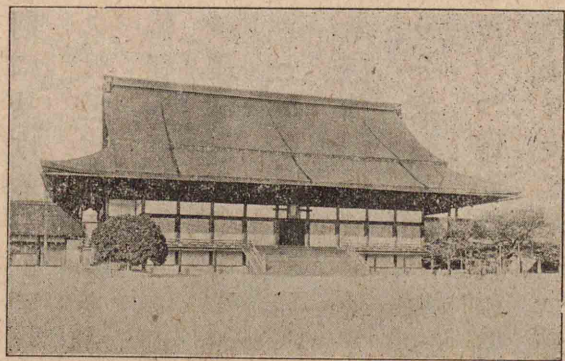
江戸時代初期に於ては、公武の關係はかなり險惡であつたが、將軍

歴代將軍の尊王

新井白石の公武融和

松平定信の尊王

家綱以後は、幕府の尊王の誠意が次第に顯はれた。將軍綱吉の如きは、御料地を増進し、供御の御料を奉獻し、また廢絶した大嘗祭を復興し、御歴代山陵の修築等をして、朝廷を尊敬した。次の家宣の時には、新井白石の建議によつて、閑院宮家を創めるなど、公武融和の絶頂に達した。また將軍家齊の時に老中の松平定信は、内裏の炎上に際して、紫宸殿・清涼殿などを略古式に則つて新に造營し、光格天皇も深くその功勞を嘉せられた。されど天皇が、御生父閑院宮典仁親王スゲヒトに太上天皇の尊號を上り、大孝を敍べんとせられしを斥け、これに關係せる公家を罪して朝廷を抑へた。かくて江戸時代を通じ、歴代の將軍、または幕府執政の尊王の美績



(政安)殿宸紫

松平定信の朝廷に對する態度につき、矛盾があるが、如何に解したらよいか。

幕府尊王の思想的感化

武家政治に伴ふ公武對抗の意識

尊王思想の發達

●儒學の發達と尊王思想
儒者の國家的自覺

神道研究

江戸時代の儒者につき
(一)崎門及び水戸學派の如き積極的尊王主義を唱へたもの
(二)新井白石・室鳩巢・貝原益軒の如き消極的尊王主義のもの
(三)荻生徂徠・佐藤直方等の如き支那崇拜のものと、三つに分けられるが、併し共通に何れも國家的自覺をもつた。

は少くなかつた。かくの如き幕府の尊王の態度、美績は、諸大名以下武士庶民に、尊王の大義を辨へしめる上に大なる感化を與へた。かくて時代が進むにつれて公武の關係は著しく融和されて來たが、武家政治の存する限りは、決して公武對抗の意識は去ることが出来なかつた。

江戸時代に學問が盛になり、儒學の發達するに伴ひ、國民の間に弘く國家的自覺が喚起され、尊王の思想が起つた。



藤原惺高

文藝復興の開祖である藤原惺高は、儒學と神道との一致を説いて、神道研究の端緒となつた。その學風を受けて、門人林羅山・堀杏庵等が、これを祖述して神道に新生面を開いた。ついで熊澤蕃山・山崎闇齋・山鹿素行などが、何れも我が國體を自覺し、大義名分の上から

大義名分と尊王抑

國體自覺

山崎闇齋並びにその門流の尊王思想

闇齋の學統

足 崎門派の駿

淺見綱齋はその刀鐔に『赤心報國』の四字を刻し、その皇室尊崇の精神深くして、常に『我れ關東の地を踏まず、大名に仕へず』と誓へり、もし時を得ば、義兵を擧げて王室を佑くべし』といへりと。

尊王抑覇の説を唱へた。儒者は支那を崇拜し、禪讓放伐の説を認める傾さへあつたが、素行は、その著『中朝事實』に於て、我が國が萬世一系の皇統を戴き、忠孝は開闢以來存し、眞に中華文明の本源なりとして、支那の禪讓放伐、革命の風を否定した。そして蕃山並びに素行は、何れも幕府から忌まれて抑へられた。また闇齋は朱子學を奉じ、更に神道研究をなして、垂加流神道を唱へ、夙に國體を尊重し、名分を明らかにし、早くも吉野朝廷正統の説を立て、『大日本史』の先容をなした。そして闇齋は、國本の思想と正統の思想とにより、尊王の大義を説き、多くの門人を養成したので、人材輩出し、その學統を崎門派と稱した。崎門派にあつて、神道の玉木葦齋、儒學の淺見綱齋、佐藤直方、三宅尙



山崎闇齋

淺見綱齋の尊王大義の思想

崎門派と水戸學派

崎門派と幕末の志士

●國史學の勃興と尊王思想
徳川光圀の彰考館と大日本史

崎門派が王政復古に對し、思想的に如何に大なる貢獻をなしたかを知られ。

齋の三者は何れも著名である。就中幕末尊王論の源泉をなしたのは、綱齋である。その著『靖獻遺言』は小冊子であるが、支那の張巡、文天祥、方孝孺等の忠孝義烈の行蹟を述べ稱へた。そして陰に大義名分、勤王の志を披瀝し、幾多の志士をして感奮興起せしめ、義氣を鼓舞せしめた功績は大であつた。闇齋の學派は、また水戸に入り、水戸學をなした。水戸の徳川光圀に招かれて、大日本史編纂に従つた鶴飼鍊齋、同稱齋は闇齋の門人であり、また三宅觀瀾、栗山潜鋒の如きは、またその流を汲んだものである。尊王論者の先驅をなした竹内式部、山縣大貳等を始め、幕末尊王論の指導的人物となつた梅田雲濱、橋本左内等は、何れもその門流に屬するものである。一方に修史のことに従ひ、國史を通じて尊王の志を彰すものが出た。光圀は、明暦三年に、彰考館を建てて有名な學者を集め、大日本史

本記 列傳 史記

徳川光圀が大日本史編纂をなすに當つていかなる態度をとつたかを知らぬ。

編纂の事業に當り、大いに大義名分を明らかにした。その三大特筆と稱せられる點は、(一)神功皇后を御歴代から離して、后妃傳に收め、(二)

澁川三浦、祝經、祐經、幸出、何
從平順、兄弟時或望見、其過
下平、建久四年、拜月、頼朝、獵于
祐成時致大
往富士野時
致所、不
面談、死而不瞑、祐成、見弟告別、
請呂見時致、受、殿、拒之、祐成、甲
而、兄弟請賜

大日本史草稿

弘文天皇の即位を認めて御歴代の中に加へ、(三)吉野の朝廷を南朝といひ、足利尊氏の私かに擁立したるを北朝と稱したが、吉野朝廷をば正統と定めた。そして享保五年に、その頃になつた『大日本史』を、水戸家から幕府に獻じ、續いて完成に努めた。これが影響を受け、尊王論は盛となつた。

栗山潜鋒と保建大記

者は、尊王論の學者が多かつた。即ち栗山潜鋒は『保建大記』を著し、政權の武門に移つた由來を明らかにして、尊王の大義を説き、また皇

歴史研究について、新なる事實を考證して、定する専門的業績のみが尊の、た一方頼山の如く、史學を基調とし、正しきに導くことを講ずる史學の應用の尊の所以を知らぬ。

三宅觀瀾の
中興鑑言
國史學の發
達
頼山陽の
思想

位と三種の神器の授受との關係を論じて、國體の本義を詳かにした。また三宅觀瀾は、『中興鑑言』を著して大義を明らかにした。

その後一般に國史研究の傾向は進み、寛政の頃、頼山陽は『日本外史』

を著し、武士の興起から政權の武門に歸する由來を説くと共に、忠孝義烈の士を賞揚し、また、『日本政記』を著し

て、吉野朝廷の正統なるを論じた。その文章が流麗平易であつたため、世に多く讀まれ、廣く大義名分を自覺し、尊

王論を唱へしむるに至つた効果は大きかつた。

此書事實、悉未備、示人、予不之復
桑名老翁、伊未宗親、竊以其、老郎、不離、遠
近、未定、辭、遂、爲、應、命、居、賜、報、答、過、家、拜
許、已、而、老、翁、即、世、矣、茲、茲、又、於
此、以、後、命、未、宗、義、既、情、極、老、翁、之、許、又、感、受
其、知、不、能、言、所以、深、意、猶、錄、進、仍、以、高、時、上、書、道
首、篇、以、代、序、例、此、本、雖、非、一、按、不、保、無、誤、誤、無、取
後、本、御、勅、賜、同、體、是、意、必、親、加、致、之、之
天、保、十、年、己、丑、臘、月、初、九、日、癸、卯、年、孫、謙、識

日本外史山陽頼山陽集書

復古思想と
尊王攘夷論

かくて儒者の自覺と、國史研究の發達とは、漸く復古思想を勃興せしめ、外國船渡來のことあるや、これを機として、尊王攘夷の說を唱へるものが多くなつた。中にも、水戸の藤田幽谷、その子東湖は最も著

藤田東湖
と會澤正志



藤田東湖

はれ、その言説は、當代に於て頗る重きをなした。また幽谷の弟子の會澤正志は、よく國體の本義に通じ、尊王の思想を述べ、新論を著はした。何れも藩主徳川齊昭を戴いて、尊王の大義を唱へ、攘夷論を

水戸學と
天下輿論

主張した。かくて、水戸の學風は、正しく天下の輿論を指導せんとするの勢を示した。

國學の發
達と尊王
思想
賀茂眞淵

國學は契沖、荷田春滿等に源を發し、賀茂眞淵が出て、大いに國語國文の古典の研究を進めた。また思想上、儒學を排し、皇國上代の道こそ、實に治國の根本精神たることを強調し、儒學、佛敎に對して、國學の立場を確立した。

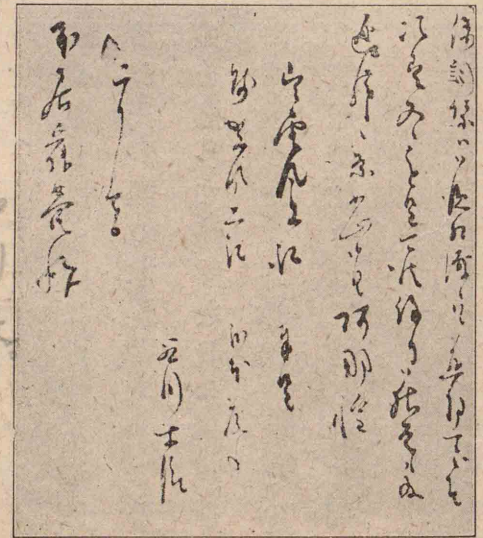
本居宣長と
その思想

本居宣長は、常に儒佛の外來思想を放れて、^{カナナガラノミチ}惟神道の國民固有の精神に復るべきを説き、動もすれば外國を崇拜し、内外本末の辨を忘れ

國學研究の
歸結が尊王
論となる所
以を考察せ
よ。

谷川士清

ることを批難して、正しい修學の精神を教へた。この思想を喜ぶものが甚だ多く、教を受けしものも、前後五百人に及んだといふ。宣長の著はした『古事記傳』と共に、谷川士清の『日本書紀通證』も、古代に關する貴重の研究である。



谷川士清筆蹟

平田篤胤の
思想



平田篤胤

また平田篤胤は、宣長の思想を受け、國學の精神を擴充して、尊王の精神に論究するに至つた。篤胤は、始め儒佛の學を修めたが、後何

れをも排撃し、且、蘭學をも斥け、唯我が國の古道に復すべきを説き、多くの著書をなした。就中『古史傳』は最も著はれてゐる。篤胤の學説は、愛國的氣魄に富み、むしろ偏奇といはれる位に激しく、常に我が國體の尊嚴を説いた。その説は、また多くの人を感化し、その門から勤王家を多數出した。

塙保己一
國學の發達
と復古思想

宣長と時を同じくして、塙保己一が出た。保己一は盲人の身に於て、『群書類從』の編輯をなし、國學の發達に貢獻した。國學の旺なるにつれて、ここに復古思想が興り、武家政治が我が國の本義に違ふことが明らかとなり、更に進んで外交上、外夷を攘うて清淨な我が神國を守るべきことを主張し、尊王論の發達に貢獻した。併し幕府は、その極端の説を抑へて治安の維持をはかり、篤胤の如きは罪せられて、郷里秋田に蟄居せしめられた。

楠氏追慕の思想

楠氏追慕の念と尊王論との關係を考へよ。且、太平記に現れたる楠木正成の人格につき他の武將と比較してその純忠の精神を想ひ起せ。

光圀の湊川建碑
前田綱紀の楠氏追慕



楠木正成父子訣別圖

て、楠氏追慕の思想が起つて來た。光圀は湊川に楠木正成の碑を建て、加賀の前田綱紀は、尊王の志厚く、楠氏を敬慕し、狩野探幽をして正成父子訣別の圖を描かせ、朱舜水をしてこれが賛を書かしめ

た。かくて楠氏追慕の念の盛に動き來つたことは、やがて尊王思想を鼓吹する結果を齎らした。

かくて尊王思想は、武家政治と相容れぬから、寶曆・明和の頃、竹内式部・山縣大貳等は、尊王論を唱へて共に罰せられた。その後、寛政年間に至り、尊王論の勢は漸く旺になつて、高山彦九郎・蒲生君平等が出て、彦九郎は朝廷の衰微せるを大いに嘆き、諸國を廻つて尊王の大義を

尊王論の發達

竹内式部
山縣大貳
高山彦九郎
蒲生君平

尊王思想の普及

武士と尊王思想
教育の發達と尊王思想
御歴代の聖徳と尊王思想

説き、君平は『山陵志』の外、職官志を著はして朝制を明らかにした。

かくて尊王思想は、漸次、大名、武士の間に、行はれ、特に文教に關係する學者の間に、有力な思潮として勢力を有した。そして教育機關が發達し、庶民教育にまで及んだので、尊王思想は漸次上下を風靡するに至つた。またかかる間にも、御歴代



光格天皇

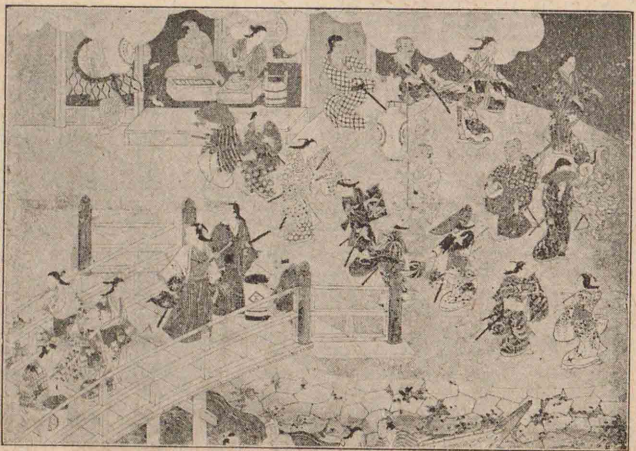
の萬民愛撫の聖徳はすこしも變らず、東山天皇は賀茂川の流れ乏しく、農耕に水を缺き、農民の困れるを聞しめされ、宮城の引水を停めさせた。また光格天皇は、世の治まらざる不祥のことにつき、畏くも御身の不徳を責めた。漸次尊王論が輿論化するの因となつた。

第二節 王政復古の思想と江戸幕府滅亡

武家政治が創まつて以來、これが我が政治の變體であるため、皇室に對する尊王の精神と、幕府の政權に従ふ實際生活とを對照して、國民は二元的の生活をなして來た。

戰國時代を轉機として起つた尊王思想は、江戸時代に入り、將軍から大名、武士、更に次第に庶民にまで普及するに及んで、一般に漸く我が國體を自覺した。そして國民は王政歸一の國民固有の思想に還元し、武家政治の存立の基礎を動搖せしめるに至つた。

幕府は専制の威力をもつて、天下の政權を保つてゐた。然るに將軍綱吉



上下の風俗の廢

尊王論と武家政治の破綻

武家政治と二元的國民生活
尊王論の發達と國民固有生活への還元

武家政治の動搖

武家政治の基礎の破綻

江戸幕府滅亡の原因につきこれを各方面から考察せよ。

幕府の紀綱の弛廢と財政困難

幕府及び諸藩の財政困難

商人の勃興

武士の頹廢



江戸末期の町人の俗風

の元祿以後、經濟上の變動と、國民生活の向上とのため、漸く幕府の財政が逼迫した。殊に將軍家齊の文化文政以後に至つて、その窮乏は甚だしく、財政難は年と共に加はつた。また大名も參勤交代、並びに臨時に幕府から課される經濟負擔のため、次第に窮乏した。これがため直接生産者たる農民は、常に過重の負擔に苦しんだが、貨幣經濟と資本經濟の發達に伴ひ、これに従事した京都・江戸・大坂等の商人は、獨り榮え、奢侈贅澤に耽つた。武士も時勢につれて、概ね華奢に流れ、質實剛健の風を失ひ、士氣が廢ると共に、また窮乏が甚だしかつた。かくて政治上社會上の支配者たる武士も、經濟上、商人のた

時代の推移と人心の自覺とによる幕府存在の困難となれる事情を考察せよ。

封建制度維持の困難

時代推移と社會組織の破綻

先例舊慣墨守の弊害

幕府の衰亡と外船渡來

皇室中心の舉國一致の思想と王政復古の機運

めに壓倒されるに至つて、武士を中心とせる社會組織も、漸次破綻が促された。また幕府が、屢、革新の改革を行つて、政治の紀綱を振作し、士風を矯正することにとめたが、次第にその効果を失ふに及んでは、封建制度の維持は漸く困難となつた。

封建社會では、秩序を維持するため、門地格式が重んぜられるのあまり、有爲な人材の立身出世の途が妨げられ、人心は沈滞した。且、幕府が、何事にも、先例と形式とに拘へられたため、社會の進運と時代の推移に連れて、幕府の存立は困難となつた。

かくて幕府の専制力も次第に衰へ、武家政治の基礎の危くなるに及んで、王政歸一の思想は一層促された。特にかかる際に、外國船の渡來があつて、種々外交問題が紛糾した。この國難に際し種々の思想論議が起り、對内的にも對外的にも、舉國一致を必要とする情勢となるや、皇室を中心とする國民思想は、上下をあげて盛となり、王政復

西洋史で習った十八世紀から十九世紀にかけて諸強國の勃興植民政策の發展、特にこれが東洋方面に向つて發展して來た事情について思ひ起せ。

江戸時代末期に於けるヨーロッパ並びにアメリカの諸強國の國情と外部發展の形勢を思ひ起し、且、當時の東洋諸國の國勢を概観して見よ。

世界形勢の變化とその影響

イスパニヤ・ポルトガル・オランダの衰亡

ロシヤ・イギリス・アメリカ合衆國の形勢

古の機運が漸次高まつた。幕府が鎖國の政策を斷行して以來、二百餘年を経過し、この間に世界の大勢は著しく變化した。當時既に、ポルトガル、イスパニヤの國勢は衰へ、これについて、一時海上の覇を唱へたオランダも衰へ、専らイギリス、ロシヤ、アメリカ合衆國（米國）などが、アジア大陸にその勢力を伸ばすに至つた。

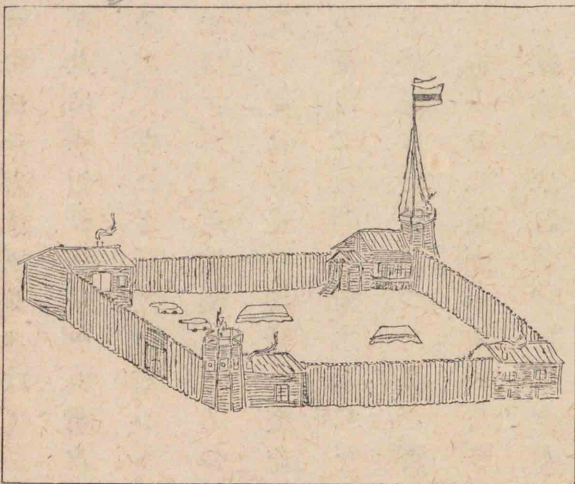
ロシヤは、夙にシベリヤ經略の歩を進め、綱吉の頃、既にカムチャッカ半島を略し、家齊の頃から、屢、使者を我が國に遣はして通商を求めた。イギリスは既にインドを略し、更に極東經略の歩を進めようとして、その船艦は、また我が近海に出沒した。また合衆國は、將軍家治の時、新に獨立し、その後國勢の發展目ざましく、太平洋岸に移住して、捕鯨事業が盛となり、東洋の形勢に注意して、清國との通商を始めた。その後、嘉永年間に、カリフォルニアに大金鑛が発見され、太平洋沿岸の開

California

ロシヤの遣使と我が北邊の窺察
ラックスマン

レザノフ

文化八年
ゴロフイン
軍艦のり
そのの隣近所を
そのの隣近所を
と云云



塞城の太樺の造築人ヤシロ

發が急に盛になるや、我が國を開いて寄港地を得、修好通商をなすことを必要とした。かかる形勢であつたから、我が邊境沿海に於て、これ等の諸國との關係が自から發生した。寛政四年の秋にロシヤは、ラックスマンを松

前に遣はし、我が漂流民を届け、且、通商を請はしめた。爾來ロシヤ人は屢、我が北邊を窺ひ、更にアレクサンドル一世が即位するに及び、文化元年には、レザノフをして、長崎奉行について正式に國書を呈し、通商のことを交渉せしめた。また當時、我が北邊の警備の整はざるに乗じて、沿岸を脅掠した。

イギリス船の暴状

イギリス船長崎暴行と奉行の自殺

幕府の海防對策

幕府の沿岸警備に對する無關心

蘭學者の見識

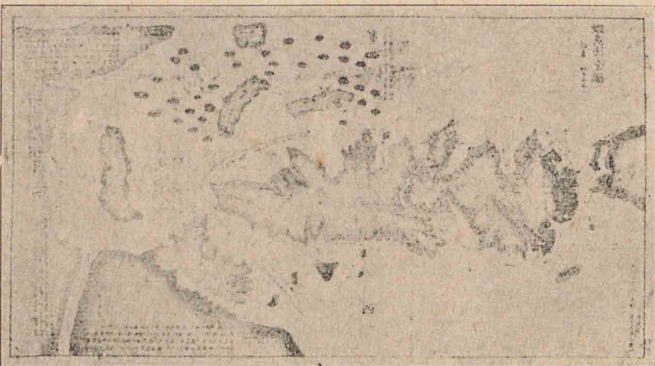
また一方イギリスは、江戸時代初期早く通商は許されたが、オランダ人に壓せられ、平戸の商館を撤去して、インド經略に全力を注いでゐた。されど寛政の頃から、その商船は再び我が近海に出没したが、オランダと對敵關係にあつたので、オランダの東洋に於ける植民地及び貿易の侵略に努め、文化五年にその軍艦は、オランダ船搜索のため長崎に入港し、薪水・食料を奪ひ去つた。(紀元二四六六年)長崎奉行松平康英は、これを撃退し得なかつたので、責を負うて自殺した。その後も、軍艦は浦賀に入りて通商を求めたが、幕府はその請を卻けた。

鎖國以來、我が國人は全く世界の形勢の變化に疎く、幕府の爲政者といへども、僅かにオランダの甲比丹カピダンの江戸參府の際に、これを通じて知り得るに過ぎなかつた。従つて外國貿易に當てた、長崎港の防備にのみ意を拂へども、沿岸の警備は全く等閑に附せられた。唯當時、世界の事情について、見識を有つてゐたのは、蘭學者であつた。

林子平の先見

幕府の對外策 祖法の保持

松平定信の沿岸巡視



蝦夷全圖 (林子平筆)

將軍家齊の時、仙臺の人林子平は、かねて蘭學を修めて海外の形勢を察し、『海國兵談』、『三國通覽』を著はして海防の必要を論じたが、幕府の忌諱にふれて、寛政四年に罪せられた。併し子平の先見誤たず、北邊からロシアの、我が國を經略せんとするに會つた。

幕府は固く鎖國の祖法をとつて、通商の交渉を拒絶せしめ、外國との交渉は總べて、長崎奉行を通じて、行はしめる方針をとつた。されどここに至つて、始めて海防の急務と、更に北邊警備の要とを痛感した。されば老中松平定信は、親から房總・豆相の沿岸を探查巡見してから、幕府も漸次、海防國策に心を傾けるに至つた。

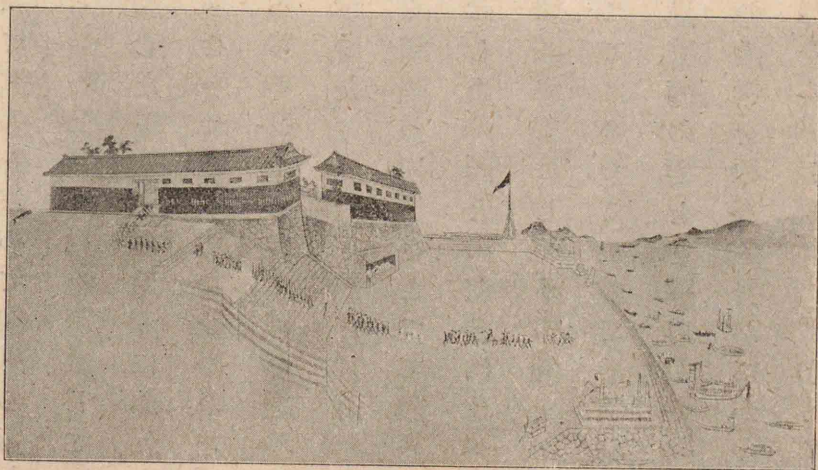
江戸時代末期に於ける蝦夷地警備の困難であつた事情を述べよ。

近藤重藏は幕命を奉じて蝦夷地に入り、高田屋嘉兵衛を嚮導として擇捉島に渡つて探検し、土人を懐け、當時ロシア人の立てた標柱を倒して我が國標を立てて歸つた。嘉兵衛は一船乗るが、勇氣と義氣に富み、幕末北邊經營に大功のあつたものである。

幕府の北邊警備

もと蝦夷島は松前氏が管し、開拓も警備も及ばなかつた。然るにロシア人の北邊に迫るを見て、幕府は、將軍家治の時、最上徳内等をやつて、これを巡視せしめたが、北邊警備の對策は立たなかつた。

かくてロシアの北邊脅掠のこと繁くなるや、幕府は近藤重藏等に、遍く北邊の要地を巡察せしめて、對策を樹てた。そして松前氏から、東蝦夷を回收して、幕府の直轄の下に、函館奉行を置いて、蝦夷地の開拓と警備のことに當らしめた。それから伊能忠敬に、蝦夷



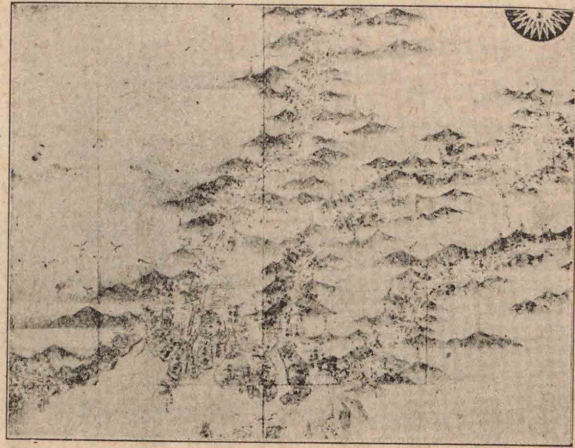
長崎西役所及び波戸場

高田屋嘉兵衛の開拓

文政の打攘令

幕府の海防

洋式の兵制・兵器と軍事改良



實測安藝國圖 (伊能忠敬筆)

地を測量させ、兵庫の船頭高田屋嘉兵衛をして、擇捉島に漁場を設けしめて、北邊の警備に力を用ひた。然るに偶、イギリス船が、長崎港で暴行を働くに及び、我が國民は外國の横暴を憤り、海防攘夷の論は、漸く猛然として上下の間に興つた。そこで文政八年に、幕府も遂に意を決して、爾來外國船が沿岸に近づいたら打拂ふべきことを命じて、鎖國の祖法を勵行した。

かくて幕府は、海防に一層の關心をもち、西洋兵學者高島四郎太夫(秋帆)並びに江川太郎左衛門(英龍)等を用ひて、洋式の兵器戰術を研究せしめた。そして軍事の改善をはかり、武家諸法度の鐵則を破

諸大名と國防の輿論

徳川齊昭

島津齊彬

鍋島直正

攘夷國防の輿論

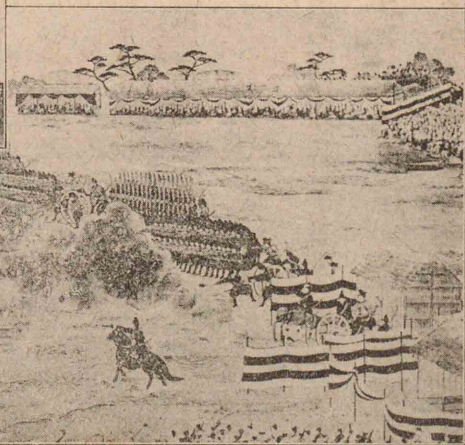
つて、大船製造の禁を解き、軍艦兵器をオランダから購入した。

また諸大名に、兵備を充實して攘夷に備ふべきを命じた。

水戸の徳川齊昭は、固く攘夷の主張を持ち、天下の士氣を勵まし、反射爐を作つて大砲を鑄て武備の充實につとめた。

また薩摩の島津齊彬、佐賀の鍋島直正等も、はやく瓦斯電氣の使用より、寫眞術、蒸氣船、蒸氣車の製作など、西洋文化を入れ、反射爐を作つて巨砲を鑄造した。

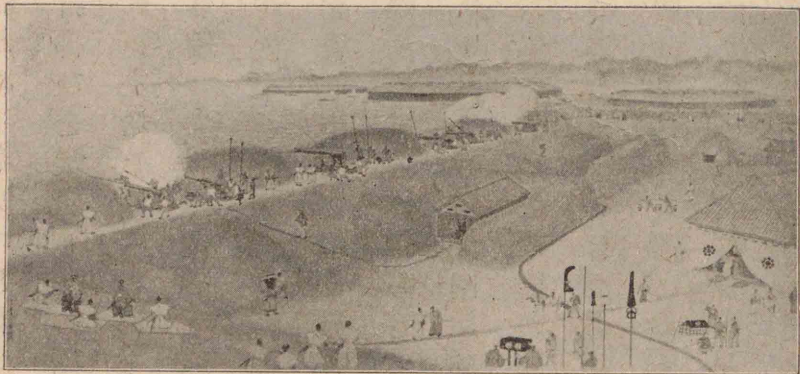
これ等は、何れも海防の先覚者であつたが、この他に一般に、諸藩の間に、攘夷思想と、これに伴ふ海防



武蔵徳丸原練兵 高島秋帆

蘭學者の開國論と國策の緩和

高野長英と渡邊崋山の開國論



品川臺場巡見 (鍋島侯爵家藏)

の輿論が興つた。

かくて一時は、外國船の渡來が著しく減じたが、かかる形勢を見て、蘭學者、渡邊崋山、高野長英等は、世界の大勢に略、通じてゐたので、外船

打拂ひが、やがて由由しき大事を起す

べきことを唱へた。そして開國すべきことを主張して、長英は『夢物語』を、崋山は『愼機論』を著はし、何れも幕府の忌憚に觸れて罪

せられた。その後幕府も、清國が阿片問題

譯業必書之書目録
○ 奇書類 オールテンブック、
○ マアリン 奇書
○ ハルマ 同上
○ ドーフルマ 同上
右ハ先年和蘭地冊(一)ニシテトモ久松義典
卷中 台今ソ奉一過事ニ依リハルマニ
計丹
同
卷中 義典
計丹
同

高野長英自筆洋書目録

國防上の武備を缺きながら外國船の打拂の危険を覺れ。

幕府の外船
打拂令の緩和

オランダ王
の開國の勸告

のため、イギリスと戦つて敗れたことに鑑みて、天保十三年に、外國船打拂ひを緩和して、外國船の漂流して、薪水、食料を失つたものにはこれを支給し、諭告しても去らぬものは打拂ふべしと命じた。かくて外船の來航が多くなつたので、弘化元年にオランダ王ウィリアム二世が、從來の關係から、特使を來朝せしめて、幕府に大勢を説いて開國を勸告し、清國の轍を履むことなきやう説いたが、幕府はこれを斥けて、祖法の破るべからざることを答へた。

アメリカ使節の來朝
ビッドルの來朝

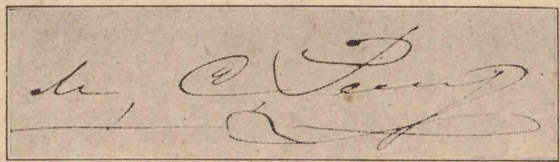
ペリーの來航とその決意

アメリカ合衆國船舶の、我が近海に來るもの多きを加へたが、弘化三年に、始めて同國の使節ビッドルは、薪水、食料補給のため、軍艦を率ゐて浦賀に來り、幕府に通商を請うたが、許されなかつた。その後合衆國は、太平洋航海の盛となれるに促されて、水師提督ペリーを我が國に遣はし、和親通商を求めしめるに至つた。そしてペリーは、我が沿岸港灣の占領をもなすべき、固き決意を藏し、（紀元三十二年）嘉永六年の春、先づ香港

アメリカ合衆國が我が國に使節を遣はした目的は何か。この歴史の展開の上から見て、未だ帝國主義の發達の時機に達せず、對外的に極めて消極主義をとつてゐたこと、あつたことを思ひ合はせよ。

久里濱の會見

ロシア使節の來朝
通商並びに國境劃定の要求



署名のペリ

に於て艦隊を編成し、琉球の那覇に寄り、更に小笠原島を探檢した。そして六月に浦賀に來り、大統領フィルモアの國書捧呈のために、將軍家慶に謁見を強要し、勢威を示して目的を達せんとした。然るに幕府は、國力に鑑みて、これを拒み得ず、浦賀奉行戸田氏榮等をして、久里濱に於てその國書を受けしめた。よつて幕府は事態の重大なるに鑑み、明春回答すべきことを約し、ペリーも、我が事情を察して去つた。

間もなく將軍家慶薨じ、子家定が職を嗣いだ。幕府は内外の事情切迫し、且、急に外交策を講ぜんとし、水戸の徳川齊昭を起して、老中阿部正弘と共にその局に當らしめた。

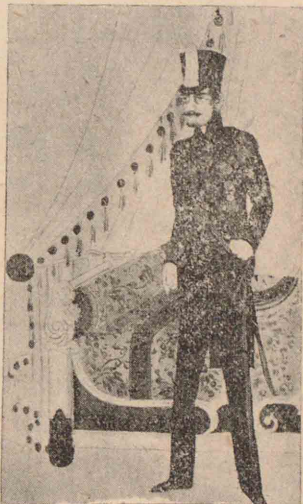
また當時、合衆國の使節來朝に刺戟されて、ロシアも、海軍中將プーチャチンに命じ、軍艦四隻を率ゐて急ぎ長崎に來航せしめ、通商を請ひ、

外國船艦の渡來と幕府の對策

朝廷奏上
諸大名への
諮問

諸大名の攘
夷論

幕府外交政
策上の缺陷



ンチャチーブ

且、千島樺太に關し、日露の國境を定
めんことを要求した。併し幕府は、
川路聖謨等をやつて、何れも即答な
し難きを告げ、他日を期して商議す
べき旨を答へて歸らしめた。

外國船艦の渡來と、これに伴ふ外交問題に直面して、幕府は事の重大なるがため、始めて從來の政治上專制の慣例を破つて朝廷に奏上し、諸大名にも諮つた。然るに齊昭等多くの大名は、何れも攘夷論者であつた。また幕府も合衆國への回答を遷延し、軍備を整へて拒絶し、若し應ぜざれば開戦して、我が國體を傷つくべからずとの強硬な意見を持した。そして海防・國防に一層意を用ひ、更に諸藩を促して防備の充實を期した。

されども幕府は、一度專制の例を破つたがために、政治上朝廷の控

江戸幕府の政治組織は、幕府が專制獨裁の勢力を有することによつてのみ存するを得る體制であるのに、その條件の破綻による幕府存在の窮狀を察せよ。

幕府開港の段階

修好條約

ペリーの強迫

神奈川條約

通商條約

ハリスの來朝

制を蒙り、また諸大名の意見に制肘をうけ、政治上の統制が破れた。そして幕府軍備の體制、武器訓練などに不備な點が多く、諸藩軍備の統制をなす上にも不便を生じた。ために外國に對し、武力を以て解決する自信がなかつたので、漸次外交上の窮地に陥るに至つた。

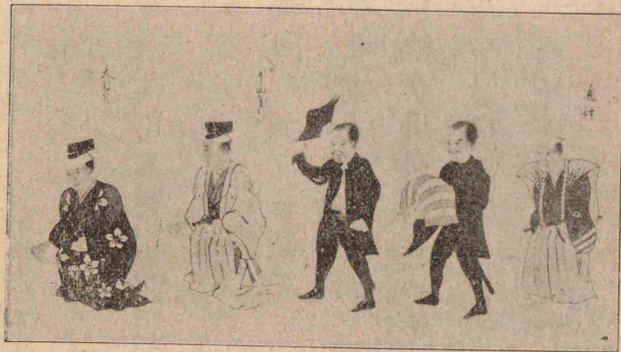
ペリーは浦賀を去つた後琉球並びに小笠原島の經略をなして香港に赴き、翌安政元年正月、先約に従つて、船艦九隻を率ゐて神奈川沖に來り、強硬の態度をもつて幕府に確答を促した。幕府も已むなく、鎖國の祖法を棄てて、合衆國と修好條約を締結し、下田・函館の二港を開き、薪水・食料を給し、漂流民を相互に救ふべきことを約した。これを神奈川條約といふ。續いてイギリス・ロシア・オランダにも、合衆國と略、同様の條約を結んだ。

修好條約が結ばれたので、合衆國は安政三年に總領事のハリスを、伊豆下田に着任せしめた。ハリスは、家定に謁見して、國書を捧呈せ

（安政三年）

Harris

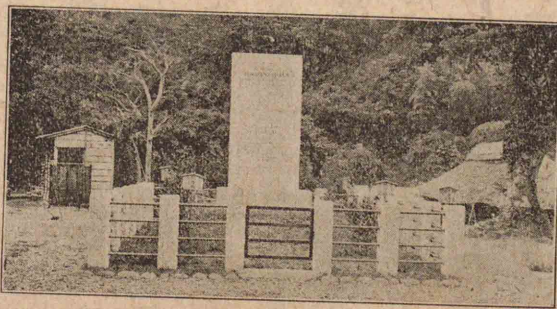
通商條約
草案



ハリスの登城

條約勅許
を得られ
ず

の税率を定め、在留する合衆國人の治外法權を認めることとした。
かくて正陸は、五年に上京して條約の勅許を



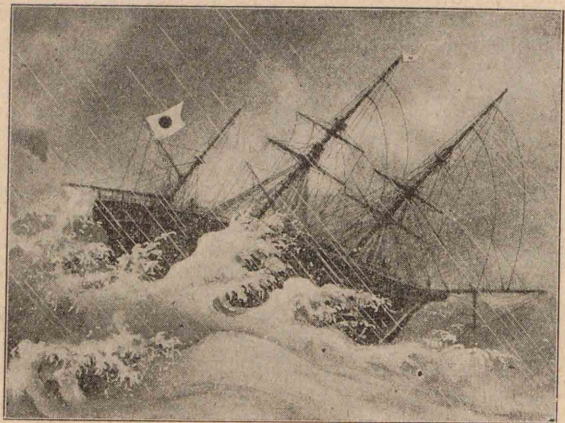
伊豆下田ハリス記念碑

んことを要求し、幕府も遂にこれを許した。そしてハリスは、老中堀田正陸マサヨシに世界の大勢を述べて、通商條約締結の要を説いた。正陸も略、海外の形勢に通じてゐたから、開國の急務なるを覺り、

共に議して修好通商條約の草案をつくつた。そして下田を閉

ぢ、新に神奈川・長崎・新潟・兵庫を開き、輸入品

仰いだが、朝廷は鎖國に傾き、また諸大名・諸士の間にも、鎖國攘夷の論を主張するものが多かつた。そこで孝明天皇は、諸大名の議を盡く



咸臨丸の太平洋航渡

して更に奏聞すべしとて、容易に勅許せられなかつたので、正陸は空しく江戸に歸つた。されば幕府は全く進退に窮し、やがて彦根藩主、井伊直弼をあげて大老とし、難局に當らしめた。偶、當時イギリス・フランスの聯合軍が、清國と戦つて大勝利を得た餘威をかつて、我が國に通商條約の締結を迫らんとすとの風説があつた。ハリスもこの形勢を利用して、頻

に幕府に通商條約調印のことを迫つた。ここに於て直弼は、内外の事情切迫せるをもつて、勅許を待たないで、その六月、條約に調印せし

開港に關して、幕府の極めて困難な立場にあつたことを(一)朝廷との關係(二)諸大名との關係(三)志士との關係(四)外國との關係の各方面から考へて見よ。

井伊直弼
大老とな
る

無勅許の
まま條約
調印

イギリス、フランス、その他諸國との通商條約

め、續いてオランダ、ロシア、イギリス、フランス等の諸國とも、略、同様の條約を結び、更にポルトガル、プロシヤ、スウイス、ベルギー、イタリヤ、デン

マーク等とも、漸次各條約を締結した。か

くて萬延元年、幕府は、外國奉行新見正興等

を合衆國に遣はして、條約の批准交換を行

はしめ、ここに始めて、我が國は鎖國を棄て

て、開國することになつた。そして外國商

船は勿論、外國人も相續いて來朝した。

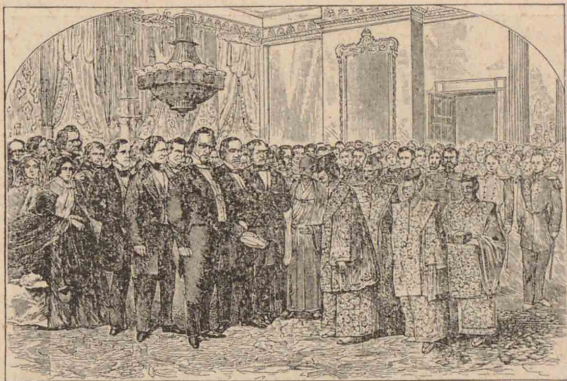
かかる間に、將軍家定は薨去した。これ

より先、家定に嗣子がないので、徳川慶勝や、

松平慶永などは、當時人望の高かつた、齊昭

の子一橋慶喜を繼嗣に立てんとし、朝廷でも年長賢明を旨とせよと

の御思召もあつた。然るに直弼は他の説を斥けて、斷乎として、紀州



見接のと節使米遣の領統大

將軍繼嗣問題

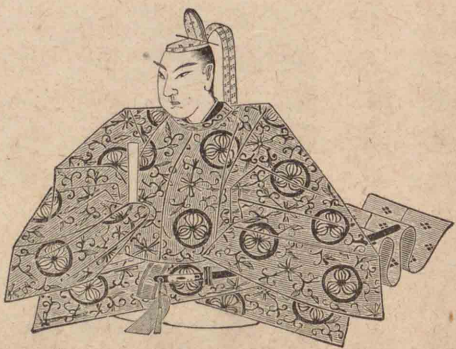
徳川慶喜

直弼の徳川家茂擁立、直弼獨斷の非難

井伊直弼の安政大獄を起したことは、直弼が幕府大老として、内憂外患による國民生活の極度の不安を救ひ、また幕府維持のための非常時政策であつた。併しその手段を誤つたのである。これをフランス革命時の恐嚇政治、イタリヤのムッソリニの獨裁政治の出現等と對照して考へよ。

家から、幼少なる家茂を迎へて擁立した。ここに於て、將軍繼嗣のことに破れた人々は、條約調印の專斷を責めるものと合し、朝廷を動かして、幕府の改革をなさんとした。そして天皇は、遂に勅書を幕府と水戸家に賜はり、國事については、須らく三家以下諸大名の衆議を凝らすべきことを仰せ出された。これから直弼の專斷を憤るものは、尊王攘夷論者と相合流して、幕府の處置を非難して止まなかつた。

そこで直弼は、幕府の威力を回復せんとして、公家諸大名、藩士並びに吉田松陰を始め、橋本左内、頼三樹三郎等の志士數十人を嚴罰に處した。これを安政の大獄といふ。これがため、却つて世人の憤激を招き、直弼は萬延元年、江戸城の櫻田門外で殺された。かくて幕府の



茂家川徳

櫻田門外の變

安政の大獄

不安な國是
と皇威の宣
揚

幕府専制力
の失墜と國
情不安

幕府の勢力
衰亡の結果

皇室を中心
とする舉國
一致の輿論

政治上の権力は地に墜ち、外に外交の重大な時局を控へ、内に鎖國攘夷・尊王攘夷、或は開國など種々の國是が主張せられ、政治の統制を失ひ、眞に我が國家危急の時に遭遇した。かかる時勢の下に、國民は期せずして自から一致し、著しく皇威が宣揚せられた。

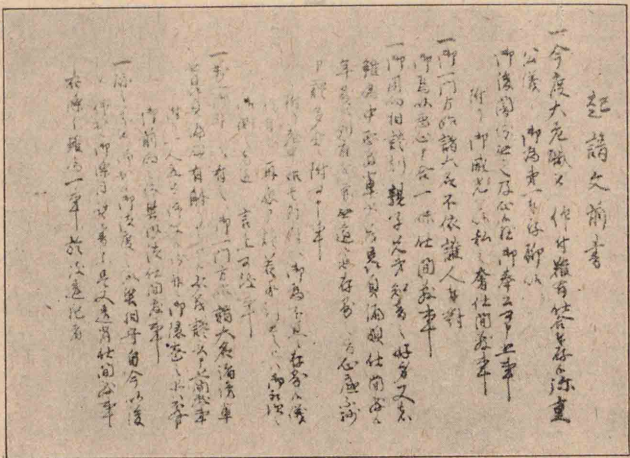
幕府の専制力が衰へたのに乗じ、思想が自由となり、各方面で尊王論の主張が盛となつた。そして公家の政治上の勢力は、次第に加はり、また天皇は、かかる時局多難の際に、深く外國との交渉を憂ひたまひ、屢、勅諭を幕府に下されるに至り、朝威は何時か大いに揚つた。また大名や武士なども、各思想と行動の束縛が緩くなつたので、幕府の違勅と専斷とを憤つた。かかる不安の國情の下に、朝廷を戴いて、舉國一致して國難を打開せねばならぬといふ立場に於て、攘夷論と尊王論とは、相絡んで、天下の輿論となる機會が作られた。

幕府では直弼の殺された後、老中安藤信正は、畏れ多くも皇威を挾

公武合體說

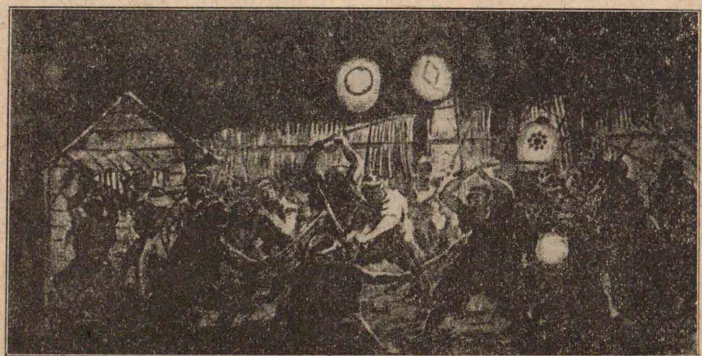
公武合體說が結局非常時匡救の對策として行き詰るべきものなりし理由を考へよ。
尊王論と攘夷論とが接近融合すべき接觸點について考察せよ。

攘夷論者は開港以來、外國人の我が國に在留するもの多きを怒つて、暗殺し、文久元年には浪士等が、江戸高輪東禪寺にあつたイギリス公使館を襲ひなどした。



文誓起弼直伊井

んで幕府の威信を回復せんがため、公武合體策をとつた。それで安政の大獄で罪せられた慶喜等を許し、將軍家茂のため、皇妹和宮親子内親王の御降嫁を奏請して勅許を得た。これまた尊王の志士憤激の種となり、外人の襲撃屢行はれ、信正は坂下門外に襲撃せられた。



撃襲の士浪寺禪東川品

國情の不安
尊王討幕の運動

薩長土三藩の京都警備

三藩の聲望

朝廷の幕政改革

江戸幕府の末期、何時とはなしに漸次朝威が張揚して、武家を抑へるに至つた。徑路を考へ

この時に當り、薩摩・長州・土佐等の、有力な諸藩の有志及び浪士は、京都に集つて頻に公家と往來し、東西に奔走して策動した。そして尊王攘夷論は、やがて尊王討幕の計畫を内に秘めて、實際運動化した。當時志士の言論及び行動が、過激にして治安を紊すことが甚だしかつたので、幕府は會津藩主松平容保を、京都守護職とした。そして朝廷では、島津久光をして京都を鎮撫し、秩序を維持せしめられ、間もなく、長州藩主毛利敬親の子元徳、土州藩主山内豊範等にも、闕下の警衛を命ぜられた。これがため薩長土の三藩の威望は、天下に漸く重きを加へた。

かくて朝廷は、幕府に御沙汰を賜はり、また勅命をもつて、三藩に京都の守備警衛を御下命になるが如く、積極的に、幕府の政治に干渉せられるに至つた。そして勅使を遣はして、家茂に諸大名を率ゐて上洛し、公家と共に國事を議し、公武合體の實を挙げ、幕政の改革を諭さ

留魂録

身いたし我我の所也に
巧ぬも留置まし大和魂
十月五日 二年回極士
一余去年の末、ひ後百多を發し、秘中
趙買高多希と楚、在年ヲ仰く諸知友和
ル所より、拙子遠を送別、句、甚多士一葉高
荆楚深憂、只、平、ト云、此車也、然、五月
十、百、湖、東、行、ヲ、聞、レ、ヨリ、一、誠、字、ニ、云、夫
ヲ、付、テ、リ、時、子、遠、を、字、ヲ、贈、レ、余、是、ヲ、用、シ、ト、云、
一、白、綿、布、ヲ、取、テ、函、子、至、誠、而、不、動、者、也、ト、云、

吉田松陰筆蹟

れ、そして攘夷を實行すべきことを促された。従つて、幕府もこれに種の政策を施したが、却つてその實權を失ふ結果を齎らした。然るに京都では、尊王攘夷を主張せる、過激派が急に勢を加へ、敬親の建言によつて、三條實美を勅使として江戸に下し、攘夷の實行を幕府に促された。そこで文久三年に、家茂

尊王思想の政治的展開

勅使三條實美の東下

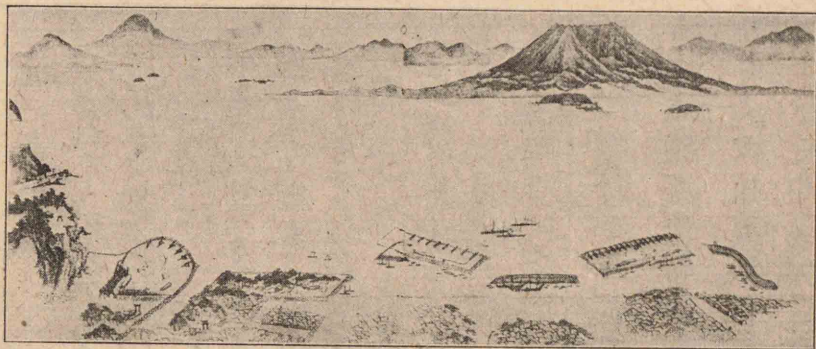
家茂の上京勅命拜受

攘夷の實行長州藩の下關砲撃

も遂に勅命を拜して上京し、參内して攘夷の勅命を拜し、五月十日をもつて攘夷決行の期日と定めた。かくて攘夷決行の期日になつて、長州藩は、フランス・オランダ・アメリカ合衆國等の船を下關に砲撃し、また薩州藩でも、七月にイギリス

攘夷御親征の計畫

朝議一變と公武合體説



（藏家府公津島） 卷繪爭戰英薩

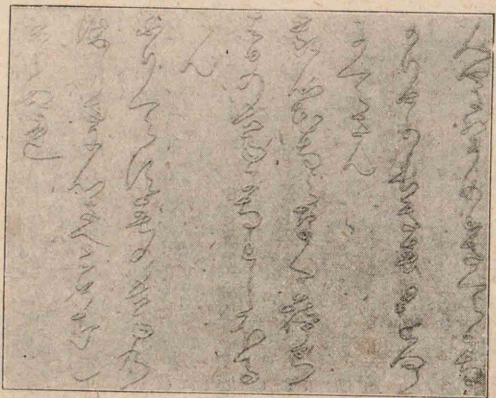
の船艦を鹿兒島灣に擊退し、攘夷の熱は一層昂められた。家茂はかかる間に江戸に歸つたので、過激なる攘夷論者は益々幕府の態度を憤り、公家を遊説して、遂に天皇が大和に行幸せられ、親しく神武天皇の御陵を拜せられ、攘夷御親征の軍議あるべき朝議を、一決せしめるまでに至つた。そしてこれを機として、討幕の實現を期せんとする論者もあつた。かかる過激派の計畫を輕舉盲動となし、會津並びに薩摩等の諸藩士の中には、自重して時局を匡救せねばならぬといふ、公武合體の穩和主義をもつものが多かつた。そこで朝議も急に一變して、過激派に屬した長州藩士

過激派の打撃

志士の憤激と擧兵

の宮門護衛を止め、その入京を禁じ、これ等と志を同じくしてゐた三條實美等の公家は參朝を停められた。ここに於て長州藩士等は、實美等七人の公家及び志士と共に長州に奔つたので、朝廷では公家七人の官位を削られた。

朝議の急變が、會津薩摩等の策動から起つたと考へた過激派は、慷慨悲憤のあまり、君側の奸を除くと稱して、地方で亂を起すに至つた。そこで藤本鐵石等は、中山忠光を奉じて兵を大和に擧げ、平野國臣は、澤宣嘉を奉じて但馬の生野に兵を擧げたが、皆募兵に鎮壓された。また常陸でも、武田耕雲齋等は、兵を筑波山に擧げたが、間もなく亡びた。



歌たつ作て以を撰紙で中獄が臣國野平

元治の變

かくて長州藩士及び志士は憤懣に堪へず遂に元治元年七月に、長州の家老福原越後、國司信濃、益田右衛門介等は、士卒を率ゐて、公家七人の官位を復し、敬親父子の誠意を訴へ、入京を許されんことを朝廷に請はんとした。そこで相共に東上して、皇居の諸門に迫つたが、會津薩摩桑名等の藩兵に拒まれて、戦ひ敗れて長州に歸つた。

ここに於て、幕府は勅命を奉じ、敬親父子の官位を削り、徳川慶勝を總督とし、諸藩の兵を出して長州征伐の軍を發した。長州藩では、恭順黨が大勢を占め、越後等三家老を自殺せしめて罪を謝し、謹慎の意を表した。そこで總督は、山口城を毀ち、實美等五人の公家を、太宰府に幽せしめることにして、征長の軍をかへした。

然るに間もなく、同藩の士高杉晋作等は、奇兵隊を組織し、慶應元年正月に、敬親を奉じて再び兵を擧げた。この時、家茂は親ら將として、勅許を得て長州藩を征することになり、大坂まで出陣し、幕府の諸軍

長州征伐と幕府滅亡の機運
第一回長州征伐と長州藩の恭順

第二回長州征伐
高杉晋作

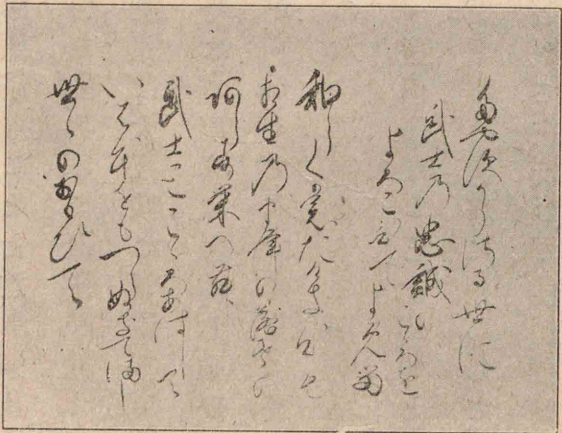
長州征伐がいかなる機運を誘動したか、且、これが幕府滅亡の近因となつたことを理解せよ。

幕軍の敗北と家茂の薨去

幕府無力の暴露

皇權の確立と王政復古の大勢
慶喜將軍となる

明治天皇踐祚



孝明天皇宸翰和歌御懷紙

は四方面から進撃したが、各方面とも長州藩のために破られた。かくて幕府の勢威は大いに挫かれたが、この間に家茂は大坂城で薨去した。よつて朝廷から、將軍の喪中の故に、征長の軍を止めしめられたが、この役によつて、幕府の大名を統制する實力なきことが、天下に暴露するに至つた。

慶喜は前から上洛してゐて、内外に互つて幕政を統裁してゐたが、家茂について將軍職となつた。時に天皇は國事多端の際、いたく大御心を惱ませられながら、遂に崩御せられた。かくて慶應三年正月、明治天皇は、御年十六歳にて踐祚遊ばされ、勅して征長の兵を解かしめられた。

イギリス等諸國公使の大坂來航

兵庫開港の要求

薩長二藩の反目

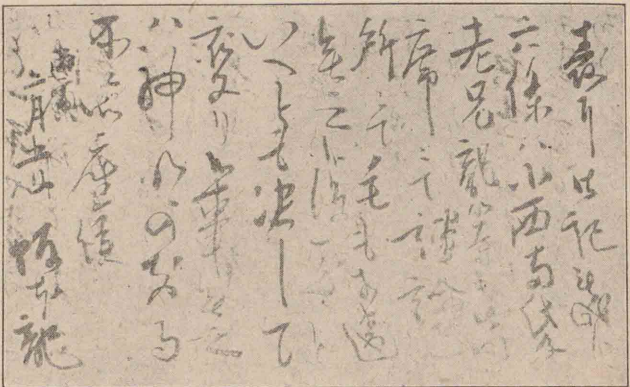
これより先、慶應元年、長州征伐で人心不安の最中、九月にはイギリス・合衆國等の諸公使は、軍艦を連ねて大坂灣に航し、條約の勅許と、兵庫開港のことを迫り、家茂も切に勅許を請ひ奉つた。孝明天皇は止むなく、兵庫の開港を除く外、假條約を勅許せられた。ここに於て公使等は、大坂城で新將軍慶喜に謁し、兵庫開港のことを再び迫つた。そこで慶喜は、參内し、強ひて請ひ、明治天皇は、兵庫開港を勅許せられた。かくて内治外交に於ける皇權の宣揚は、漸く我が國政治の固有の本體に、復せるの觀を呈するに至つた。

薩州藩はもと土州藩と同じく、公武合體説を執つてゐた。然るに長州藩は、他藩に先んじて、尊王攘夷論と討幕説とをもつて、藩の輿論として來たので、薩州藩とは一致しなかつたが、元治の變以來、反目は更に甚だしくなつた。されど薩州藩の西郷隆盛等は、幕府の衰頽甚だしく、到底公武合體説に基づく國難打開の困難なることを察した。

薩長二藩の提携

公武合體派の過激攘夷派との提携融和

天下輿論の歸趨 尊王の輿論化



坂本龍馬の薩長盟約の裏書

偶、太宰府にあつた實美等の命を受けて、土佐藩士坂本龍馬の斡旋があつたので、大久保利通、小松帶刀等と、長州藩の木戸孝允等と共に京都に合議し、國家のため、相携へて事に當るべきことを約した。

この結果、長州再征の時、薩州藩は無名の軍なりとして、出兵に應じなかつた。かかる間に實美等の公家と、かねて公武合體説をとつて、京都岩倉村に蟄居を命ぜられてゐた、岩倉具視を始め、同志の公家との連絡提携が成つて、薩長二藩の勢力を中心にした討幕運動が、極秘の中に早くも進められた。

幕府の政策は事毎に輿論の反抗をうけ、長州征伐の失敗と共に、そ

皇室を中心とする舉國一致の國民的自覺

の政治的存在は頗る危殆に瀕した。そして朝廷を中心に舉國一致して、國難打開の方途に出ねばならぬとの國民的自覺は、諸大名藩士志士等の間にも漸く盛となつた。それから攘夷討幕を通じて、尊王の大義は弘く輿論の指導精神となつた。

大政奉還と江戸幕府の滅亡

大政奉還

王政復古

土佐の前藩主山内豊信トヨシダは、大勢に察して藩士後藤象二郎等をして、書を慶喜に呈し、大政奉還のことを勧告した。慶喜は夙に國體の本義を解し、よく内外の事態に鑑みて、慶應三年十月に、在京の諸士を二條城に集め、大政奉還のことを告げた。（紀元二五三七年）そして十四日に慶喜は大政奉還を奏請し、ついで御裁可を賜はつた。かくて江戸幕府は、徳川家康以來十五代二百六十餘年にして亡び、源頼朝が武家政治を創めしより、六百八十年にして大政は朝廷に歸した。

第三節 明治維新

王政復古の大號令

徳川慶喜が大政を奉還し、續いて征夷大將軍の職を辭したから、明

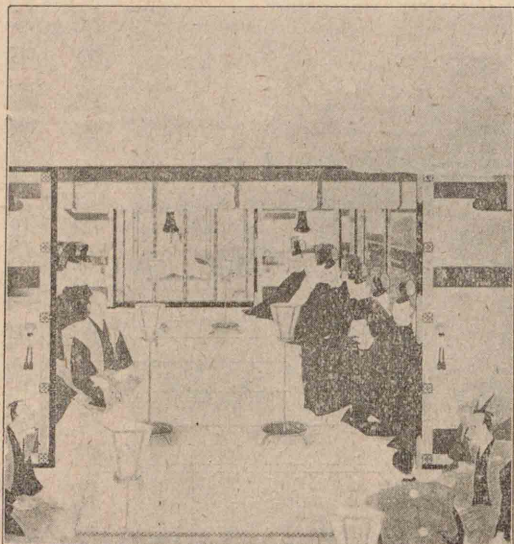
我が國史上明治維新の事業に關し、これを建武中興のそれと比較して、よつて成敗の所以を明らかにせよ。この國史上未曾有の大事業の成功が指導的地位に立つた人の、明確なる國體觀念と更に國民の尊王を基調とする舉國一致の大精神に負ふ所なるを深く記憶せよ。

萬機御親裁

三職

明治新政の基礎
政變の反動と天下統一

治天皇は王政復古の大號令を發せられた。そして從來の攝政關白、征夷大將軍などの官職を廢して、總裁、議定、參與の三職を置き、萬機御



王政復古
（明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫）

親裁遊ばされる旨を天下に告げさせられた。かくて王政復古に與つて、勳功を樹てし皇族、公家、大名を、總裁、議定に、公家諸藩士を擢てて、參與とせられた。ここに我が國の政治の本體に基づいて、王政は復古し、公武の隔ても門閥の別も、總べて撤せ

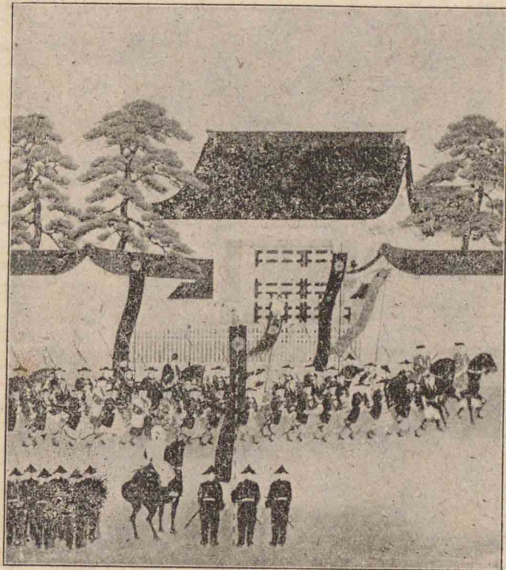
られ、ここに明治新政の基礎は定まつた。大政奉還によつて、形式上幕府は亡び、武家政治は倒れたが、徳川氏は尙多くの領地と、旗本を初め佐幕諸藩の大勢力を擁してゐたので、

武家政治の
實質

大政奉還に
關する意見
の相違

武家政治の本體は依然存在した。されば幕府の危急を救ひ、公武一
致して、國運の興隆を策せんとして、大政奉還を策した土佐藩などと、
武家政治を倒し、一新の政治確立を主張する薩州・長州・安藝三藩、並び
に三條實美・岩倉具視等の公家とは、意見の間に大なる懸隔があり、政
治の運用に關しても、また意見の相違があつた。

舊幕臣の不
平不穩



大總督熾仁親王京都御出發
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

かくて薩州・長州並びに實
美・具視等は、兵力に訴へても、
根本的に時局を解決せんと
する政策を進めた。そして
慶喜は、復古の改革にも與ら
ず、しかも内大臣を辭し、直轄
せし土地・人民の奉還を強要
せられしかば、旗本並びに會

鳥羽・伏
見の戰

津藩主松平容保等は喜ばなかつた。そこでこれ等は慶喜に勸めて
討薩の表を捧げて兵を發し、遂に鳥羽・伏見の兵變となり、慶喜は敗れ
て江戸城に還つた。

江戸進撃
と徳川慶
喜の恭順

かくて朝廷は、熾仁親王を、東征大總督として慶喜を追討せしめら
れたが、慶喜は旗本の激昂を抑制し、フランス公使の勧誘を斥けて江
戸城を開き、罪を謝し、恭順を旨としたので事が治まつた。されども
旗本及び譜代大名の中には、慶喜の恭順を喜ばず、彰義隊の亂及び奥
羽・函館の役などを起したが、暫くにして東征軍に破られ、佐幕勢力の
反動は漸く一統せられた。

戊辰の役
反動勢力の
鎮壓

五箇條の御
誓文

新政府は、人心の歸嚮を一にせんとしたので、慶應四年三月、天皇に
は親しく紫宸殿に臨御せられ、公家・大名等を率ゐて天神地祇を祭り、
五事を誓約し、國是を御定めになつた。

一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

後醍醐天皇の建武中興の規模と比較して明治天皇の新政の雄大なるを思へ。尙建武中興政治が間もなく失敗したの對し明治新政が新日本創建の大業となつた所以を各方面から考察せよ。

御誓文の精神

即位御大典と東京奠都

一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメ
ンコトヲ要ス

一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

この御誓文は、實に神武天皇御創業の御精神、並びに大化改新の理想に則られたもので、眞に明治新政の根本方針であつた。これにより我が内治外交の國是は決定せられ、爾來施設の方針は一にこれに基づき立憲政治の如きも、この御趣旨を擴充したものであつた。

この年八月、天皇には紫宸殿に於て即位の御大典を行はせられ、悉

一世一元

東京奠都とその御精神

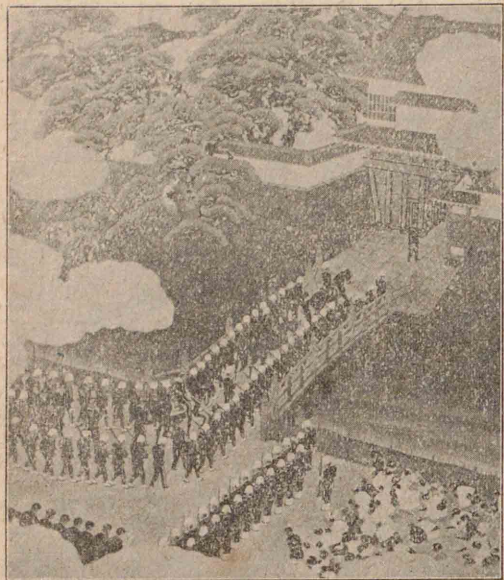
く古制に則つて儀容が頗る盛であつた。そして九月八日に改元して明治といひ、一世一元の制を立てられた。

これより先、參與大久保利通は、人心を一新するため大坂遷都の議を建てたが、東征軍が江戸城を收むるや、江戸を改めて東京とし、十月に行幸して舊江戸城を皇居とせられた。やがて天皇には京都に還

皇后册立

東幸

官制改革



御著島兒鹿幸巡國四國中 (畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

幸あつて、孝明天皇の御祭典を行はれ、左大臣一條忠香の第三女、美子を册立して皇后とせられた。更に翌二年三月に再び東幸あつて、永く東京の地をば我が國の帝都と奠められた。

大政奉還の當初三職を置

東京と改稱する詔勅ヲ朕今萬機ヲ親裁シ億兆ヲ綏撫ス、江戸ハ東國第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地、宜シク親臨以テ其政ヲ視ルベシ。因テ江戸ヲ稱シテ東京トシ、海内一家ノ東西同視スル所以ナリ、衆庶此意ヲ體セヨ。

太政官七官
と三權分立

大寶令に基
づく太政官
官制
六省

正院左院
右院と三
權分立

かれたが、更に明治元年に官制を改めて太政官に七官(議政・行政・神祇・會計・軍務・外國・刑法)を置かれた。そして議政官には立法を、刑法官には司法を、他の五官に行政を分掌せしめ、三權分立の制を採り、先づ中央政治の機關を立てた。

翌二年七月、更に官制を改め、大寶令に則り、神祇・太政の二官を設け、太政官に左右大臣・大納言・參議を置き、別に六省(民部・大藏・兵部・刑部・宮内・外務)を設け、官位十八階並びに勅任・奏任・判任の制を定めた。また四年には更に太政官の官制を改め、左右大臣以下の官を廢し、新に正院・左院・右院を置き、これを行政・立法・議政の府となし、三權分立の政治形式は一層明瞭となり、中央政府の官制が略整備した。この後、時々官制の改定をなし、十八年になつて、始めて現今の内閣官制が完備するに至つた。

當時地方にあつては、先きに幕府の亡ぶや、その所領地は總べて新

版籍奉還

大政の奉還
征夷大將軍
の辭任等よ
り版籍奉還
並びに廢藩
置縣が、中
央集權の確
立に本質的
に重大な意
義を有する
理由を理解
せよ。また
政治上・社會
上の大改革
で、外國な
ら必ず革命
の起るべき
所、我が國
に何等の故
障なく坦々
として行は
れた所に我
が國體の精
華を見よ。

府縣藩の存
立

政府の實權
確立せず

地方政治統
一の要
木戸孝允・
大久保利通
の努力

版籍奉還の
成功

政府に歸したれば、これを府縣として直轄地とした。されど舊來の二百六十餘の諸藩は依然として存し、藩主は兵力を有して封建制は尙持續せられた。されば府縣と藩とは、政治上・經濟上それぞれ立場を異にし、全國劃一の政治を行ふことが出来なかつた。また政府の歳入も極めて乏しく、財政の基礎定まらずして政治の實權は確立せず、中央集權の實があがらなかつた。

ここに於て、木戸孝允は、政治の不統一を憂へ、諸藩主をして、その土地人民を朝廷に還納せしめねばならぬとし、大久保利通と議して、孝允は長州藩主毛利敬親を、利通は薩州藩主島津忠義を説いた。つい



毛利敬親

て土佐の山内豊範や、肥前の鍋島直大等も、何れもこれを賛した。かくて明治二年正月に、これ等有力な四藩主が、率先連署して版籍奉還を奏請に及んだので、他の藩主等もこれに

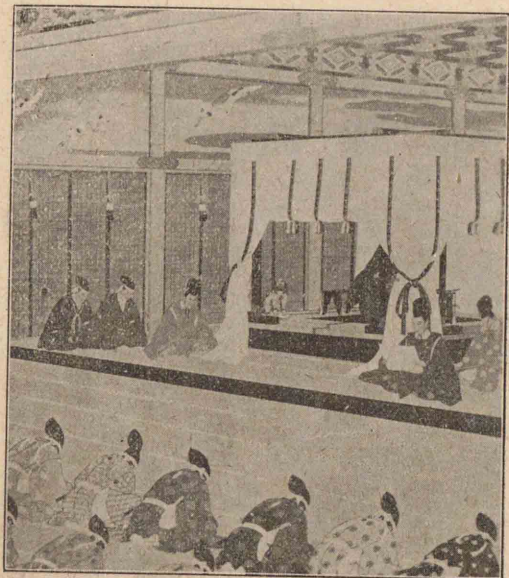
封祿の給與

倣うたものが多かつた。よつて朝廷は、藩主をもつて知藩事となし、府・縣と同様に治めしめ、別に封祿として、收入石高の十分の一を給せられた。かくて全國の土地・人民は、悉く朝廷に歸して、我が國の封建制度は全く亡んだ。

廢藩置縣

藩の存置と
地方政治の
不便

版籍の奉還によつて、全國の土地・人民は悉く公地・公民となつたが、



廢藩置縣
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

地方政治にあつては、府・縣・藩は互に不規則に混在し、その管轄する行政區域の廣狹について、大小區々であつた。また知藩事は皆舊藩主であつたから、その藩の士民との間の情誼は俄に改め難かつた。ために動もすれば中央

中央集權政
治と地方分
權政治の特
色を理解せ
よ。

全國地方政
治の統一主
張

廢藩置縣の
詔

政府との連絡を缺き、全國の統一は尙困難であつた。

されば孝允・利通等は、西郷隆盛・板垣退助等とはかつて、朝廷の實力を鞏固にして諸藩を制せんとし、親兵を設けて政府の根柢を堅くした。そして四年七月に廢藩の議を決し、天皇は親しく知藩事を召して、内は民衆を安んじ、外は列國に對するには名實相伴ふの策を樹つべき旨を諭され、全國の知藩事を罷め、藩を廢して縣を置き、新に地方官を任命せられた。ここに始めて府・縣の制が整ひ、政府は地方行政の便宜をはかつて、府・縣の區劃を改め、全國を三府七十二縣に分ち、その後改廢併合が屢行はれ、二十二年には、三府四十三縣となつた。

府縣制の整
備

武家政治根
本組織の崩
壊と中央集
權確立

かくて武家政治の根本組織をなした、知行制に基づく藩の廢止によつて、始めて政治・社會・經濟の上に、地方分權の制が破れて、中央集權の基礎が確立せられるに至つた。

輿論尊重の思想

輿論尊重の思想の由來

我が國に於て輿論尊重の思想並びに代議政治の思想が發達して來た由來について理解せよ。

政府の輿論尊重の施設

議定官

公議所

集議院

第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達

幕末、内憂外患のため、幕府は措置に窮して、輿論に諮る端緒を作り、また西洋の思想の影響により、輿論を本として、幕政及び藩政の改革を企てる主張も起つた。これが徳川慶喜の大政奉還の原因ともなり、やがて國民の嚮ふ所を示すために、五箇條の御誓文を拜するに至り、輿論尊重の思想が漸く興つた。

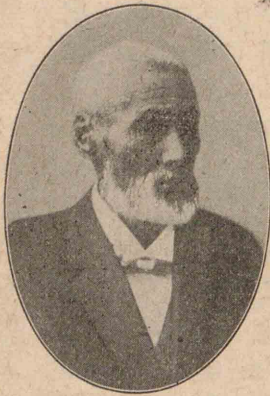
政府も、萬機公論に決すべしとの國是に基づき、明治元年に徴士を天下に求めて參與とし、府縣藩から各貢士を出させて議定官下局の議員とし、更に公議所を置いた。翌二年に地方から公議人を集めて制度・律令を議せしめ、後に集議院と改稱して、左院に屬せしめた。集議院は、輿論尊重の機關として設置されたが、行政權の強大のため全く顧みられなかつたから、民權を主張するものは、民選議院設立の議

民選議院論

板垣退助等の民選議院設立の建議の根據

を唱へた。

六年に木戸孝允が、ヨーロッパから歸朝するや、御誓文の趣旨に基づいて徐に憲法を制定して、國家の基礎を堅固にし、内治を整頓して外交を親睦にすべきを急とし、建白書を政府に出した。これ實に我が憲法制定の淵源をなすものであつたが、時恰も征韓論の旺であつたため、多く顧みられなかつた。ついで征韓論の議に敗れ、西郷隆盛、板垣退助等は、職を辭して野に下つたが、七年一月に退助等は連署して民選議院設立の建議をなし、これを廣く發表した。その所説は、多く



加藤弘之

フランス革命、アメリカ合衆國獨立の際流行した自由民權思想の影響によつたものであつたが、これが當時の民心に投じ、世論喧囂を極めた。これに對し加藤弘之等は、民智未だ進まず、國民輿論の自

時期尙早論

覺なきに參政權を與ふるの弊を述べ、時期尙早として反對した。政府にあつても徐にその制を立て、民智の發達を待たんとするの方針をとつた。

立憲政體の階梯
大阪會議

その後、孝允も參議を辭して野に下りたれば、井上馨は孝允・利通及び退助等を大阪に會して、立憲君主政體を創め、議會を開設すべきの議を定めた。かくて退助・孝允等何れも政府に入り、八年四月に天皇は御誓文の趣旨を擴充して太政官の左右兩院を廢し、元老院・大審院を置いて、立法の源を廣め、審判の權を固くせられた。そして地方官會議を開いて、民情を通じ、二院制を參酌して漸次立憲政體を立つべき旨を諭された。これが所謂立憲政體の勅諭である。

元老院
地方官會議

かくて元老院は門地・功勞・學識・經驗あるものを選んで議官とし、地方官會議は府縣の長官を會合せしめて、地方施設を議せしめ、この二者を以て立法院の上局(後の貴族院)・下局(後の衆議院)に擬した。更に十

我が國に於ける代議制並びに立憲政體の確立が、國民の力に迫られ、餘儀なくせられたものでなく、明治新政の根本の精神に則り、政府に於て著計畫を進めてゐたものであつたことを注意せよ。

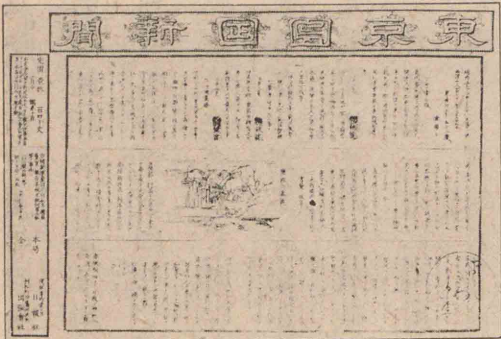
地方政治に於ける代議制の實施

一年七月には、府縣會規則を制定し、始めて民選議員によつて府縣會を開き、府縣の經費を協賛せしめたので、地方經濟について先づ代議制の實施を見た。

政論の流行と輿論

言論の發達と民權説

新聞・雜誌の社會的勢力



(新聞新日日京東) 刊初の開新

西南の役後、民間の政治思想は漸く昂まり、政府と意見を異にするものは、専ら言論によつて主張を貫かんとするに至つた。立憲政體の創設に關し、政府の漸進主義に反對し、急進主義を執るもの多く、自由民權説は輿論化し、諸國有志の國會即開に關し、政府に建白するものが多かつた。

維新後新聞雜誌の刊行盛になり、明治五年頃、東京日日新聞・郵便報知新聞等が創められた。これ等は、初は社會上事變の報道に止まつてゐたが、その後政論が熾なるに

輿論の熱狂と治安妨害

政府の治安維持

議會開設の大詔

議會開設の詔勅

フランス革命の思想的源泉をなしたるルッソーの民約論の主旨を述べ、これが我が國體と國情に背反する點を明らかにせよ。そしてかかる説が、殆ど民權論者に暗記せられて彼等の意見として吐かれるが如き時、國民輿論の自覺、缺く時代、いかに治安上妨害多かつたかを覺

及び政治政策の得失是非を論評し、國民の政治思想の發達と、輿論勢力の結成に大なる勢力を有するに至つた。然るに當時の言論界は極めて無自覺にして、ルッソーの民約論、フランス革命の思想なども、批判なく主張して、熱狂した輿論に悪影響を及ぼし、國家の治安を妨害することが尠くなかつた。この形勢に鑑み、政府は、新聞紙條例を制定し、更にまた集會條例を發布して、取締を嚴重にした。



チンボの初最本日

されど一方に、國民の政治思想も漸次發達して來たのに鑑みさせられ、十四年に天皇は、明治二十三年を期して、議會を開くべき旨を詔らせられた。ここに於て國論は定まり、官民上下共に議會開設の準備に忙しかつた。かくて議會開設に應じ、政見の實行を期す

政黨の結成

立憲制度の取調

伊藤博文の海外視察
博文の見識

伊藤博文の見識のいかにかに優れてゐたかに敬服せよ。そして博文が、國民權自由の思想と、國史に基づく我が國體の本質を考慮して、いかに肝膽を砕いたか、その苦心を察せられた

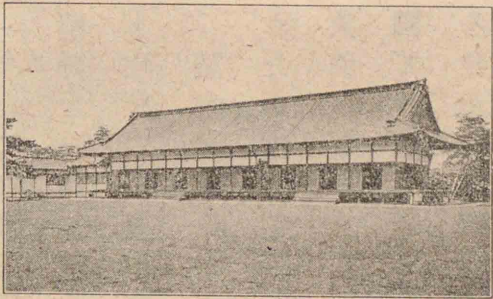
るために政黨が組織された。中にも板垣退助の自由黨と、大隈重信の立憲改進黨とは最も盛で、何れも、主としてフランス、イギリスの自由民權の思想に則つたので、我が國情に合せぬところがあつた。またこれ等に對し、福地源一郎等は立憲帝政黨を組織して保守的精神を發揮し、加藤弘之はドイツ思想に基づき、國家主義を唱へ、何れも政府の勢力をなした。

議會開設の議が定まるに先だち、憲法起草のため委員が任命せられたが、十五年三月、伊藤博文をヨーロッパに派遣せられて、各國の制度、典禮並びに立憲政治の實情を視察せしめられた。博文は當時我が國で、イギリス、フランスの民權思想が盛に唱へられたるに對し、むしろ我が國の國情が、ドイツに類似するの點多きに鑑みて、特にドイツ憲法の研究に最も力を注ぎ、我が憲法構成の骨子をここに求めた。そして博文は、歴史と憲法とは重大な關係を有すべきもので、憲法は

制度取調局
と憲法起草

内閣制度の 創立

宮中・府中
の別
内閣官制と
責任内閣



恩賜憲法記念館
帝國憲法制定に關し記念すべし物、御思召
よに特伊藤博文に賜はつたのものであ

各國の歴史によつて、制定せられねばならぬといふ意見を抱持して、我が國情を基として、諸國の憲法を詳細に比較研究した。

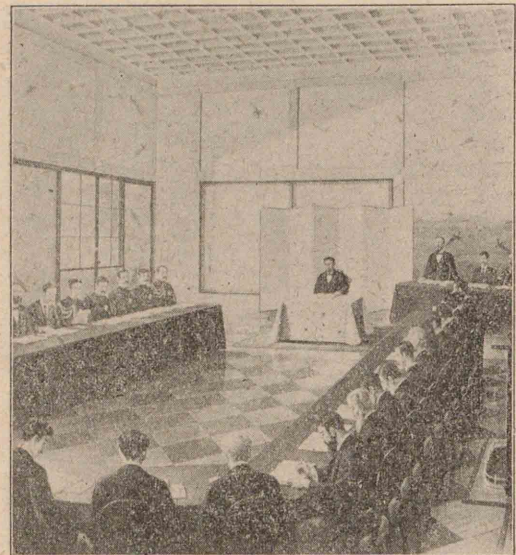
かくて十六年八月、博文等は歸朝し、十七年三月制度取調局が宮中に設けられ、博文を主宰とし、井上毅、金子堅太郎等を委員として、帝國憲法の起草をなさしめられた。またこれに伴ふ諸制度の調査にも従事せしめ、著々として、議會開設の準備が進められた。やがて十八年十二月に至り、中央政府官制の大改革が行はれた。從來官制は、概ね大寶令に準據して構成せられたが、これを一新し、宮中府中の別を立て、太政官を廢して内閣制度を創立した。そして宮中には内大臣、宮内大臣を、府中には内閣總理大臣を置いて内閣を組織し、政治上天皇輔弼の責に任

宮中府中の別を建て、責任内閣制が、天皇は神聖にして侵すべからずとの主旨を確立するの所以であり、我が憲法政治の發達運用の上から重要な意義あるを、理解された。

帝國憲法の 制定 樞密院

帝國憲法の
審議

憲法發布



樞密院憲法會議
(明治三十四年神宮聖德記念繪畫館壁畫)

じ、八省(外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信)を置いて諸政を分擔せしめ、博文を、第一次の内閣總理大臣に任命せられた。

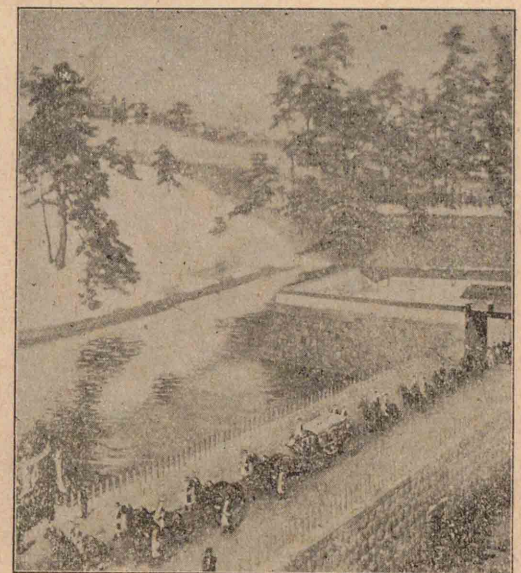
その後二十一年に、政府は國政諮詢の最高機關として、樞密院を宮中に置き、國家の元勳及び政務練達の士を以て、顧問官に任じた。そして憲法草案を樞密院に附して審議せしめ、天皇には始終親臨して御統裁遊ばされ、遂に帝國憲法を欽定したまうた。

る、各般の準備悉く成つたので、二十二年に、天皇は紀元節の佳辰を以て、我が大日本帝國憲法を發布せられた。その時、天皇はこの趣を先

憲法發布及び皇室典範制定によつて、我が國體の確立を以て、歐米諸國に於ける憲法發布當時の事情を想ひ、我が國體の精華に於いて、自覺された

皇室典範制定

帝國憲法の特色
欽定憲法
憲法の根本精神



憲法發布觀兵式行幸啓
(明治神宮德聖紀念繪畫館壁畫)

第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達

一四八

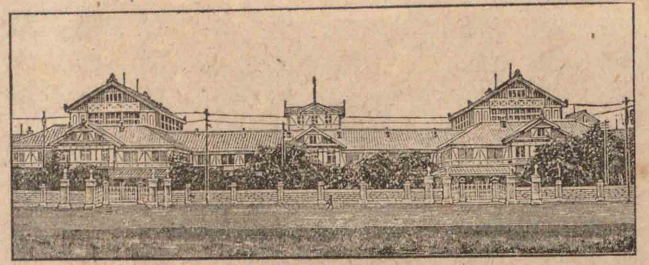
づ宮中奉安の賢所及び皇靈殿に告祭せられた。そして、皇后と共に宮中正殿に出御せられ、皇族・大臣・各國公使・文武の百官、並びに府縣會議長を召して、發布の大典を挙げられた。これに對し國民は國を舉げて歡呼し、大典を奉祝して聖恩の限りなきを謝し奉つた。これと同時に、皇室典範も制定せられ、皇位繼承・踐祚・即位・立后・立太子等のことが規定せられた。

かくて我が憲法は、國家の隆運と國民の幸福とを増進せしめられんとして、天皇親ら御裁定の上、發布せられた欽定憲法であつた。その形式に於ては、西洋のそれを參酌したるも、その精神は、御誓文の趣

帝國議會の開設

憲法並びに皇室典範と我が國體

三權分立の體制と政黨政治の發達
行政機關
立法機關
司法機關



舊議事堂

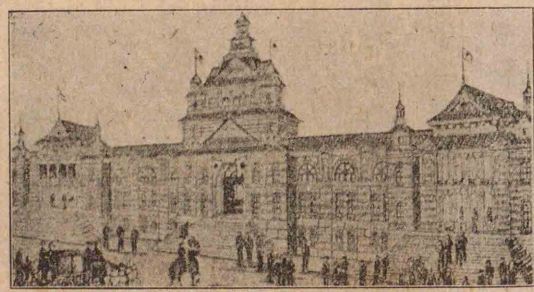
第六章 立憲政治の確立と自治制度の發達

一四九

旨を擴充し、更に遠く我が肇國の大精神を、發揚せられたものである。かくて帝國憲法と皇室典範によつて、我が國體は、愈、萬世不易のものとなつた。

ついで憲法の規定により、二十三年十一月に、第一回帝國議會が東京に召集せられ、天皇は親臨して、開院式を舉げさせられた。かくて我が國は立憲政體の實を具備し、東洋唯一の立憲君主國となつた。

かくて内閣制の創立によつて、行政機關の組織は確立し、議會の貴族院・衆議院の二院制度の制定によつて、立法機關は備はつた。更に二十三年に

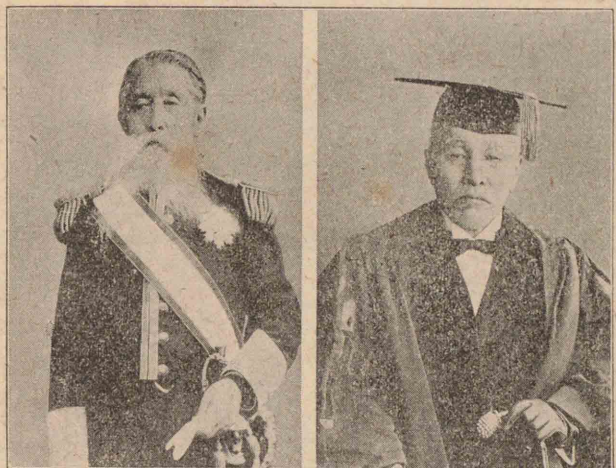


開院當時の議事堂

三權分立の政治體制の有利なる點を考へなさい。

政府と政黨との關係

裁判所構成法が公布されて、裁判所を區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院の四等とし、各判事、檢事が置かれた。かくて立法、行政の二權に對し、司法權も愈確立し、三權分立の體制が成立した。



板垣退助

大隈重信

内閣官制が十八年に布かれて以來、歴代の内閣は自由開進の兩政黨と屢衝突したが、その争は何れも憲政發達に對する、朝野の愛國の至情に基づくものであつた。されば外に對する日清戰役には、舉國一致して對抗し、戰勝を收めた。

政黨はその後、幾多の離合盛衰の變遷を経たが、三十一年に重信が憲政本黨を結成し、三十三年に博文が、

憲政有終の美を濟す所以につき、重要な條件について考察された。

政黨内閣の端緒

政黨と憲政

政友會を組織し、各その總裁となるに至つて、政黨政治は一段の進境を示した。また日露戰役にも、上下心から一致してよくその國難に當つたが、戰後政府は、政友會を基礎として經營に當り、ここに政黨内閣の端緒がつくられた。その後政黨の變遷はあつたが、政界の分野は、概ね二大政黨が對立し、政黨政治は漸く發達し、政黨に根據を置く議會政治の發達、責任内閣制の發達など、憲政發達の跡は目覺ましいものがある。

地方自治制の發達
立憲政治と自治制の發達

地方自治制は、憲政發達の基礎となるべきもので、十一年七月、政府は府、縣、會規則を制定し、十二年三月には、府、縣、會を開いて立憲政治の階梯たらしめた。やがて二十一年に地方自治制を確立し、市制、町村制が發布せられた。これにより市、町、村は一つの自治體となり、各、公選議員を以て市、會、町、村會を組織し、公選の市、町、村長及び市參事會を置き、行政の事務に當らしめた。ついて二十三年、府、縣制と郡制との

江戸時代に於ける自治制

江戸時代に於ける自治制運用の効果

自治制發達と憲政有終の美

發布があつて、地方自治制は整備して、代議制議會政治發達の基礎をなすに至つた。

我が國に於ける、地方自治制の運用は、既に江戸時代に幕府が庶民を治めるために、五人組制度を設けたのに端を發してゐる。そして五人組制度が、幕府または藩の政治機關と連絡がとられて、政治が行き亘つた。これがため各町村の間には、それぞれ固有の慣習と不文律とが既に形成されてゐて、町村の政治産業交通衛生教育などに至るまで自治の精神はよく存してゐた。これが明治時代となつて、新に憲政の布かれるに及んで、地方自治制の形式は、更に法制的に整へられた。されば自治制は、封建治下に行はれた形式體制と異なつて、御親政の下に於ける國民として、與へられた權利と義務とを國民がよく自覺し、理解して行動するところに意義が存してゐる。これを完全に擴充して憲政有終の美が始めて濟されるのである。

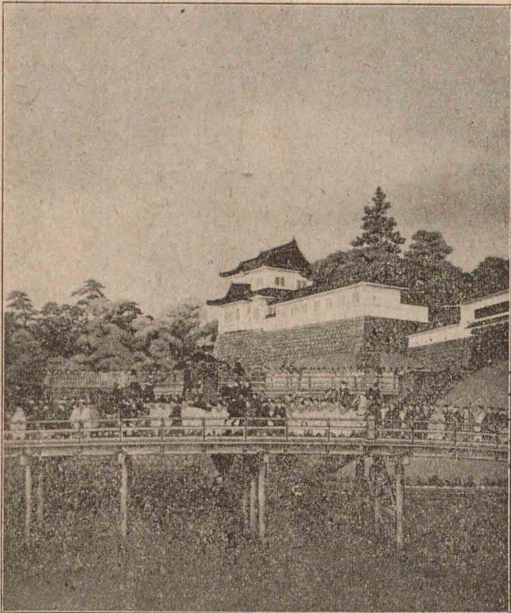
第七章 現代に於ける經濟文化の進展

現代に於ける我が國運の發展の因由

明治時代に於ける國民生活の發展

明治維新後の我が國運の發展を、ロシアのペートル大帝治下に於ける發展、プロシヤのドイツ統一前後より世界大戰前までに於ける發展と比較し、聖徳の浩大なることを考へられた。

明治維新後僅か數十年間に於ける、我が國際外交上國威の發展は、他方、政治制度の整備、經濟文化の發達と共に、眞に世界歴史上の驚異である。顧みればかかる發展は、正しく明治天皇の聖徳と、御獎勵と、



東京御著 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

更に皇室を戴く我が國民の、國家的國民的自覺に基づく、潑刺たる興國の意氣と活動とによつたのである。

維新以來の歴史を顧みるに、明治初年より十年頃までは、旺に西洋文化を攝

變動時代
 内省時代
 國民生活の擴大時代
 國民生活の國際的發展時代

明治維新と國家的國民的自覺
 國境確定並に隣邦修好
 ①王政復古と外交關係

取して國民生活が激變せる時代であり、十年後、二十三年頃までは、各方面に國民的國家的自覺が著しく、國民生活の内省の時代であつた。そして二十三年頃から、明治末年に至るまでは、國運の發展と、これに伴ひ、國民文化發達の旺盛となれる時代であつた。そして大正時代は、明治時代に發展せる我が外交文化思想などが、世界的に進展せる時代であつた。以下これ等の時代に於ける、國民生活を本とせる、經濟文化の發達を概觀することとする。

第一節 明治初年に於ける國民生活の變動

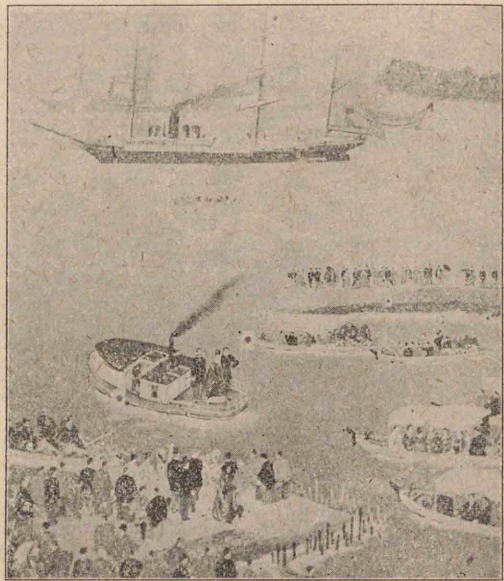
明治維新によつて武家政治が倒れ、天皇を中心とする君民一體の、國民固有の生活に復歸し、ここに國家的國民的自覺が興つた。王政復古の後、五箇條御誓文によつて、新政府は我が國是を明示し、ついで明治元年、各國公使に王政復古のことを報じ、開國の國是を公式に示された。そして三年に、政府はイギリス・フランス・プロシヤ・合

明治初年我が國多事の際、東洋諸國は何れも衰へ、歐米諸國も種々力を用ひらるに、東方に力を用ひられなかつた。事情が、我が國に有利であつたことを思へ。

駐劄公使の派遣
 岩倉大使一行の歐米視察

排外思想と外交事件

②清國との關係
 通商條約
 臺灣事件



岩倉大使歐米派遣 (明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

薄らぎ、外交も漸く順調に赴いた。

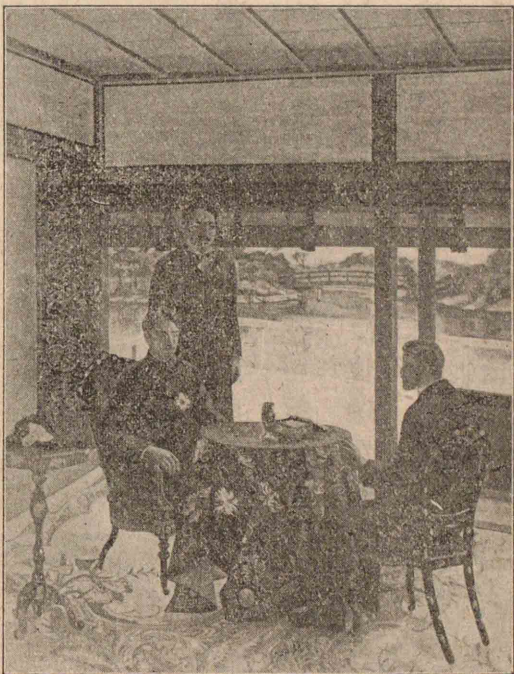
我が國は、隣好の誼を重んじて、先づ四年に、進んで清國と通商條約を締結した。然るに琉球の民六十餘人が、臺灣に漂着して、生蕃に殺害せられ、六年にも備中の漂民が劫掠された。これに對して、清國は責任を回避して、生蕃は化外の民であると答へたので、ここに征臺論

衆國に駐劄公使を派遣し、また四年には岩倉具視一行を歐米に派遣し、彼我の和親を加へ、條約改正の談判を兼ね、外國の文物制度を視察させた。かくて我が國に於ける攘夷排外の思想も、中央集權の確立するに及んで次第に

當時清國は永らく續いた内亂、長髮賊が恰度鎮壓された時であつたので、對外的に勢を恃んでゐたのに、議が容易に纏まらなかつた。イギリス公使ウエードの居中調停によつて清國もその非を覺るに至つた。

◎琉球・小笠原諸島の領有確定

府は、大久保利通をして北京に赴き、清國と談判せしめ、遂に清國に償金を出させ、將來の保障を條件として、征臺軍は凱旋した。
臺灣事件と關係して、我が政府は、琉球をして清國との關係を絶たしめ、我が屬領たることを明らかにし、やがて我が版圖とした。小笠原諸島の、我が領屬たることを明らかにしたのもこの頃である。



話對御のと軍將トシラグ (畫壁館畫念記德聖宮神治明)

が起つた。よつて七年に、西郷従道を都督として臺灣を征せしめ、これを平定した。然るに清國は俄に前議を翻してこれに異議を唱へ、我が撤兵を要求した。そこで政

◎日露境界の劃定

境界劃定の交渉

千島・樺太の交換と國境の確定

文治元年(1868) 九月 幕府が、日露境界の劃定を交渉した。千島と樺太の交換を決定した。

琉球問題 琉球は慶長年中、島津家久がこれを征討してから全くその隸屬となり、幕府に貢聘してゐながら、一面支那にも通聘し、兩屬の關係を持した。そして明治四年廢藩置縣の際には政府は琉球を鹿兒島縣所管に編入し、國王の入朝を促した。國王尙泰は、翌五年使を派遣して入朝せしめたので、朝廷では尙泰を琉球藩王とし、華族に列し、別に外務官を派して外交事務をとらしめた。かくて政府は、征臺に伴うて、清國との關係を絶たしめて、我が領屬たることを明らかにし、藩政の大改革をなし、十二年に琉球藩を廢して、沖繩縣を置き、尙泰を上京せしめた。清國はこれを喜ばず、我に抗議したが、偶合衆國前大統領グラントの來遊した時に、その調停を機として、琉球が我が版圖たるべきことを確實にした。

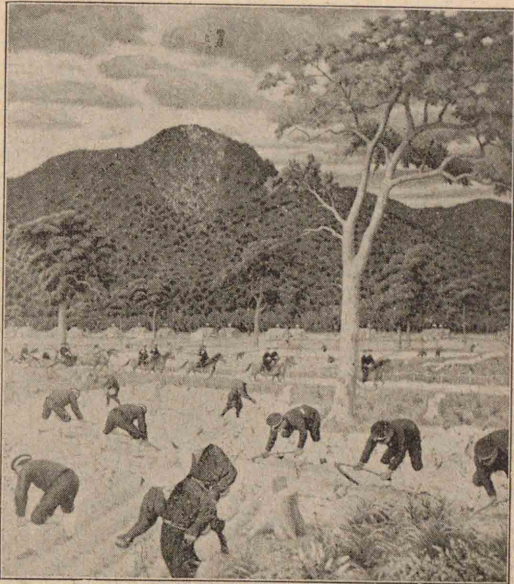
安政元年に、幕府が、ロシアと條約を結びし際には、千島は擇捉以南を我が國に屬し、得撫以北をロシアに屬し、樺太は彼我雜居の地として、境界を劃定しなかつた。その後明治初年に至るまで、屢、交渉を重ねて境界の劃立を議し、容易に纏まらなかつた。その後政府は、北海道の拓殖を進めるに及び、北方境域を劃定せんとし、八年に全權公使榎本武揚をして、ロシアに交渉せしめ、樺太全島をロシアに譲り、千島

當時朝鮮では國王李熙は尙幼少で、生父大院君(李昰應)が政を攝し、保守主義をとり極端な排外政策をとつてゐたので、我が國のみならず、佛・米等の諸國にも同じ態度をとつてゐた。

朝鮮との關係

朝鮮の無禮

征韓論盛に起る西郷隆盛等の主張



北海道巡幸屯田兵御覽
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

の國書の形式を破り、朝鮮を屬國視するものとなし、無體にも我が國書を斥けた。その後、政府は屢、使者を遣はし、その誤を解かんとしたが、不遜の態度を毫も改めなかつた。

ここに於て、征韓論が漸く朝野の間に起り、六年八月に、西郷隆盛は副島種臣等と強硬に征韓論を主張し、板垣退助、江藤新平等は、皆この

全島を我に收めて、多年の紛議が始めて決定した。

朝鮮へは明治元年三月、對馬藩主宗重正をして、王政復古の行はれたことを告げしめた。その時我が國書中、皇祖「皇上等の語を用ひてあつたので、朝鮮は江戸時代から

岩倉具視等の主張

征韓論者の退職

朝鮮の非禮

修好通商條約

征韓論の結果、論者が皆下野した。當時が、新政府の一つの危機であつたことを、當時の種々の形勢から考へられた。征韓論の尙收まらざるに、太政大臣三條實美は疾のため職を辭した。併し當時の世局に處し、實美を措いて拾收の適任者が無いので、明治天皇は特に宸翰を賜はつた。これによりよく時局多き想像されたい。

汝實美再三辭表
之趣全職掌對
至誠哀情出朕之
宥納然雖方今國
家多事際朕朕股
一日不可缺更汝親往
汝實美其之勉

明治天皇宸翰

說に賛同した。既にして九月に、かねて海外視察中であつた具視等が歸朝し、世界の大勢を説き、内治を専らにし、國力を充實すべきを主張して、兩派の議論が對抗した。その時に具視が、右大臣として輔弼の大任に當り、斷乎として征韓論を抑へたので、征韓論者は皆職を辭して下野した。

その後八年に、我が軍艦雲揚艦が朝鮮の西海岸を測量中、飲料水を江華島に求めようとすするや、その守備兵は不意に發砲したので、我が兵は、これに應戦して砲臺を陥れた。そこで政府は、嚴重に朝鮮に交渉して、その罪を謝認められ、我が國と、平等の權を保有することを明らかにし、元山、仁川

朝鮮の開國の機運

の二港を、貿易地として開くことを約した。その後朝鮮は、漸く開國の機運に向ひ、十三年に我が政府は、京城に公使館を設け、公使を駐劄せしめるに至つた。

外交方針の進歩と歐米文化の攝取

歐米文化の攝取と革新の機運

我が國と歐米諸國との交際するに及び、政府は、具視を大使として、歐米諸國に派遣して以來、我が國は旺に歐米先進國の文化を輸入して、内治の改良をはかつた。また數多の留學生が派遣せられ、官民の海外諸國を視察すること多きを加へた。そして我が文化を高めんとする、一般の機運と相須つて、西洋文物の攝取同化の勢はすさまじく、各種の制度、法律、教育、風俗などが、鋭意改善せられた。

制度の改善

●學制の頒布と教育の普及
●學制頒布とその時賜はつた勅諭

國運の發展の本は、國民の教育にあるので、政府は、教育の發展に力を致した。そこで明治五年、學制が頒布せられて勅諭を賜はり、一般に教育を普及し、國民は必ず就學せしめることとなつた。そして全國到る所に小學校が設けられ、男女六歳にして就學せしめる、義務教

國民の義務教育制度の變遷

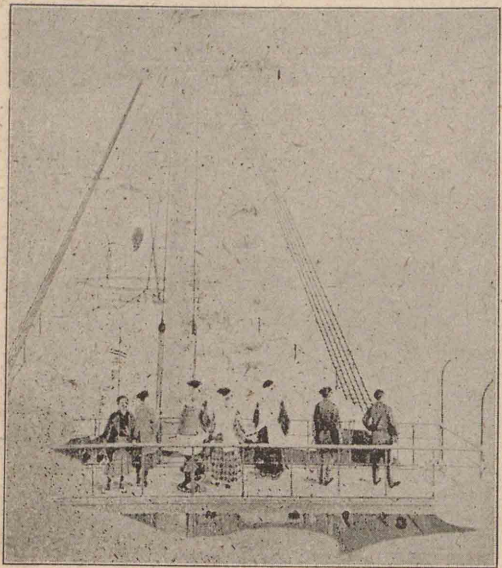
●徴兵令の制定

兵制改革の要

大村益次郎

山縣有明

育の制が立ち、十年頃には師範學校の制度も定まり、各府、縣に設立せられた。それから中學、専門學校等も、漸次に建てられた。武家政治が倒れたので、兵制の改革が先づ必要となつた。初め政府は、海軍にあつては、舊幕府の海軍を引繼いだすが、主としてオランダの制に鑑みたものであるが、陸軍にあつては、まだ各藩があつたから、兵制の實権は尙これに存してゐた。そこで大村益次郎は、夙に皇軍建設に關する案を建てたが、まだこれが實現を見なかつた。ついで山縣有朋は、歐米の軍制を視察して、陸軍はフランスに、海軍はイギリスに、その範をとつて



大坂行幸諸藩軍艦御覽
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

てゐた。そこで大村益次郎は、夙に皇軍建設に關する案を建てたが、まだこれが實現を見なかつた。ついで山縣有朋は、歐米の軍制を視察して、陸軍はフランスに、海軍はイギリスに、その範をとつて

徵兵令發布



軍人勅諭の賜下 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

軍人勅諭の賜下

歐米文物の採用と社會の面目一新
歐風の攝取

軍人に勅諭を下されて、我が軍隊の本質を述べ、且、軍人の心得五條を諭され、皇軍の體制と精神とは、共に我が國體に基づき、確固のものとなつた。またこの勅諭は、國民皆兵の制と關聯し、國民道德上より極めて意義ふかきものである。當時、人心を一新する必要上、進んで舊習を棄て、歐風を攝り、文明開

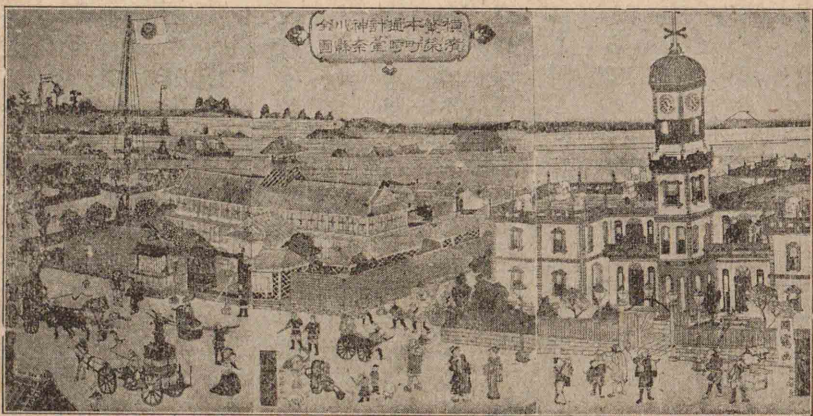
文明の進歩

歐風攝取による舊物打破と歐風の弊

化の聲が上下に叫ばれた。ために我が風俗習慣が改まり、文明の進歩發達は實に目ざましかつた。かくて歐風攝取による物質文明を尊重するの傾向は、舊物を打破する思想を生じ、封建時代の城郭などを破壊遺棄して顧みない風を起した。また更に進んでは我が固有の美術工藝品を輕蔑し、國民固有の風俗習慣を排斥して、歐風の萬能を信ずるが如き、誤まれる思想が滔々として勢をもつた。

社會の面目一新 明治四年に散髪並びに廢刀を許され、五年には従來の禮服であつた上下を廢

物質的進歩のため、東京上野忍ヶ岡の東照宮寛永寺の境内を開墾し、桑畑茶畑とし、日光廟をも破壊せんとしたが、木戸孝允の盡力で停めたものとこの時を記憶された



横濱築港本町通

明治初年時
代の人を今
日生存せし
めたるなら
如何に今昔
隔世の感を
もつて現代
を觀るか、
各種の點に
ついて想像
された。

新舊思想の
對立

して、西洋服装を採用し、文武官の大禮服通常服の制を定めた。また大陰曆を廢して太陽曆を用ひ、五年十二月三日を以て、新曆の六年一月一日とし、神武天皇即位の年をもつて紀元とし、紀元節を制定した。そして從來の十二刻を二十四時間に改め、祭日、祝日の制を立て、日曜を休日とした。その後九年には、士民に對し、佩刀が禁止された。かくして諸般の改革が盛に行はれ、風俗が改められた。

また一方物質文明の進歩も著しく、蒸汽船は帆船に代り、汽車、自轉車、人力車は馬駕籠に代つた。當時は汽車を陸上の蒸汽船の意で陸蒸汽といつた。また交通通信に關しても、郵便電信は飛脚、早飛脚に代り、また洋風建築が諸所に營まれて、漸く都市の偉觀を添へるに至り、さきに明治元年の建造にかかる、東京築地のホテル館の如きは、忽ちにして東京の新名所とせられた。またランプ(洋燈)、ガス燈は蠟燭行燈に代つたが、新文明の用具は多く西洋より舶載されたから、珍しきを舶來品と稱した。また普通には食せざりし、牛肉を食する風が盛となつたのも、歐風の攝取からであり、寫真も明治の初年から傳はつて錦繪に對抗し、これを壓倒するに至つた。

かくの如く維新以來、政府が政治上、社會上あまり急激なる改革をなせるに對し、これを悦ばないものも少くなかつた。かくて自己の

改新政治に
對する反動

政府に對する
不平と地方の
騷亂



西洋服の人、洋人のゲマン、武士の劍

意見が、政府で容れられないため憤るものもあり、士族の職を失つて窮乏し、舊制を慕ふ保守のものも出た。これ等の不平は、やがて征韓論に敗れて、官を辭し下野した西郷隆盛、江藤新平等に率ゐられて、諸方に内亂を起すに至る機運を醸成した。併しこれ等は何れも早く鎮壓せられて、新政府の基礎が次第に固まつた。

第二節 國民的自覺と國運の發達

政治思想の輸入と帝國憲法の制定

歐米政治思想の輸入

歐米文物と伴ひ、各種の政治思想が輸入せられた。そして或はイギリスの憲法主義に基づく自由思想、或はフランス、合衆國の自由民權の思想などが、議會開設の輿論をあふつた。これがために、我が政

我が國情に即せる内政の發達

經濟界の進歩

農業・工業の發達



啓幸行會覽博業勸國內 (畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

治思想の發達に、貢獻したところもあるが、歐米の文化採用に急なる餘り、多くは我が國體・國情に對する自覺を缺いてゐた。されども政府の周到なる指導と畫策と、國民的自覺とに俟つて、五箇條御誓文の趣旨に基づき、我が國情に即した輿論政治を、健全に發達せしめ、内治は着々として改善せられた。

立憲政治の準備が進むと、これに伴うて産業・貿易も興つた。政府は、明治十年内國勸業博覽會を開いたが、また各府縣でも盛に品評會・共進會などが開かれ、政府の獎勵によつて農業・工業は旺となつた。また陸上に於ては、鐵

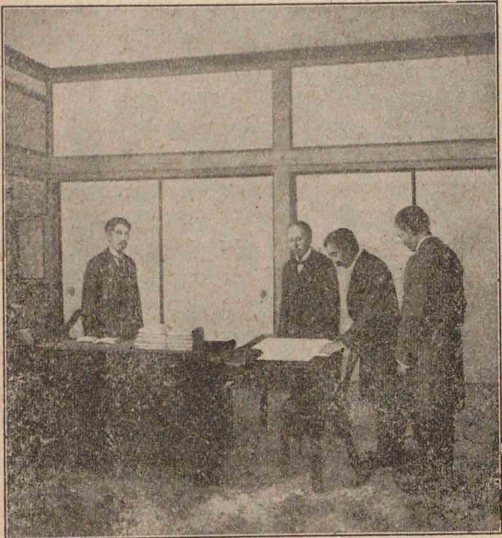
交通・通信の發達

運輸・通商の發達

金融の發達

紙幣發行

道網を初とし、各種の交通・通信機關が發達し、海上に於ては、日本郵船大阪商船などの諸會社が起つて、運輸が便利となつた。これにつれて、商業も興り、外國との通商貿易も次第に開けて行つた。明治初年、政府は財政及び金融の急に資するため、太政官札を發行した。その後明治五年には、各地に國立銀行を設けしめ、これに夥し



定治御度制換兌 (畫壁館畫繪念記德聖宮神治明)

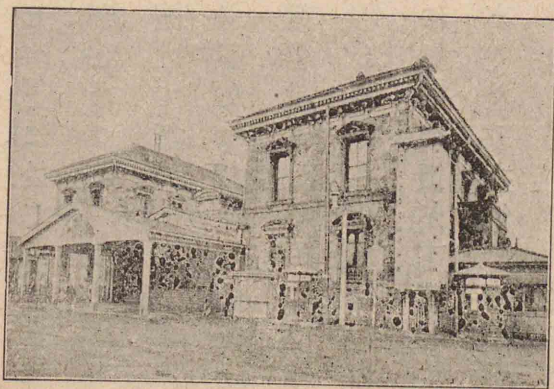
き紙幣を發行させた。これのために、紙幣の價が下落して物價が高くなり、次第にその弊があらはれた。そこで政府は十五年に、日本銀行を創立し、兌換の制を立て、紙幣を正貨に引きかへる法をとり、日本銀行にこれが特權を與へるに至つて、我

兌換制度の確立

が國の兌換制度は確立した。これがため、經濟界は大いに安定し、商工業の發達を促進した。

通信交通機關の發達 郵便は初めて明治四年に、東海道に實施せられ、翌年既に全國に普及され、十年までには制度も改善され、萬國郵便聯合に加入した。電信は明治三年に開始され、間もなく陸上海底共に敷設せられ、十二年に至つて大いに設備も整ひ、萬國電信條約に加盟し、日露戰役には、無線電信は大いに軍用に役立ち、戰後は一般にも利用せられるに至つた。また電話は、二十三年に、東京横濱間に開通したのを初として、全國各都市に架設せられるに至り、更に無線電話も發明されて以來、次第に實用に供せられた。後大正十三年に東京放送局が設けられて、ラジオは重要な國民文化普及の機關となつた。

鐵道は、明治五年政府によつて、東京横濱間十七哩餘間に敷設せられたるを初とし、次第に發達し、二十二年には東海道線が開通し、日清戰役の頃には、東京青森間、神戸廣島間などの、重要幹線はすべて開通せ



新橋駅

られた。これと共に私設鐵道も各地に起り、三十九年には官私鐵道總延長五千哩に達し、その後大正末年には一萬哩を超えた。その間に機關車の速力の増加、線路の改良等によつて輸送力は増大し、車室その他の設備も完備して、眞に陸上交通機關として最も重要なものとなつた。既に政府は、三十九年以後、鐵道の國有主義をとり、國家が鐵道交通の統制をとることとなつた。

電車は二十八年に京都に敷設せられて後、全國主要都市に普及し、水力電氣の發展と共に東京大阪等の大都市の郊外電車も發達した。その後大正末年には一千哩の延長に達し、鐵道の電化も年々行はれるに至つた。

この他の交通機關には、明治二年に人力車が發明され、各地に流行を極め、日清戰役の前後には二十萬臺に達し、これと共に馬車も起つた。されど、近時自動車の發達によりこれ等は、何れも壓倒せられた。

海上の運輸交通は、當初帆船のみ用ひられ、漸く汽船が用ひられるに至つても、明治初年には全く外國船に頼つてゐた。然るに岩崎彌太郎が明治四年に汽船會社三菱會社を創立するに至り、漸次外國船を近海から驅逐し、更に政府の補助を受けて、その發展は著しく、忽ち上海航路を開き、外國汽船と競争した。ついで政府の保護をうけて共同運輸會社が起つたが、十八年に三菱會社と合併した。これが日本郵船會社の起源である。

またこの前後に、大阪商船、東洋汽船の二大會社も創立され、何れも政府の補助を得て、遠洋航路を世界各地に開き、四十年には汽船總噸數は百萬噸を超えるに至つた。

信教の自由
王政復古と
神道

廢佛棄釋と
佛敎の覺醒

維新の政治は、開國進取を主義としたが、王政復古に伴ひ、復古主義が旺であつた。そして上古の祭政一致を理想とし、神道が勃興して、廢佛棄釋の論が起つた。併しこれがため、江戸時代を通じ安逸を貪つて來た僧侶も、始めて自覺を起し、大いに佛敎の興隆に盡くした。そして佛敎の各宗派は、相寄つて同盟會を組織し、それぞれ教育を盛にし、宗學興隆の端を開いた。

キリスト教は、維新の初まで禁ぜられて來たが、條約改正問題と關聯し、漸く布敎が認められるに至り、諸外國の新舊各教會は、何れも布敎に努めた。概して新敎は合衆國、舊敎はフランスが勢力を占めた。新敎では、新島襄が早く合衆國に渡り、キリスト教を修めて歸朝し、京都に同志社を建て、教育並びに傳道に努めた。

キリスト教
の傳道

キリスト教の傳道布敎につき、我が國民生活との關係、特に我が國に於ける宗敎と教育との問題につき、種々の衝突をなし來つたことを思ひ、キリスト敎の日本の生活の立場から重要な意義をさし、とられた

キリスト教
の日本化傾
向起る

教育の振興

かくてキリスト教は、時代の風潮に乘じ、一般の人氣に投じて盛となつたが、我が國體と相容れぬ點があり、偶、國粹尊重の思想が勃興するに當り、激しく攻撃をうけた。されど憲法によつて、信教の自由が認められてから、勢力も加はつたが、西洋崇拜熱の衰へるに従ひ、その勢も衰へた。そして從來に比して次第にその宗風が日本化し、日本人經營の教會も出來て、健全な發達を見るに至つた。

學制が布かれて後、普通教育が普及すると共に、専門教育も進み、帝國大學並びに各種の専門學校が設けられた。かくて高等教育の機關が漸次備はり、延いて私學の興隆、女子教育の發達なども漸次著しくなつた。

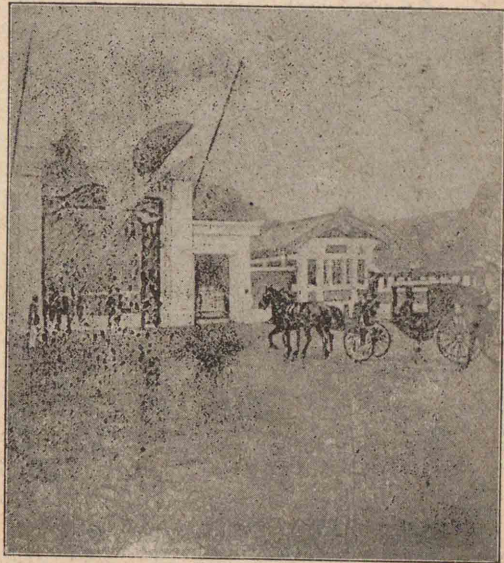
維新後の教育主義に就いては、或は國學に、或は儒學の精神によらんとするものがあつたが、政府が自然科學を盛にし、物質文明の發達をば意圖してゐたため、洋學が萬能視せられた傾があつた。また明

維新後の教
育主義の推
移

洋學萬能

自由民權主義

國家主義



東京帝國大學行幸
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

治五年頃から、自由民權の思想が教育界に影響し、自由主義が尊重せられ、道德教育が著しく輕視された。その後十八年頃には、ドイツの思潮によつて國家主義の教育が極端に唱へられ、その他の教育思潮も輸入された。

高等教育の機關 高等教育は、初に舊幕府の昌平校を大學校として、教育行政の府とし、開成所で洋學を教へ、大學南校と稱し、また醫學所で醫學を授け、大學東校と稱した。その後明治四年には、大學校を廢して文部省を設け、東校と南校とを合はせて、法理醫文の綜合大學とした。これが東京帝國大學の起源である。その後帝國大學は京都を始め、東北九州、北海道及び京城臺北に設けられ、これに伴うて高等學校及び専門學校も續建設せられた。更に大正七年に、公私立の大學高等學校が許され、單科大學が認めら

れるに至るや、高等教育の機關は急にその數を増した。

まだ官立學校の普及せざりし、明治初年の頃、慶應義塾同人、社中村正直創立、攻玉舎(近藤眞琴創立)等の私塾で、英學、漢學、數學等が授けられた。就中慶應義塾は、福澤諭吉の創立するところで、明治十五年大隈重信の創立にかかる東京専門學校(早稻田大學)と並び、その規模も最も大に、且、いづれも獨特の學風を有し、多くの人材を出した。佛教、キリスト教各宗派教會の經營する大學、専門學校も漸次建設されて、我が國民教育發達、文化向上に大いに貢獻するところがあつた。



舊帝國大學本部

かくて教育の設備は漸く整ひ、教育は普及したが、動もすれば歐米文化に心酔して、我が國固有の道德を輕んずる傾向があり、教育の根本方針が立たず、従つて我が國民道德の根本に動搖を來すの虞があ

教育勅語の御下賜と國民道德の確立

教育勅語の御精神
自由民権
忠孝
教育勅語の御精神

つた。ここに於て明治二十三年十月三十日、教育勅語が下賜せられ、我等が祖先以來の傳統的精神を以て、國民精神の根本とし、教育の淵源とすべきことを御諭しになつた。これ實に我が國民道德の根本が確立したものであつて、教育勅語と帝國憲法とは、共に我が國民の永久に準據し格守すべきものである。

學術の發達

歐米學術の流行



侍講進講 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

從來學問の中心となつてゐた儒學は、漸く衰へて、歐米學術の流行は時代の風潮となつた。イギリス、アメリカ學の福澤諭吉、フランス學の中江兆民、ドイツ學の加藤弘之等は、何れも斯界

我が國の自然科學の發達は實に目ざましく、僅々數十年間に於て、世界的大學者を出し、大發見をなした。科學の獨立が叫ばれるまでに至つた。これが發達に努力した有名な學者をあげて見なさい。

自然科學の發達

人文科學の發達とその傾向

歐米學術研究法の應用

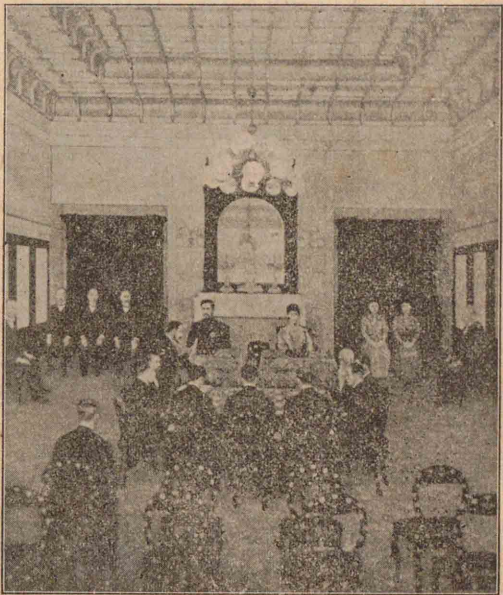
文學の發達

傳統文學と歐米文明

坪内逍遙の小説眞髓

の先驅者であつた。これと共に、自然科學の發達も漸く興つて來た。また一方、法律、政治、經濟、哲學等の、人文諸科學も頗る盛になつたが、初にイギリス、フランス、後にドイツの學說、研究の輸入紹介が主で、ただ獨特の研究に乏しかつた。併し新なる歐米學術研究法によつて、各方面の研究が進められた。文學も時代思潮の影響をうけて、明治初年江戸時代からの文學者假名垣魯文は、『西洋膝栗毛』を著し、當時の社會風俗の急變した状態を、輕妙の筆致をもつて描いて好評を博し、また明治十五年前後、自由民權の政論の盛なるに當り、矢野龍溪の『經國美談』、末廣鐵腸の『雪中梅』、花間鶯等の政治小説が流行した。これ等は何れも舊い文學の形式に拘へられてゐて、文學的價値は少かつたが、十八年に坪内逍遙が『小説眞髓』を著し、更に『當世書生氣質』を著して寫實主義を唱道し、心理的觀察と解剖的描寫とが企てられ、從來の勸善懲惡の形式を排し

國粹思想の發達の影響



歌御會始 (明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

た。また文學を通じて、小泉八雲(ラフカヂオハーン)・モラエス等の如き、我が傳説や國情を西洋に紹介するものもあつた。

明治初年の極端な歐化主義に對して、熱烈な國粹

和歌俳句

論が勃興したが、これに伴うて國史國文の研究が旺に興り、國學が勃興した。和歌にあつては落合直文、俳句にあつては正岡子規が最も著はれ、やがてそれ等の革新運動が起つた。

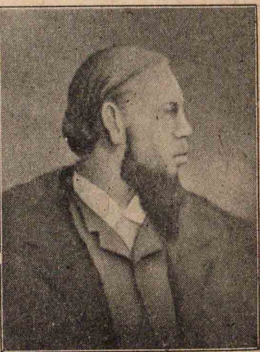
美術工藝 舊物打破と古美術

維新の初には、歐米模倣と舊物打破の風が一世を風靡したから、江戸時代に榮えた狩野派・住吉派等の繪畫を始め、何れも衰へ果てて、僅

明治維新に於ける、教育・學術・文學・美術・工藝等に至る迄その發達は、何れも國民生活の向上進運に存することを自覺された。偉人が時代をつくり、時代が偉人をつくる相関の意義を明らかにされた。

古美術の觀賞の空氣

かに、その命脈を繋ぐに過ぎなかつた。然るに維新後、社會人心も平和になつて、古美術の鑑賞も興り、明治十年頃から博覽會・共進會などが催されて、大いに美術工藝發達の機運が促された。當時合衆國人フェノロサ、ドイツ人ワグネル、イタ



フェノロサ

フェノロサの刺戟

岡倉覺三等の國粹美術の尊重

狩野芳崖 橋本雅邦

リヤ人キョソネ等は、しきりに我が古美術を推賞し、國民的藝術復興の要を説き、大なる刺戟を上下に與へた。これに加へて、外國の美術並びにその教育を視察して歸朝した、岡倉覺三・濱尾新等も、大いに我が國粹美術の尊重すべきことを説き、二十二年に東京美術學校が開かれ、専ら固有の美術教育が奨励された。既に時勢に壓せられ、苦辛慘澹して僅かに日本畫の傳統を維持し、更にまた洋畫の粹をとつて、新興の畫壇に雄飛したのは、狩野芳崖や橋本雅邦等であつて、何れも狩野派の流を汲んだものである。

工藝美術の
進歩

美術の進歩と共に、工藝美術である窯工、金工、漆工等も、非常に進歩した。就中陶磁器の製作に至つては、明治初年以來、内外の博覽會に出品して、嘖々たる名聲を博した。これ等のものは、何れも廣く歐米

の趣味を研究して、新味ある意匠を加へ、有田、瀬戸、九谷等も、傳統的作風を改め、美術の改良進歩に努め、七寶燒の如きは、殆ど完成したものであつた。

歐米文化攝取の風が旺になる一方、國粹保存の風も興り、維新當時歌舞伎も一時衰へたが、その後九代目團十郎と、五代目菊五郎とは、共に斯道復興のため大いに努力して、歌舞伎を復興した。また新に興れる西洋劇、並びに新劇も歌舞伎と



座伎舞歌「帳進勸」

國粹保存の
思想と固有
の音楽及び
娛樂
歌舞伎劇

新劇

傳統的演藝

西洋音樂の
發達と普及

相並んで發達するに至つた。歌舞伎と共に、別に江戸時代に發達した歌舞、音楽、能樂なども、また依然として行はれ、西洋音樂の流行に對し、傳統的演藝として、特殊の立場をもつてゐる。西洋音樂は、明治初年早くも陸海軍音樂隊に採用され、小學校の教課に入れられて漸く普及し、新に「君ヶ代」が國歌に制定せられた。明治二十年、東京音樂學校が設立されて、洋樂を授けられ、漸次音樂界を指導するに至つた。

第三節 國威の發展と文化興隆

條約改正
國民的自
覺と條約
改正の運
動

王政復古し、中央集權の政治が完成し、憲法發布を見んとするや、我が國民の自覺は昂まり、早くも條約改正の運動が起り上下の輿論となつた。

關稅自主權
の喪失

安政假條約は、幕府に國際法規に明らかなるものが無かつたので、すべてハリスの草案に據つたから、我が國の不利益なことが尠くな

治外法權

かつた。就中關稅自主權の喪失と、治外法權とは、その主なるものであつた。そのために貿易上、我が國の蒙る不利益は莫大であり、國家の體面を穢すことが多かつた。

さきに岩倉具視が、歐米巡視の際にもこの問題を交渉したが、諸外國に省みられなかつた。その後歴代の政府は、熱心に條約改正を達

●條約改正の交渉の失敗
條約改正のための努力

井上馨の改正案



條約改正會議
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

成するため努力したが外國の政府の反對と、我が國輿論の強硬なるために、その實現は困難であつた。

しかるに外務卿井上馨は、法權の撤廢をなさんとして、條約改正案を具し、各國と商議を重ね、將に成功せんとしたが、その

大隈重信の改正案

條約改正の困難な理由

法律の改正と法典の編纂
法律改正

内容が外に洩れ、輿論の反對に遇つてこれを中止し、その職を辭した。かくて二十一年に、大隈重信が外務大臣となるや、さらに條約改正のことに當り、各國別談判の方法によつて、概ね列國の諒解を得て將に成立しようとしたが、朝野の反對が甚だしく、つひに刺客のために傷つけられた。かくて政府もまた、改正のことを一時中止するに至つた。



井上馨

かくの如く、條約改正の困難であつたのは、主として我が國內の法典の不備に伴ひ、我が國情に對し列國が不安を懷いたのと、自國の利益を損するを、國民が好まなかつたからであつた。政府は早く法典の改正に著手し、明治三年新律綱領が編纂され、特に詔により、江戸時代に於ける峻烈なる刑を廢し、人道上寛恕の意を

江藤新平の改定律例

新刑法

體し、成るべく輕減に従ふを旨とした。その後江藤新平が司法卿となり、ヨーロッパ諸國の法律を參酌して、改定律例を撰定した。それからフランス人ボアソナードの助言を得て、政府は更に、新刑法の編纂に著手し、これを十三年に發布した。

Hossouard

諸法典の編纂と憲法發布

政府は、條約改正並びに帝國議會の開會に先だち、諸種の法典編纂をなさんとして、法典取調局を置いた。かくて刑法その他各種の法典が、年を追うて編纂され、且、憲法が發布されて立憲政治が確立したので、我が國情も、漸く列國に理解せられるに至つて、條約改正の交渉は著しく容易となつた。

陸奥宗光の努力と條約改正



陸奥宗光

されば二十五年、陸奥宗光が新に外務大臣となり、多年の宿題たりし、條約改正の議を解決せんと努力した。宗光は、先づ通商航海條約について、イギリスと商

我が國際的地位の向上と條約改正の機運

議し、その同意を得て、二十七年七月調印を了した。やがて日清戰役が開始されて、勝利を得るに及び、我が國に對し、列國の信望が大いに昂まり、條約改正の機運は一層促進され、合衆國・イタリヤ・ロシヤ・ドイツ・フランス等の順序で、何れも改正條約に調印し、三十二年から實施せられるに至つた。

對等の條約の締結

國際上對等の地位

かくて改訂せられた通商條約の多くは、四十四年まで存續期間を有したから、政府は四十三年に、先づイギリスと交渉し、關稅の相互的協定を定めた、對等條約を締結した。それから他の列國とも、條約を新に結び、舊條約の不備に基づく、我が不利な點は全く除かれることとなつた。かくて我が國は、始めて歐米諸國と、對等の地位を占めるに至つた。

法典の整備と内政の確立

條約改正の交渉に動機を得て諸法典の編纂が早く進められた。それで二十三年に、裁判所構成法・民法・民事訴訟法・刑事訴訟法・商法な

法典の國民生活化

極東平和保持と我が國威の發揚
●日清戦役と三國干渉



ドーナソアボ



井上毅

だが漸次發布された。その中民法、商法は、條規修正の要があつて施行を延期し、法典調査會を設けて、更に審議修正の上、民法は三十一年より、商法はその翌年より施行した。また刑法は實施後も、尙改正の必要を認めて、長い間研究を重ね、四十年に改訂を加へた。そして次第に、我が國情、國民性に合致した法典が完成し、内政上の整備と須つて、國家の威容を加へた。

朝鮮と、修好通商の條約を締結した後、我が國は、朝鮮に對し、銳意隣邦の好を盡くし、これが開發に努力したが、國內には、我が國に依頼して、開明に導かんとする開國派と、守舊派とがあつて相争ひ、十五年の

事大黨と獨立黨

天津條約

朝鮮東學黨の亂
朝鮮に於ける日清勢力の衝突
戦役の勃發

事變となつた。清國は、我が國が朝鮮を獨立國として認むるのを喜ばず、依然屬邦視した。

かくて朝鮮には、事大獨立兩黨が、互に政權の争に端を發して、十七年の變が起り、我が國は清國と對立の立場に立つた。そこで伊藤博文を、特命全權大使として清國に派し、李鴻章と天津に會して天津條約を結び、日清兩國は、何れも朝鮮の駐兵を撤し、更に出兵の必要あれば、互に通知すべきを約した。

二十七年に、朝鮮では事大黨が政權を得てから、清國の勢力を恃み、暴政が多かつたのに加へて、諸外國の勢力も日に進展した。これを憤つて、外教排斥と東學振興を名として、東學黨の亂が勃發した。この亂の善後措置に關し、我が國は清國と共に、朝鮮の弊政を改革せんとせるに、清國は却つて海陸の大兵を送り、我が國を威壓せんとした。ここに於て我が國は、朝鮮の獨立擁護と東洋平和のため、清國と開戦

日清戦役の原因につき、且、開戦前の我が支那の我が支那の戦不能と考へた程不安と、これに鑑み、我が國民精神の發露を思はれたい。

清口

日清戦役後の我が國際環境

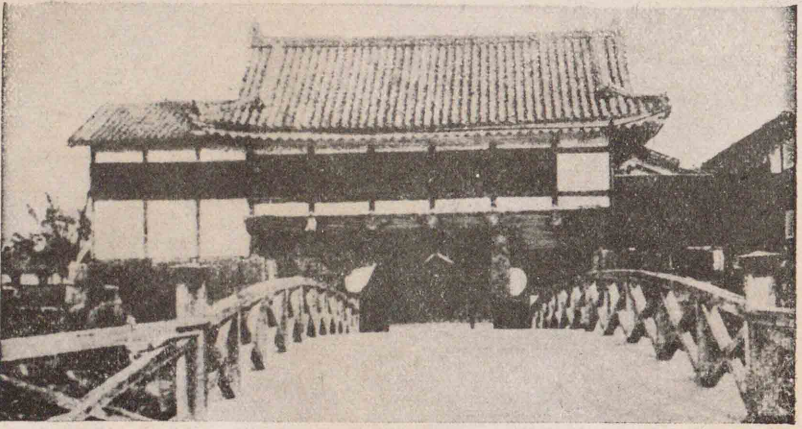
下關係約
三國干涉と我が國民の憤激



下關係和談判
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

に已むなく遼東半島を清國に還附し、三千萬兩の代償金を收めた。この屈辱に對し、臥薪嘗膽は國民上下の輿論となり、銳意國力の進展に努めた。日清戦役前より、諸列強の帝國主義の歩調は、漸く極東に對し發展し來り、既に三國干涉となつて現れた。そして戦後清國の衰微甚し

した。戦争には、我が國は連戦連勝して、二十八年四月、清國と下關係約を結んで和睦した。然るにこの條約に對し、ロシヤ・フランス・ドイツの三國が干涉したので、我が國は戦後の疲弊等に鑑み、イギリス・合衆國の態度に徴し、遂



上圖 廣島大本營軍務親裁 (明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)
下圖 廣島大本營正門



圖の庄母大尋使魯國安丁内閣學務

歐米列強の帝國主義

施政綱領

日露戰役と我が國際的地位の向上

鮮經略の野心

ロシアの朝鮮經略の野心

ロシアの滿洲侵略の意圖と極東不安
旅順大連の租借
東清鐵道

日清・日露戰役を通過するに當り、我が國情から實に興亡危急の非常時であつた。この國難を打開したる所以を自覺させたい。

きに乗じ、ロシアの極東侵略は、一層活氣を呈して來たので、アジアを舞臺とする、イギリス・ロシア對抗の形勢は、極東にも齎らされた。

日清戰役後、我が國の朝鮮に於ける優越權は認められ、銳意内政の改革に當つたが、ロシアはこれに反對し、あまつさへ、韓國に迫つて馬山浦の租借を強要し、朝鮮侵略の歩を進めんとした。

三國干涉後、ロシアは清國と約して、シベリヤ鐵道を滿洲に延長し、鑛山を採掘し、ついで旅順・大連一帶の地を租借し、東清鐵道を敷いて、シベリヤ鐵道と連絡した。

偶、三十三年に北清事變が起るや、ロシアはこの事變を機として、鐵



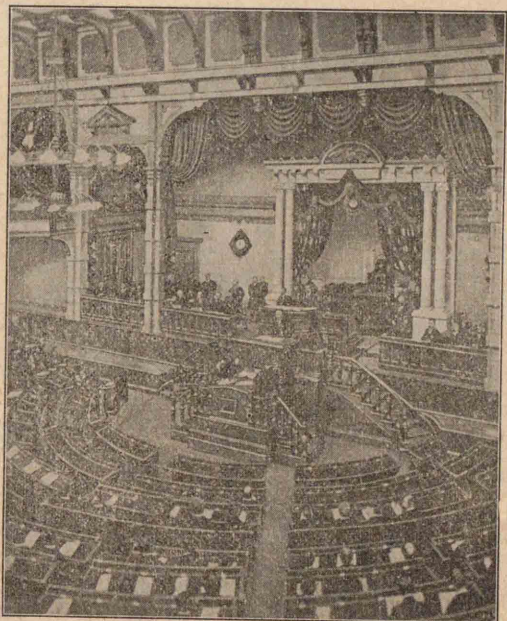
圖 禍 黃

よに匠意の自分帝ツイド頃の役戰清日は圖本
るれらへ傳とのもたつ贈に帝ヤシロせか畫てつ

北清事變を
機會とする
ロシアの滿
洲出兵
滿洲占領
日英同盟の
締結

我が國は
屢々ロシア
に交渉して
清・韓二國
の獨立と、
領土の保全
を尊重し、
兩國に於け
る商工業に
關し機會均
等を保ち、
韓國に於け
る我が優越
權と、滿洲
に於けるロ
シアの鐵道
經營上の特
殊の地位を
相互に認め
、兩國和
親の基礎と
なさんと諮
りしが、ロ
シアは何等
反省しな
かつた。
第一回日英
同盟の規定
は、
(一)清韓二
國の領土
保全
(二)日英兩
國の極東
に於ける

ロシアの露
佛同盟極東
適用宣言と
滿洲戰備

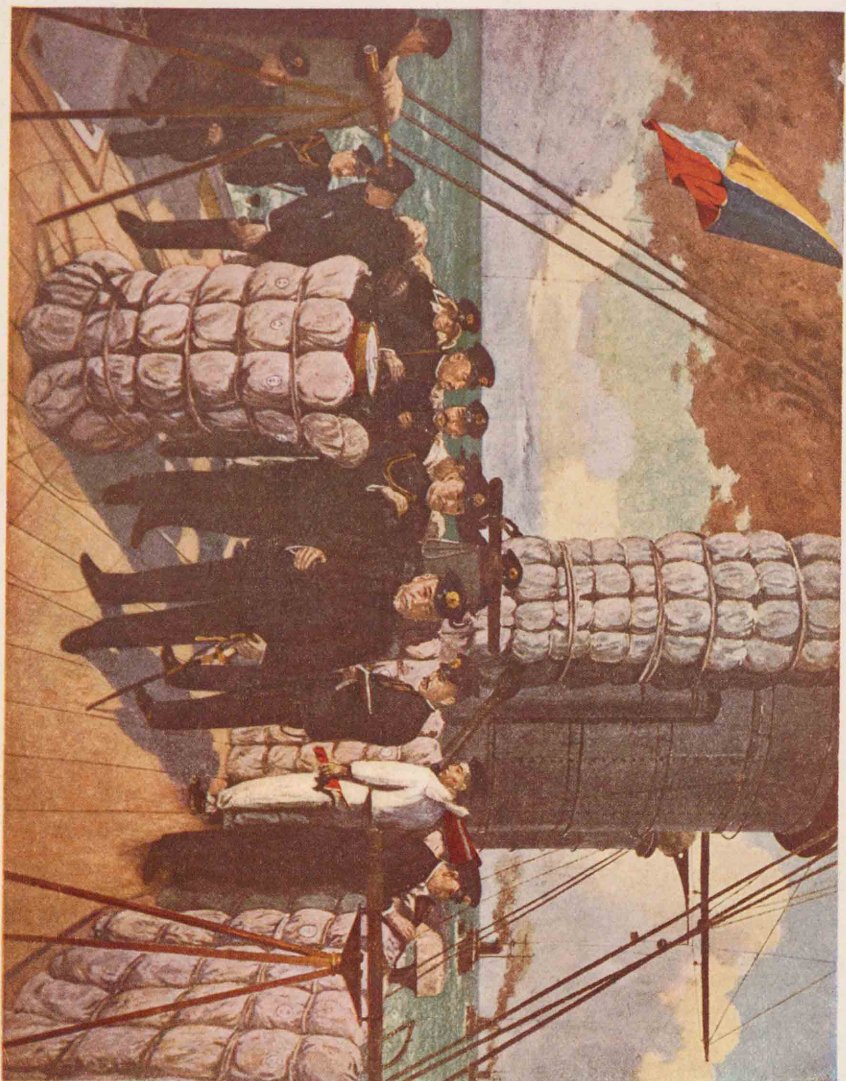


日英同盟
(明治神宮聖德記念館壁畫)

道守備を名とし、兵を滿洲に駐め、これを占領せんとした。我が國は尙東洋平和のため、ロシアと協議したが、誠意を示さなかつた。

ロシアの侵略により、東洋の平和は著しく脅かされて來たので、我が國は、共に最も痛切に利害關係を感じるイギリスと協同して、對東洋策を講ずる必要に迫られた。そこで我が國は、三十五年一月、第一回の日英同盟條約を締結した。

然るにロシアは日英同盟に對し、露佛同盟が極東にまで、その効力の及ぶべきことを宣言して、益々陸海軍を極東に増派し、旅順の要塞を堅固にして滿洲の戰備を



三笠艦の上の元帥

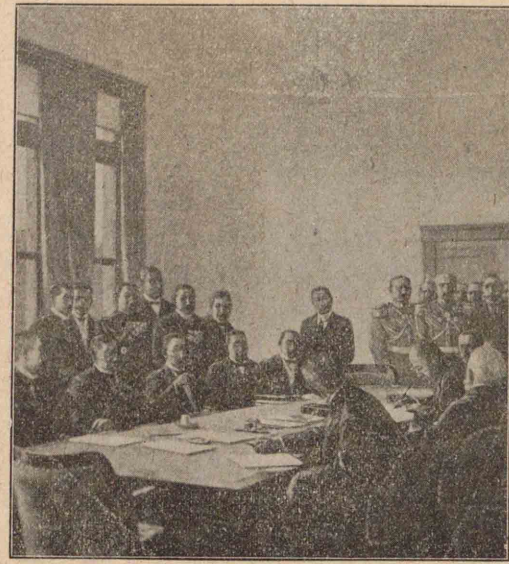
政治上經濟上の利益の確保
 (三)蓋し兩國の既得の權益が他國に奪われ交戦をなす場合、他は厳正中立を守り、若し第三國が敵國を助けた場合には協同戦闘をなす
 (四)効力期間は五箇年であつた。

日露戦役

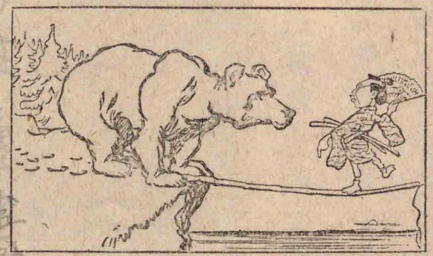
合衆國大統領
 ヴェルトの
 講和提議
 ポーツマス
 條約

滿洲に關する條約並びに附屬協定

治めた。そこで我が國も、國境上の不安を除き、且、極東平和確立の大義のため、遂にロシヤと開戦するに至つた。開戦以來、我が軍は海陸に連戦連勝し、日本海大海戦に大勝を博して、戦勝を決定的ならしめた。この時に際して、合衆國大



ボーツマス講和談判
 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)



我が國が最後にシロヤを通過後、時つた新聞の漫畫

統領
 ルーズヴェルト
 Roosevelt
 の調停仲裁によつて、三十八年九月に、我が國はロシヤとポーツマス條約を結んだ。この條約中、清國に關係する條項につき、更に滿洲に關する條約並びに附屬協定

日露戦役當時、合衆國大統領ルーズベルトが、我が遺米特使金子堅太郎とハルビンで大學の級友であつた關係から種々の便宜を與へたことに關し、多くの外交秘話があることを記憶されたい。

日露戦役結果

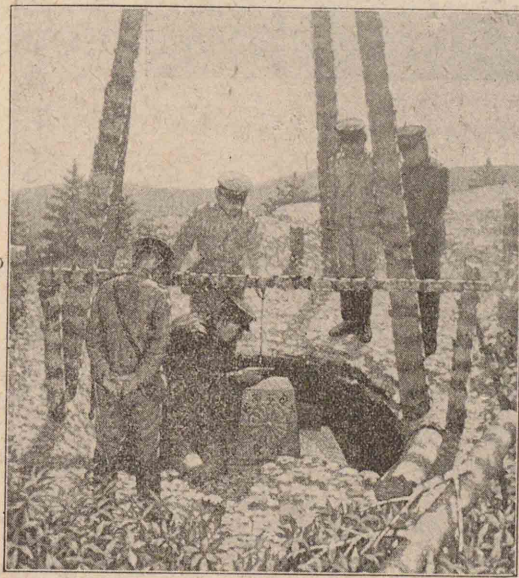
國際的地位の向上
アジア諸國の興奮

西洋諸國民の感情

戦役後の國際情勢

を、清國と締結して、滿洲に於ける我が利益、並びに權利を認めしめた。かくてこの戦役によつて、我が國は遂に世界列強の班に入り、極東平和維持の鍵を握り、列強をして極東領土分割の勢を抑制した。併しこの戦勝の結果は、歐米の間に、我が國勢の興隆を恐れて、或は移民を排斥し、或は黃禍説を唱へて、陰に我を抑へんとするものが、出て、列強の我が國に對する態度も一變した。また我が戦勝によりアジア諸民族にも漸く自覺を與へ、諸民族擡頭の機運をつくつた。

日露戦役中、我が國は韓國の保護に當り、十分信頼せしめて、韓國が



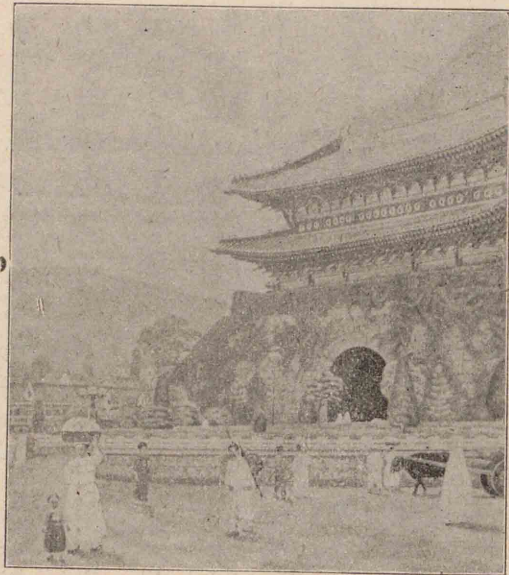
樺太國境劃定 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

●韓國併合

保護國

統監

韓國併合



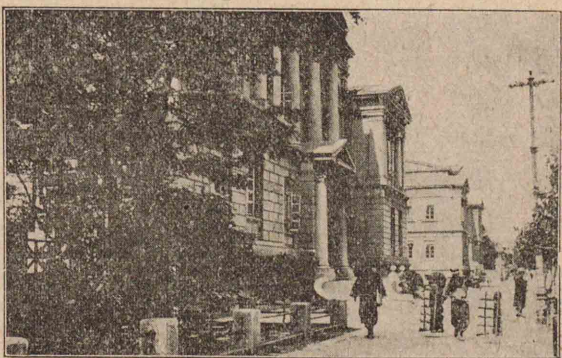
日韓融和 (明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

ロシアと協定した、一切の條約を破棄せしめた。そしてポーツマス條約の締結後、我が國は更めて韓國と新協約を結び、韓國を保護國とし、その外交權を收め、統監府を京城に置き、伊藤博文をこれに任じた。その後四十年に更に韓國と約し、統監はその内政指導にも當ることとなつた。

韓國は、永い間の弊政に禍され、一朝にして改革の實を擧ぐるに難く、その治安の維持は極めて困難であつたので、韓國皇帝は民衆の幸福を増進し、且、東洋永遠の平和を期するため、一切の統治權を我が國に讓與した。そこで四十三年に新に條約を結び、韓國を我が國に併

合し、改めて朝鮮と稱し、總督府を設置して政務を總轄せしめ、舊の韓國皇帝並びに世子は、我が皇族としての禮遇を受けられることとなつた。

また日露戦役後、樺太南半は我が有に歸し、樺太廳を設け、これが開拓に努め、内外人の移住を奨励し、産業の振興を圖ることになつた。また我が租借地となつた關東州には、初め總督府を置いたが、後都督府となして民政に當らしめ、關東州の經營と取締に任せしめた。明治四十年に、政府は南滿洲鐵道株式會社を起し、滿洲の鐵道の運輸、撫順、煙臺その他の鑛業の經營と、各種の事業を起して、滿洲の文化と經濟の開發に努めた。また關東州並びに南滿洲鐵道沿線附屬地の警備のため、關東軍司令官



南滿洲鐵道株式會社本社

日露戦後滿洲に於ける荒蕪を化して美田となし、滿洲文明開發に關し、我が國がいかん努力し、貢獻してきたかを想へ。そして滿洲問題に對する我が正當なる主張を理解された

樺太經營

關東州及び滿洲經營
關東都督

南滿洲鐵道株式會社

日英同盟の改訂

日露協商
日佛協商
日米交渉

極東平和の維持の精神
合衆國の滿洲鐵道の國際管理案

日露第二回協商

を置き、守備隊を統べしめた。

日露戦役中、日英同盟の效果大なりしに鑑み、兩國はポーツマス條約の將に成らんとする頃、同盟を改訂して、大いにその効力を擴張した。

また明治四十年に、我が國は、フランス・ロシア二國とも協約し、東洋の平和を維持するため、清國の獨立と、その領土保全、並びに清國に於ける列強の商業上の機會均等を尊重すべきことを約し、更に合衆國とも、互に外交文書を交換して、極東平和維持について努力した。然るに四十三年に、合衆國は滿洲に於ける鐵道をば、新に國際經營に移管せんことを提議した。この時、我が國とロシアとはこれを斥け、これを機として兩國の親善は益、加はり、同年七月に至り、更に第二回の日露協約が成立した。かくして日清戦役以來、極めて不安であつた極東の國際問題は、我が國の儼然たる存在を中心として、すべて解決

第二回日英同盟は、第一回に比して異なる所は、(一)日本の韓國に於ける、英國の印度に於ける優越權の承認(二)攻守同盟となり(三)地域を極東から更に印度にまで擴張した第三回の同盟は、日米戰爭の隙が、高き、その實際に英國が責任を免れ、總括的仲裁裁判條約を結び居る國との交戦の際に助くる義務なき箇條を挿入したので同盟が片務的となつた。

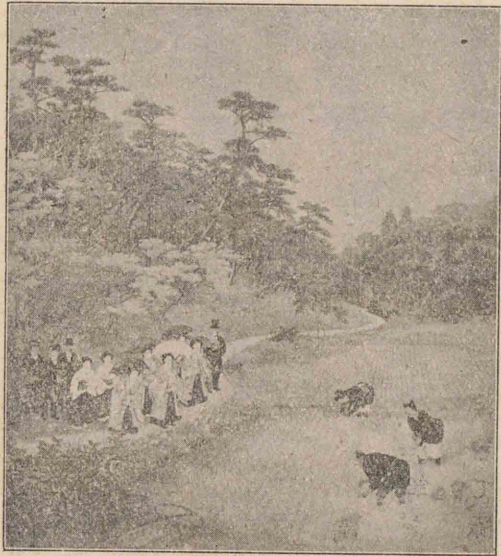
經濟界の發達

領土擴大と産業發達

農業の發達

工業の發達と産業革命

せられ、清國並びに列強との國際關係は、益、親善を加へるに至つた。戦役によつて、領土の擴大、及び經濟的利權の獲得があつて、新なる市場と富源とにより、農業、林業、水産業、鑛山業等の諸産業は、著しく發達した。

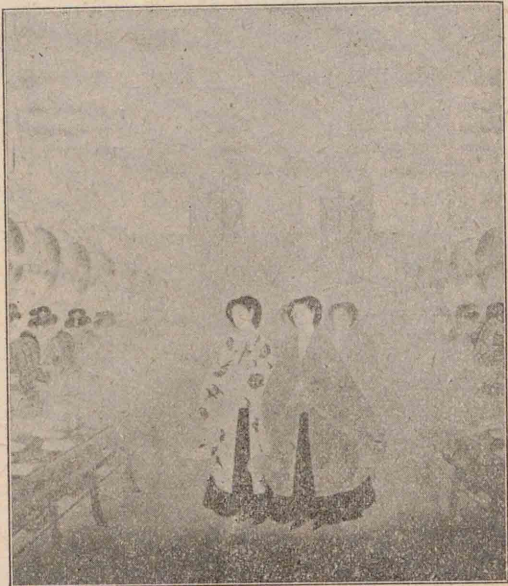


皇太后宮田植御覽
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

農業は、政府の保護獎勵の下に、耕地整理の實施、並びに歐米の技術及び科學の輸入によつて、品質の改良と、産額の増加の上に大なる進歩をなした。併し産業中、就中、日露戦役の後より、最も顯著な發達を遂げたのは工業である。工業は、初め手工業から機械工業に進み、自然科学の發達によ

内國商業及び海外貿易の發達

金本位制の確立



富岡製絲場行啓
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

り、蒸氣、電氣を動力として、一般に大工場工業として發展し、分業制の發達と俟つて、大量生産をなし得るに至り、所謂産業革命の現象を見るに至つた。そして紡績工業を始め、各種の工業が發達した。商業も從來は製成品を輸入し、原料若しくは半加工品を輸出してゐたが、漸次原料を輸入して、成製品を輸出するの傾向に變つた。これがために、外國貿易は一段と發達し、特に條約改正の結果、關稅の低下は、外國貿易の發達を一層促した。貨幣制度も、先きに銀を以て兌換する制は、銀の市價の變動甚だし

學藝の興隆
自然科學の
發達

西洋學術の
研究法の應
用

我が國の學
界の傾向

國民自覺と
文藝の思潮

き不便あるがため、本位貨幣に不適當であつた。偶、日清戰役の償金を充當して、銀本位より金本位制に變改した。これによつて、金融上一層安定を見るに至つた。

自然科學は、初め全く西洋に學んだが、この間に異常の發達をとげ、遂に先進諸國の學界に對抗するに至つた。特に醫學、物理學、化學、地震學、動植物學等については、幾多の世界的貢獻をなしてゐる。また新なる西洋學術研究法によつて、國學、史學等も新しい道程を辿り、我が國史の史料の蒐集、國史編纂は、國家事業として行はれるに至つた。かくて我が學界も、國家の保護獎勵と、専門教育の振興と、各種研究所の設立、各學界の組織などによつて、共同研究が盛に行はれるに至り、國際的の學術的會合にも加入して、世界學界に大いに貢獻するに至つた。

この時代に入つても、西洋文學の感化は益著しく、文學者は所謂藝

明治・大正時代の藝術



柴田是眞筆

茨木童子



河鍋曉齋筆

地獄變相圖



上圖
收穫
下圖
讀書



淺井忠作
黑田清輝作



不動明王圖
狩野芳崖筆



三井寺圖
橋本雅邦筆



伎 藝 天 竹 内 久 一 作

純文學の
機運

術のための藝術を標榜し、純文學が起る機運が生じた。尾崎紅葉と幸田露伴との文學は、森鷗外や坪内逍遙の西洋文學の紹介と共に著はれた。そして、國民の自覺によつて萌芽した個性の内觀は、文學思潮の上に大なる影響と變化とを齎らした。日清戦役の前後より、哲學に大西操山、文明評論に高山樗牛、俳諧に正岡子規、創作に國木田獨步等出て、文學は興つた。日露戦役の頃には、創作に夏目漱石が出て、和歌、俳句などにも革新の運動が起り、種々の主張が起つたが、當時の文學は、一般に自然主義的傾向が著しかつた。

文學各方
面の發展

美術工藝の
發達

繪畫の發
達

國粹保存の思想が、美術方面にも影響して、日本古來の諸流派の畫法の研究が旺となつて、畫壇は活氣を呈した。また西洋畫も二十六年の頃、黒田清輝がフランスから歸り、光線と色彩とに重きを置く新しい洋畫を傳へ、遂に二十九年には、東京美術學校に洋畫科が設けられ、新進の作家が漸く著はれた。更に高村光雲等を主として彫刻科

彫刻の革新

東西文化の融合
文部省美術展覽會

が設けられ、我が國固有の彫刻と、西洋風の技術とが融和されて、一段の進歩を促した。その他、建築、染織、並びに陶磁器、漆器等の製作も、何れも洋風を参酌して大なる進歩をなした。さればこの間に、美術工藝に關する各種團體が起り、大正十年からは文部省が主催して、毎年美術展覽會を開いて奨励したので、美術工藝の進歩、並びに一般國民のこれが鑑賞に對して、大いに程度を高めた。

國民生活類
慶の傾向と
戊申詔書換

國費の膨脹
と國債増加

國民生活の
頽廢
戊申詔書
下賜

國運の發展と、文化の進歩は著しかつたが、國費の膨脹も實に著大となつた。日露戰役の後には、我が國債は二十億を超過し、年と共に増加し、國家の財政は漸く憂慮すべきに至つた。そして日露戰役後、戰勝の榮光に酔うて、國民の間に浮華輕佻の風が旺となり、堅實な民俗風習の頽廢せる、嘆ずべき傾向が見えて來た。明治天皇はこれを痛く御軫念あらせられ、四十一年に戊申詔書を下賜になつて、國民上下心を一にして忠實業務に勵み、勤儉産を治め、荒怠相誡め、自疆息ま

慈善博愛事
業と皇室の
聖徳

社會生活の
變動と社會
事業

ざるべきことが、國運の發展を期し、列國福利を共にすべき所以を御諭しになつた。これは永く我が國民の歩むべき方途を御諭しになつたもので、教育勅語と共に國民精神作興の規範となるべきものである。

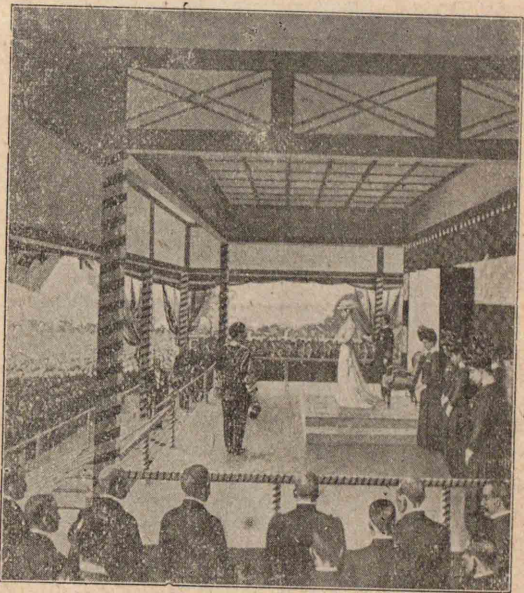
文化の發達と經濟の進歩とは、益、社會生活を複雑ならしめ、貧富の懸隔を大ならしめ、多くの不幸



東京慈惠醫院行啓
(明治神宮聖徳記念繪畫館壁畫)

なるものを生じた。これがため、戰時に於ける傷病者、平時に於ける貧困者、または鰥寡孤獨等に對し、各種の慈善事業が起り、幾多の社會事業も興つた。特に明治十年の西南の役に際し、佐野常民等が起した博愛社

日本赤十字社



赤十字社總會行啓
(明治神宮聖德記念繪畫館畫)

は、十九年に萬國赤十字社に加盟して、日本赤十字社と改稱した。そして益、その規模を大にし、日清・日露兩役等及び災害には、毎に活躍して救療に當つた。

また明治天皇は、四十四年に御内帑金を賜はり、無幸の窮民の施藥・救療の費に充てしめられたが、これを基金として、恩賜財團濟生會を創め、聖旨を奉戴することとなつた。尙この他に、慈善救濟事業は頗る多く、幾多の尊い社會事業が、官公私立の諸團體によつて企てられた。

第四節 大正時代

濟生會
その他の社會事業

國際上國威の發揚と地位の向上
●世界大戦と我が國

世界大戦と我が國の參加の理由

世界大戦中の我が國の事績

パリ講和會議

大正時代には、明治時代をうけて、我が國運は更に揚つた。明治時代に於て、我が國は漸次國際的地位が向上して、世界の強國として、東西の平和保持の重鎮となつた。然るに大正三年六月、世界大戦勃發し、その國際的活動は東洋にも及んだ。我が國は日英同盟の國際情誼に従ひ、ドイツに勸告して東洋の平和を保たうとしたが、應じなかつたので、遂に八月ドイツと國交を絶つた。

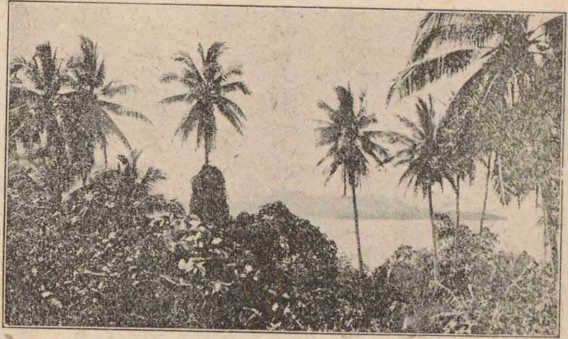
そこで我が軍は、イギリスと協同して膠州灣に迫り、青島要塞を陥れてドイツの極東策源地を奪ひ、更にドイツ領の南洋群島を占領して、太平洋上のドイツの勢力を全く驅逐した。ついて我が艦隊は、印度洋・地中海方面に出動して、聯合軍のために重要な貢獻をなし、一面赤十字社の歐洲戦線に於ける勳功も、顯著なものがあつた。

大戦が終局をつけ、パリ會議が開かれるや、我が國よりは、西園寺公望等を委員に任じて參列せしめ、イギリス・フランス・アメリカ・イタ

大戦役によ
る我が國の
所得

皇太子の
御渡歐と
歐洲諸國
御訪問

大戦後の
國際會議



南洋群島の風光

リヤの諸國と共に、五大國の一として、會議決定の樞機に參與し、ヴェルサイユ條約の調印によつて、平和が克服した。この條約によつて、我が國は太平洋上に於ける、舊ドイツ領植民地の中、主として赤道以北のもの、委任統治權を得た。またこの會議で規定せられた國際聯盟に加盟し、常任理事國として、世界平和のため重大な地位を有するに至つた。

その後十年三月、皇太子裕仁親王は、御渡歐遊ばされ、イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、イタリアの諸國を御巡遊になり、公式に各國の元首を御訪問遊ばされ、親睦を重ねられたことも、我が國の國際的地位を高めたことは大であつた。

更に大戦後、國際不安は依然去らず、十年、合衆國大統領ハーチング

ワシントン
會議

主力艦の
制限比率
四國協約
九ヶ國條
約

國民生活の
國際化

が、海軍の軍備制限、並びに極東太平洋の平和に關する國際會議を、ワシントンに主催するに當り、我が國は使節を派遣し、イギリス、フランス、イタリア等、諸國の委員と協議した。そしてこの會議で、各國海軍主力艦並びに潜水艦を比率によつて制限し、我が國は主力艦に於て、英米に對し六割、五・五・三の比率を有することとなつた。また太平洋問題については、日英米佛四國協約を結んで、平和を圖ることとして、日英同盟は廢棄された。また別に支那の領土、主權の尊重に關して、九ヶ國條約が結ばれた。かくて我が國は、英米と比肩して、世界三大海軍國となつた。併しこの時とられた、比率主義に基づく軍備制限の方式については、我が國の不利なる點が多かつたのであるが、關係各國の國際正義に期待し、世界平和のために承認した。

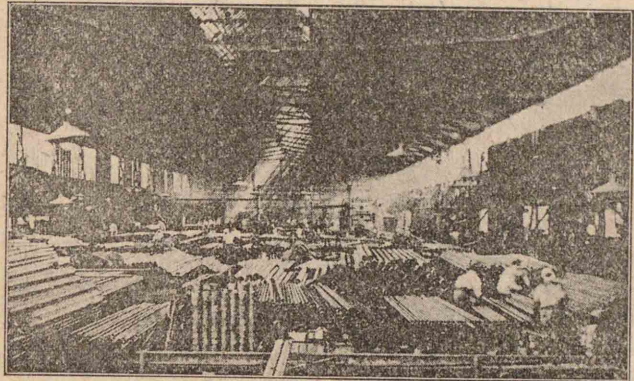
かくて世界大戦、並びに戦後に於ける國際會議を通じて、國威の發展せると共に、國際關係も一段と緊密となり、國民生活は、一層國際的

經濟の發達

工業の發達
と産業革命

色彩を濃厚にするに至つた。

大正時代に入りても、交通機關の發達、更に金融及び幣制發達等により、政府の保護政策と相俟つて、農業、蠶業、林業、水産業、鑛業等、各種生産業の進歩は著しく、就中工業の發達は最も顯著であつた。紡績織物、造船等の機械工業は、世界大戰後、更にこの機運が盛大となり、大工場が續々建設されるに至つた。かくて大正末年までに、會社の數は約一萬、工場數は約五萬を超過し、資本金は五十億、職工數は約二百萬に達せんとする形勢を來した。かくて製鐵、機械、紡績、造船、並びに各種の化學工業など、空前の大發展を遂げ、その製品は世界各地の市場に於て、歐米諸



(業工管鋼) 部内の業工代近

大工業國

國の製品と優劣を競うて、堂々世界屈指の大工業國となり、輸出を増加した。

商業貿易の
進展
外國貿易の
盛運

かくの如く生産業の發展と共に、通信、交通機關及び金融機關の發達により、商業も進展し、特に外國貿易の發達は最も著大であつた。明治四十年には、我が貿易額は約十億圓に達したが、世界大戰が始まるや、金の輸出を禁止し、保護獎勵と統制とのため、海外貿易の發達は目ざましく、大戰中の我が収益は、二十億圓に及んだ。そして大戰後の大正十五年には、約四十七億の貿易額に達した。併し貿易は、年々輸入超過の形勢を致し、大戰後は特に著しく、年々四億を出入し、關東大震災の翌年の如きは、入超過に七億に及び、國際經濟上樂觀しがたきものがあつた。

我が國に於ける産業革命の影響は、大戰後に、特にその傾向が著しくなつて、社會問題が起つた。歐洲では、既に十九世紀の中頃にこの

外國貿易と
大正大震災

社會問題の
發生と社會
政策

産業革命の
影響

労働争議
小作争議

人口問題

失業者問
題その他

政府の社會
政策

現象が旺に現れた。即ち機械工業大工場工業の盛になるに伴うて、労働争議が續出し、農民の間には小作争議が起るに至つた。これ等の社會問題は、漸く朝野識者の憂慮する所となつた。

またこれと共に、人口増加は著しく、大正の末年には、植民地を合して我が人口は八千萬を算し、しかも年々内地のみで、約七八十萬の増加を見るので、人口の密度は漸次稠密となつた。そして、都市人口集中の傾向は著しくなり、労働問題と共に、人口問題、並びに都市に於ける失業者の救済、地方に於ける農村疲弊の救済等、何れも重要な社會問題となつた。

政府も、かかる社會問題に直面し、政治の手段によつて、これを解決せんとし、或は工場法を制定して、労働者の保護を計畫し、或は職業紹介所を、各所に設置して失業救済の事務に當り、或は小作調停法労働争議調停法などを制定して、種々の社會政策を實施した。また一面

思想問題と
その弊害

外國思想の
流行

外國思想と
國民生活

社會主義

官公私各方面で慈善事業が計畫せられ、社會政策と相俟つて、著々社會生活の改善を圖ることとなつた。

大戦後、國際生活の密接となつた結果、我が國民は、またも外國思想の強い感化を受けた。大戦後、戦争に對する反動から、世界をあげて自由主義、民主主義の思想が盛となつて、この思想は我が國にも輸入せられ、政治、教育、文藝のすべてを通じて、一時上下を風靡した。

もとのこの思想は、西洋の個人主義、自由主義に基づくもので、我が國固有の國民思想とは相容れぬ點があり、我が家族制度とも背反してゐる。これ等は國際的思想を養ふには適する點あるも、我が國民的觀念と相容れないで、延いて、我が國體觀念を輕んずるが如き弊を生じた。

また一方に、社會問題解決のために起つた、社會主義の思想と關聯して、思想界に勢をもつた、マルクスの社會主義の思想は、ロシヤの勞

共產主義

政府の政治的對策

文化の發達

自然科學の研究

美術の發達

農共產主義の思想と關聯して、世界を風靡し、我が國にも傳播した。この思想に至つては、全く我が國家國體と相容れぬもので、經濟上社會問題と結び實際化せんと計畫するに至つては、實に寒心に堪へざるものがあつた。政府は、極力嚴重にかかる極端なる思想を取締ると共に、種々積極的に、思想善導の方法を講じ、國民も舉つて相警めた。この間に我が文化の發達は、顯著なものがあつた。明治時代を通じて、我が自然科学並びに人文科學は、長足の進歩をなして來たが、特に大戦中、學問獨立の聲が起つて、醫學及び理學の發達は實に目ざましく、世界的の大研究が續々發表せられ、學界に貢獻した。

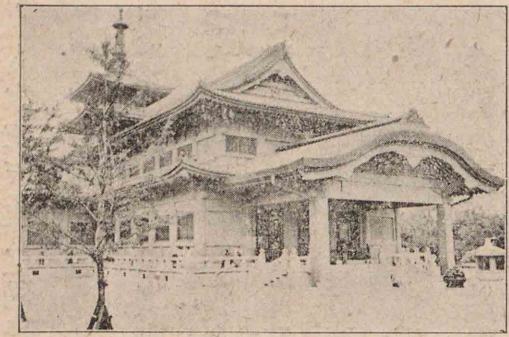
美術は、繪畫彫刻・建築工藝の各般に互つて、我が固有流派の大成、並びに西洋の技法の參酌によつて、革新の風を生じた。特に西洋風の個性表現の甚だしき、印象派・立體派・未來派・表現派などいふ、流派をも見るに至り、東西美術の融合の事實が、著しくなつた。

大正大震災と國民生活の變動

文學の發達

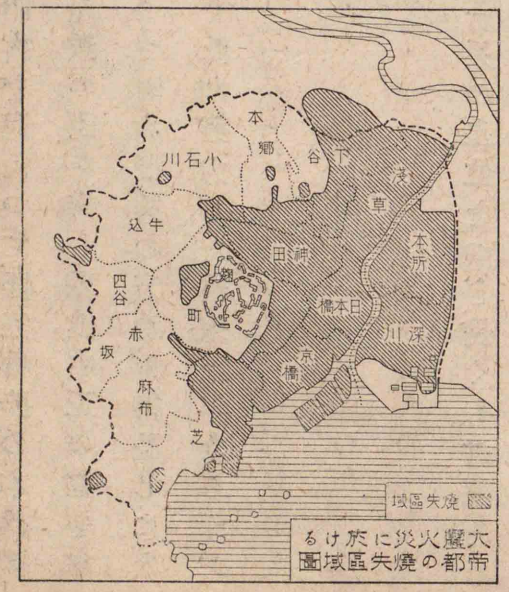
また文學上で特に著しきは、時勢の反映として、個性の内觀に基づく表現が一層寫實的となり、純文學の他に、大衆文學の傾向も興りかけ、更に社會問題と關聯して、階級意識に基づく、文學の發生などであつた。そして文學を通じて、西洋新思想の紹介が賑やかであつた。

大正十二年九月、關東地方に大震災火災が起り、その損害は實に五十億圓に達した。この事變に際し、我が國民は大衝動を感じた。この時、畏



震災記念堂

億圓に達した。この事變に際し、我が國民は大衝動を感じた。この時、畏



大震災火災に於ける被災区域の都府

國民精神作興の詔書
國民の復興の精神

くも大正天皇は、國民精神作興の詔書を賜はつて、國家興隆の本は國民精神の剛健にありと宣せられ、詭激の説を排し、穩健中正の道を尊び、浮華を去り、質實剛健の風を養つて、國力振興の方途を御諭しになつた。國民も聖旨を奉戴して、克く精進努力した結果、數年ならずして災害の復興を見るに至つた。

第八章 國民の覺悟

日本精神とその發露

御歴代傳統の御精神

歴代の天皇は、神勅により、萬世一系の皇位をつぎ、畏くも君徳を磨かせられ、常に皇祖皇宗の遺訓により、時勢に即し、時代に適した政治改革を行ひたまうた。即ち教育勅語、戊申詔書、國民精神作興詔書等により、國民教化の大方策を授けさせられた。また皇室傳統の民本愛民の御精神を以て、毎に國民に聖徳を垂れさせられ、國民はよく神勅を尊び、御歴代の聖徳に應じ奉りて、大義名分、順逆の道を以て、臣道

日本精神

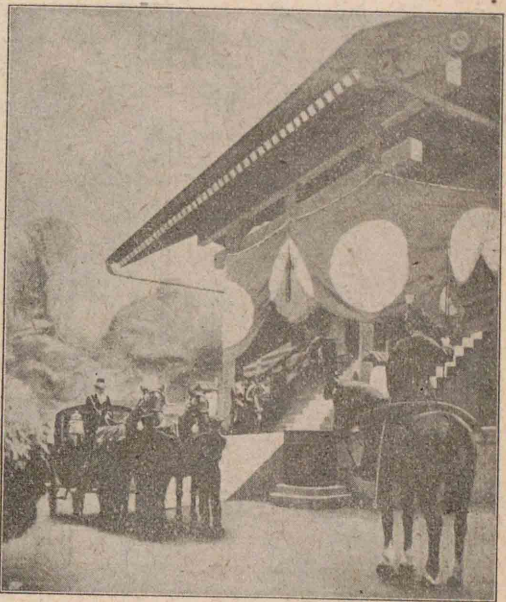
國史の成跡と國體の本義
國史の展開と日本精神の發露
政變



神宮親闕
(明治神宮聖德記念繪畫館壁畫)

の本となして來た。かくて皇室を中心とする、我が國民一體の精神こそ、我が國民生活に於て最も固有なもので、これが實に日本精神である。この精神は、古今を通じ、將來に互つて一貫せるもので、時代に應じ、時勢に即して發露し、各時代の政治、外交、經濟、及び文化を支配する時代精神の基調となつて、我が國史の成跡をなすものである。ここに我が國民生活の特質が存することは、國史に徴して明瞭に理解される。かくて我が皇室と國民との間に交はされたる、麗はしき關係は動かしがたきものである。我が國史に見ゆる大政變なり、大革新があ

武家時代の尊王



靖國神社行幸
明治神宮聖德記念繪畫館壁畫

國難克服

に際しては、何時も國民上下一致して、學國の實を揚げて國難を克服した。これ等の事實は、我が國體の本義の展開せるものであつて、日本精神の發露せるものである。
もと我が國民固有の文化は、その精神方面と潜在性とは、共に豊かなものがあつたが、造形的方面は極めて程度が低かつた。されば早

我が國民文化の發達とその特質

國民文化發達の要素

異常の進歩

東洋文化の集成

自然科學の發達

人文科學の發達

くから、支那・印度の文化を攝取して、固有文化を培ひ、独自の文化を發達せしめた。更に維新後、盛に西洋の物質的文化を輸入し、その長を採つて近世文化發達に精進し、異常の進歩發達を遂げ、國力の發展と共に世界の驚異となつた。



野口英世

既に東洋文化に關しては、儒教・佛教・藝術のすべてにわたり、その精華を集め、我が國民生活を基調として、更に大成した。また西洋物質文化も急激にとり入れ、早くも西洋模倣の域を脱して、まだ完全な同化に達せずと雖も、獨創の域に達せんとしてゐる。自然科學にあつては、科學の獨立の域にまで達し、幾多の科學的大發見と、世界的大家を輩出せしめ、萬國動力會議その他種々の學術會議を主催し、漸く先進國と肩を比するに至り、科學日本の名も著はれて來た。また人文科學に

國民文化の
國際的進出

關しても、最近の進歩は著しく、漸く從來の専門的學風と共に、新なる體系によつて、綜合的研究も盛に興るに至つた。
從來殆ど顧みられなかつた東洋文化に對し、西洋人も最近に至つて、漸くこれが眞價を解し、我が古代文化の優秀に對して認識し、現代の我が美術、工藝、音樂等の、國際的進出も、近年著しくなつた。特に新興日本の、精神的文化の研究に對する、西洋人の關心は高まり、個人主義と物質文化を基調とせる、精神文化の特質に對し、東洋文化の特質を、明らかに認識せしむるに至つた。

現下に於ける我が經濟
と社會政策
經濟不況と
恐慌

緊縮政策

世界大戰の反動と大震災の影響によつて、我が經濟界は漸次不振になり、やがて昭和二年に經濟恐慌が襲來した。併し政府は銳意その善後策を講じて、財界を安定した。
かくて年々我が財政は膨脹し、國際貿易は輸入超過を告げ、國家財政は憂慮すべき情勢にあつたので、政府は緊縮政策を遂行して財政

國民生活
の節約
金輸出禁
止
解 禁

再禁止

我が國際的
地位の向上
と我が國是

國際會議と
國際的地位
の向上

の縮小を期し、國民生活の節約を奨励し、更に大戰中に金の輸出を禁止したが、五年一月にこれを解禁し、國際貿易上、我が國の面目を立てた。かくて財政上、益、緊縮政策を徹底して、財政上の危機を脱せしめたが、緊縮政策により、不景氣は漸次深刻化し、且、連年の輸入超過により、正貨の海外流失の現象は、憂慮すべきものがあつた。ここに於て政府は、海外の經濟状態に鑑みて、再び金の輸出禁止をなすに至つた。
パリ會議では、我が國は五大強國の一として、會議指導の要樞に立ち、國際聯盟では、常任理事國として、聯盟統制の重任に當り、またワシントン會議では、イギリス、アメリカ合衆國と共に、世界三大海軍國となつた。その後昭和三年に、合衆國が主唱して、ジュネーヴにて海軍補助艦制限に關し、會議を開くや、我が國は使節を派して参加せしめ、會議は決裂したが、世界平和に對して誠意を披瀝した。ついて八月に、フランス及び合衆國によつて、不戰條約が提案され、國際聯盟規約

我が國の國際正義及び國際平和に對する關心

極東の我が地位の重大

滿洲事變と我が國際生活

を援用して、世界の平和を恒久ならしめんとするの議起るや、我が國も列國と共に、これにも參加した。更に五年海軍軍縮に關し、ロンドン會議が開かれるや、また使節を派遣して、イギリス・フランス・イタリア・合衆國と相會して、補助艦の制限について議し、我が國に不利益な條件なりしも、忍んで承認し、國際正義と世界平和のために盡くした。かくて我が國は、これ等の國際會議及び國際條約を通じて、その國際的地位は愈々重きを加へた。

そして特に極東に關する限り、我が國は何所までも、その平和を保持することをもつて、我が國是となし、使命となした。されど近時世界大勢の推移と、極東形勢の變轉に伴ひ、我が使命は愈々重大となつて來た。

隣邦支那は、中華民國建設以來、最近に至つて、蔣介石の下に南京政府の支那統一の業は進められて來たが、まだ戰亂が絶えず、しかも我

我が國の國際環境
支那
ロシア

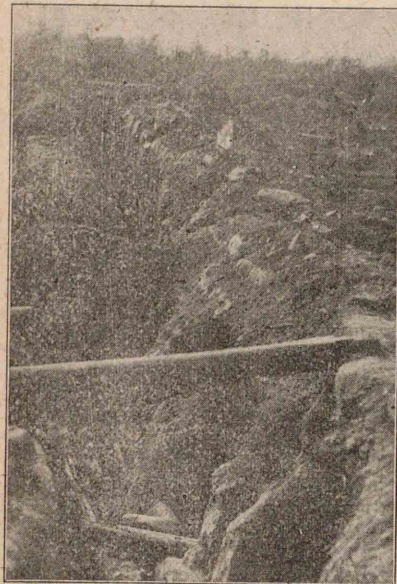
アメリカ合衆國
イギリス

世界外交の中心

滿洲問題と我が國の態度

が國との國交はとかく圓滿を缺いた。北隣ロシアは、勞農政府が共產主義に基づいて、その宣傳を事とし、且、滿洲・蒙古・極東にその勢力を張らんとするがため、極東の平和は不安を感じるに至つた。

更に我が國は、太平洋を中にして、東に合衆國と相對し、また南に、イギリス・フランスの勢力を控へ、これ等は何れも極東に經濟的・政治的勢力を張らうとしてゐる。されば大戰後、太平洋支那・滿洲・蒙古は正に世界外交の注視の焦點となるに至つて、我が國際的地位は全く重大を加へた。



廟行鎮の戰跡

大を加へた。

偶、滿洲事變が勃發するや、我が國と支那との國際關係は、極めて險惡となり、且、滿洲問題に關し、或は國際聯盟規約・不戰條約、並びに九國條約の適用に關

滿洲國承認
國際聯盟
脫退

聯盟脫退後
の國際關係

國際經濟會
議の決裂

して、遂に國際聯盟に於ける大問題となつた。併し我が國は、あくまで正義を持ち、滿洲を我が生命線とし、且、滿洲國の獨立をもつて東洋平和の基調とせんとの方策を國是とし、滿洲事變から派生せる上海事變にも、終始當初からの信念を一貫した。かくて我が國は、七年九月十五日正式に滿洲國を承認して、日滿議定書を締結した。

然るに事變發生以來、國際聯盟の態度は、全く極東の事情に通ぜず、偏見に拘はれて、我が正當なる見解を抑へんとしたから、我が國は遂に八年二月、國際聯盟脫退の決意を明らかにした。ついで三月二十七日、國際聯盟離脫の大詔を拜し、正式に聯盟を脫退した。

聯盟脫退後も我が國はよく聖旨を奉じ、國際和協を旨とし、六月ロンドンに開催された、國際經濟會議にも全權を派遣し、列國と協議せしめた。されどこの會議決裂の結果、各國間に於ける關稅障壁は、愈高められ、且、最近再び盛となつた各國軍備充實の熱と相俟つて、到る

詔書

朕惟フニ曩ニ世界ノ平和克復シテ國際聯盟ノ成立スルヤ皇考之ヲ憚ヒテ帝國ノ參加ヲ命シタマヒ朕亦遺緒ヲ繼承シテ苟モ懈ラス前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ

今次滿洲國ノ新興ニ當リ帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ健全ナル發達ヲ促スヲ以テ東亞ノ禍根ヲ除キ世界ノ平和ヲ保ツノ基ナリト爲ス然ルニ不幸ニシテ聯盟ノ所見之ト背馳スルモノアリ朕乃チ政府ヲシテ慎重審議遂ニ聯盟ヲ離脫スルノ措置ヲ採ラシムルニ至レリ

然リト雖國際平和ノ確立ハ朕常ニ之ヲ冀求シテ止マス是ヲ以テ平和各般ノ企圖ハ向後亦協力シテ渝ルナシ今ヤ聯盟ト手ヲ分チ帝國ノ所信ニ是レ從フト雖固ヨリ東亞ニ偏シテ友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス愈信ヲ國際ニ篤クシ大義ヲ宇内ニ顯揚スルハ夙夜朕力念トスル所ナリ

方今列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ帝國亦非常ノ時艱ニ遭遇ス是レ正ニ舉國振張ノ秋ナリ爾臣民克ク朕力意ヲ體シ文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ衆庶各其ノ業務ニ淬勵シ嚮フ所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ協贊邁往以テ此ノ世局ニ處シ進ミテ皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ普ク人類ノ福祉ニ貢獻セムコトヲ期セヨ

御名 御璽

昭和八年三月二十七日

時令時地
實業
政治
外交
軍事
財政
教育
文化
宗教
法律
政治
外交
軍事
財政
教育
文化
宗教
法律

處不安を感ずるに至つた。

かくて我が國は、國民の復興の意氣と、統制經濟爲替相場の格安とにより、近年我が工業品の進出は目ざましく、世界の市場を獨占するの勢を示した。されど各國の關稅障壁や、或は物品交換制などのために、至るところで發展を妨げられるの狀態となつた。

我が國は、從來ワシントン條約・ロンドン條約に關する規定をよく守つて來たが、世界情勢の變化と、列強の國家運動の大勢とに鑑みて、ワシントン條約廢棄を通告した。また十年に、ロンドンで開催された、海軍軍縮會議に於て、我が國は、軍縮の新法式として、各國が國防の安全感に基づき、攻撃的の武器の制限協定をなさんことを主張したが、イギリス・合衆國の二國が、あくまで比率主義を主張して、我を抑へんとしたので、我が國は國防自主の立場から、軍縮會議を脱退した。これがため、軍備協定に對しては、各國の間に無條約の狀態となつて

ワシントン
條約廢棄

ロンドン會
議脱退

極東形勢の不安増大

ロシヤの共產黨の抗日排日

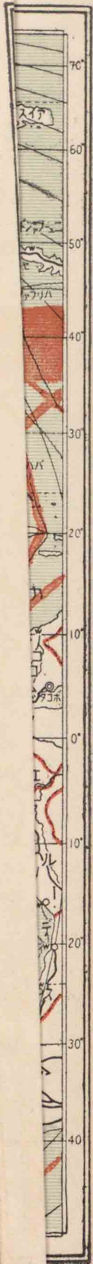
支那事變

あるので、列強は共に、海軍及び空軍建設につとめてゐる。この間、我が國にあつては、何所までも國際正義と和協とを趣旨とし、極東の平和を國是とし、ロシヤ並びに支那に對し、國交調整に努めた。されど勞農ロシヤの極東侵出の野望と、支那南京政府の侮日抗日排日の氣勢は日を逐うて熾んとなり、更に兩國の暗黙の提携によつて、支那は容共政策をとり、極東の形勢は頗る不安を加へてゐた。

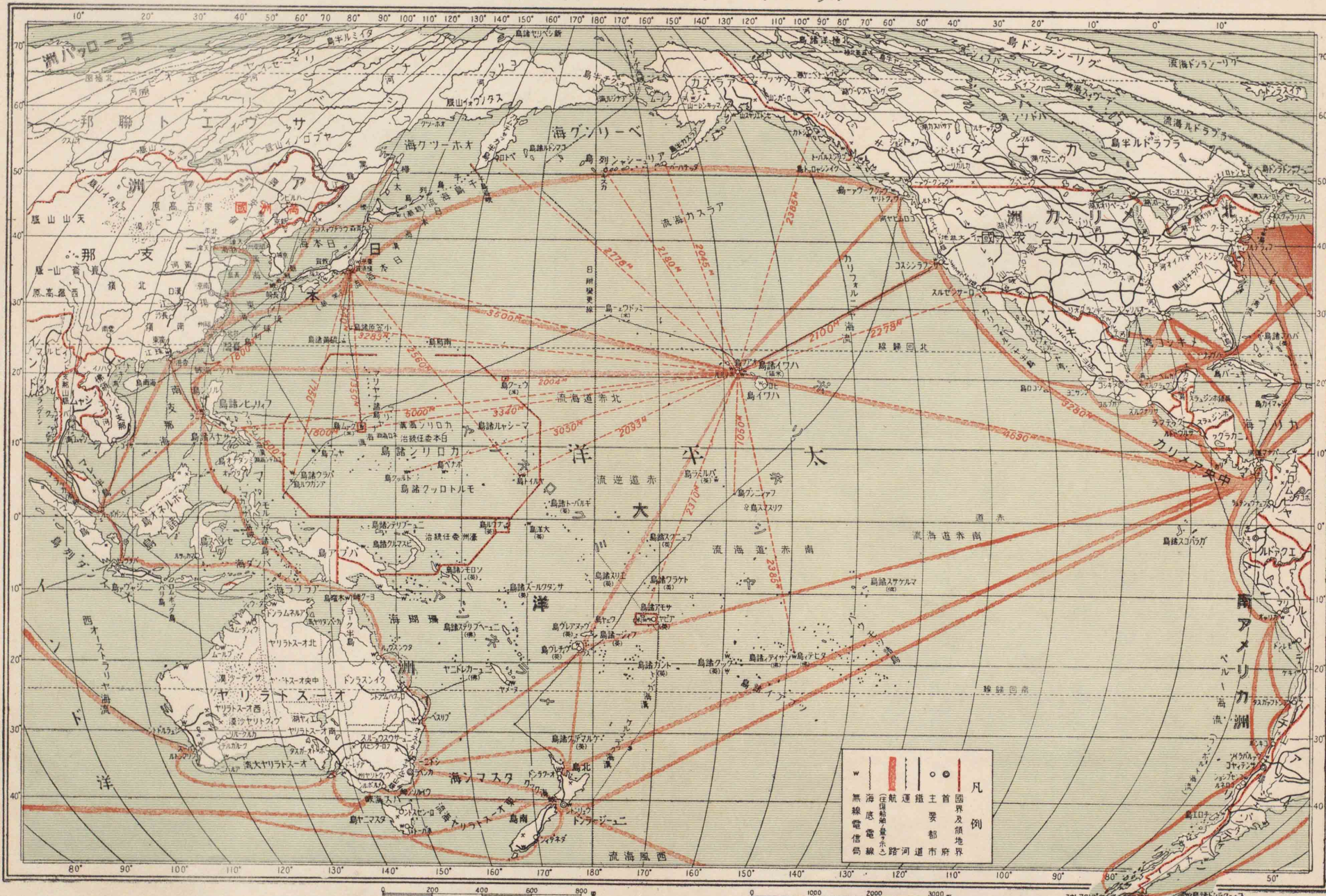
偶、十二年七月、北支那の蘆溝橋に於て我が駐屯軍に對し、支那軍が不法射撃をなすことに端を發し、遂に北支事變を惹起した。されど我が國は公正なる現地交渉事件不擴大の主義を支持したにも拘らず、南京政



抗日運動



太平洋形勢圖



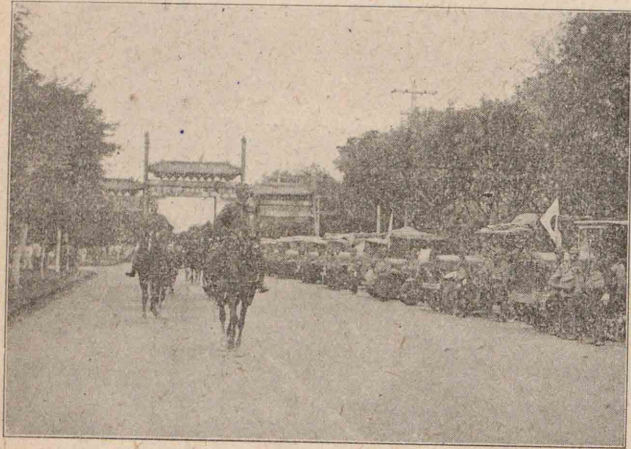
が駐屯軍に對し、支那軍が不法射撃をなすことに端を發し、遂に北支事變を惹起した。されど我が國は公正なる現地交渉事件不擴大の主義を支持したにも拘らず、南京政



支那事變

國民の覺悟

我が帝國の國是



皇軍の北北京入城

府は、列國特にロシヤの援助を恃み、幾多の協定を無視し、大兵を北上して抗爭した。それのみならず、南京政府は、更に停戰協定を破り上海に大軍を集結して、我が權益及び居留民の生命・財産を脅すに至つ

たので、我が國は屢その反省を促したが、應じないので、遂に出兵し、北支那のみならず、中南支の戰爭となり、支那事變となつた。

我が國は夙に東洋平和の確保を以て國是とし、支那に對し常に善隣の誠意をもつてその善導誘掖に盡力してきた。今次事變に際してもその本意は、眞に日滿支三國を打つて一丸とし、共存共榮を圖り、且世界の平和を紊し、

支那事變の
重大性
赫々たる
戦果

抗日容共
政權の打
倒

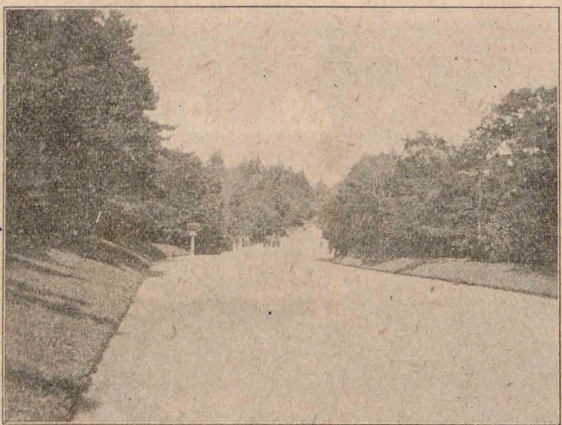
支那事變
の國際的
背後關係

人類文化を滅さんとする共產主義を絶滅して東洋の平和を確立し、かねて世界平和に貢献する尊い使命を果さんとするに外ならぬ。事變勃發以來、皇室の御稜威の下に戦線の將士の忠勇と銃後國民の支援と相俟つて赫々たる戦果を収め、世界戦史に新紀元を劃した。かくて南京を退いた國民政府も一地方政權たるの觀を呈し、これに代つて北支に中華民國臨時政府、中支に維新政府の樹立を見るに至つた。されど國民政府の抗日意識は實に根強く、東洋平和の確保のためには、その抗日容共の政權を徹底的に潰滅せしめねばならなくなつたのと、更にこれが背後に於て勞農ロシヤは軍事的に、イギリス・フランスは財政的に露骨に國民政府を支援し、アメリカ合衆國を始め他の諸國の向背も判然せざる、國際情勢に鑑み、今事變の前途は全く見透しがかず、動もすれば世界大戦を誘發する危惧さへ無しとせぬ。

長期抗戰の
對應策
國民精神
總動員

國家總動
員法

國民の覺悟



明治神宮參道

事變が長引くにつれ、國民の非常時局に對する認識は漸く深められ、聖戰の目的を達成するため、國民精神總動員は、あらゆる國民運動の上に強調せられ、且、政府は國家總動員法を法律化して非常時國家體制に處し、萬遺憾なきを期し、種々の方策を講じてゐる。

我等はよく事態を認識して、國家の統制に服従し、勤儉貯蓄、物資の節約等あらゆる經濟上の忍苦を覺悟し、長期抗戰に堪へて、聖戰の目的を達成しなければならぬ。古來國史上、我が國は幾度か非常な國難に遭遇したが、何時も皇室を中心とし、舉國一致して國難を克服し、却つて國運發展を致した。今や前古未曾有の國難に遭遇した

我等は、よく祖先の心を心とし、盡忠報國の一念をもつて雄々しく萬難を排除し、聖戰の目的を達成してこそ、眞に我が國史の成跡に相應しく、また聖慮に應へ奉り、皇運扶翼の臣道を果し得る所以である。

新制中學國史上級用下卷終

Handwritten notes in Japanese, including names like 中野芳房, 西子, 日中, 丸口, and dates like 昭和二十一年.

昭和昭和昭和昭和昭和
和和和和和和
十十十十十十
四四三三二二
年年年年年年
十十七七十七十
月月月月月月
十廿廿廿廿廿
六二八五
日日日日日日
訂訂訂訂訂訂
正正正正正正
發發發發發發
行行行行行行

新制中學國史上級用
價定
上卷 金六拾參錢
下卷 金壹圓拾貳錢

證印檢者作著



著者 渡邊世祐

發行者 東京市日本橋區本町四丁目二番地壹 合資社 六盟館

代表者 杉本敏治

印刷者 東京市芝區新橋六丁目七十四番地 中村勝藏

發行所

東京市日本橋區
本町四丁目二番地
電話茅場町四區(6)六三四八番 振替東京一二五五〇番
合資社 六盟館

五
十
七
日
未
禮



庫
9
18

広島大学図書
2000081618
[Barcode]